

PC 300 GL (6272/6282)

SA88-5859-00
(英文原典 : V84H-3402-00)

ユ-ザ-ズ・ガイド

PC 300 GL (6272/6282)

SA88-5859-00
(英文原典 : V84H-3402-00)

ユ-ザ-ズ・ガイド

電波障害自主規制 届出装置の記述

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づく第二種情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

注: この装置に第一種情報装置（商工業地域において使用されるべき情報装置）のオプションを取り付けて使用する場合、その装置は第一種情報装置として取り扱われます。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

高調波自主規制 届出装置の記述

Type 6282 は「高調波ガイドライン適合品」です。

お願い

本書をお読みになり、本書がサポートする製品をご使用になる前に、必ず117ページの付録C、『特記事項』をお読みください。

第 1 版 (1997 年 3 月)

原典: 84H3402
Personal Computer
Using Your Personal Computer
PC 300 GL (6272 and 6282)
発行: 日本アイ・ビー・エム株式会社
担当: ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 1997.3

Copyright International Business Machines Corporation 1997. All rights reserved.

Translation: Copyright IBM Japan 1997

目次

安全に正しくお使いいただくために	vii
絵表示について	vii
危険/注意ラベルの表示について	vii
レーザーの安全性について	xii
本書について	xiii
関連資料	xiv
本製品の識別	xv
モデル 6272	xv
モデル 6282	xvi
第1章 IBM パーソナル・コンピュータについて	1
IBM パーソナル・コンピュータが提供する機能	2
機能一覧	11
システム仕様	13
第2章 使用環境を快適にする	17
快適さ	17
反射と照明	18
空気調節	18
電源コンセントおよび電源ケーブルの長さ	18
第3章 本製品の使用方法	19
スイッチとインディケータの場所	19
本製品の始動	21
本体の電源を切る	22
マウスの使用方法	23
ディスク・ドライブの使用方法	24
CD-ROM ドライブの使用方法	29
オーディオ機構の使用方法	31
システム管理機能の使用方法	32
POST/BIOS の更新	33
第4章 日常の手入れ	35
基本事項	35
本製品を清掃する	35
電池を交換する	37

本製品を移動する	38
第5章 装置構成ユーティリティーの使用法	39
装置構成ユーティリティーの始動	39
装置構成ユーティリティーでの設定の表示と変更の方法	42
装置構成ユーティリティーの終了方法	43
オプションを導入した後に設定を保存する	44
システム構成を表示する	45
日付と時刻を設定する	46
キーボード速度を変更する	46
モニター設定値を変更する	47
シリアル・ポートの設定値を変更する	50
パラレル・ポートの設定値を変更する	51
プラグ・アンド・プレイ制御機能を変更する	52
パスワードの使用法	53
省電力機能の使用法	61
システム管理を設定する	64
ネットワークからの POST/BIOS の更新	70
第6章 問題解決	71
エラー・メッセージ	72
自己診断テスト	73
オプション・ディスクレットからのファイルの導入方法	104
TSR プログラムの管理	104
内蔵イーサネット特有のエラー・メッセージ	105
第7章 ヘルプ、サービス、および情報の入手	109
問題の解決	109
カスタマー・サービスおよびカスタマー・サービスの入手	109
資料の発注	109
付録A. 製品に関する記録	111
識別番号	111
装置に関する記録	112
付録B. ライセンス情報	115
プログラム名	115
追加条件	115
プログラム・サ・ビス	116
保証	116

その他	116
その他の追加条件	116
付録C. 特記事項	117
索引	119

安全に正しくお使いいただくために

本製品を安全に正しくご使用いただくために、このマニュアルには安全表示が記述されています。このマニュアルを保管して、必要に応じて参照してください。

絵表示について

本製品を正しくご使用いただき、あなたやほかの人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、このマニュアルおよび本製品への安全表示については、以下の絵表示をしています。

 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性がある危険が存在する内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

危険/注意ラベルの表示について

本製品の外部または内部に黄色地に黒文字で表示されているラベルがあるときは、安全上に関しての危険または注意ラベルです。必ず表示の指示に従ってください。

このマニュアルに記述されている以外に、危険または注意ラベルによる表示があるときは（たとえば製品上）、必ずそのラベルの表示による指示に従ってください。

危険

この機器の中にある電源のカバーは開けないでください。内部には高電圧部分があり危険です。

この機器を改造しないでください。火災、感電のおそれがあります。

CD-ROM のドライブ・カバーを開けないでください。
「レーザーの安全性について」をお読みください。

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。タコ足配線をしないでください。火災、感電のおそれがあります。

付属の電源コード以外は使用しないでください。また、付属の電源コードをほかの機器には使用しないでください。火災、感電のおそれがあります。

電源スイッチやその他の制御部分をぬらさないでください。湿気があるとこれらの部品は壊れることがあります、電気による危険を招くことがあります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重い物を載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたりすると電源コードを破損し、火災、感電のおそれがあります。

コンピューターの構成に電話ケーブル接続、通信ケーブル接続、およびテレビのアンテナ線接続が含まれている場合、付近に雷が発生しているときは、それらのケーブルに触れないようにしてください。

万一、発熱していたり、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電のおそれがあります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから必ず抜いて、販売店または保守サービス会社にご連絡ください。

万一、異物（金属片、水、液体）が機器の内部に入ったときは、すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから必ず抜いて、販売店または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電のおそれがあります。

危険

電池について

本製品には、システム・ボード上にリチウム電池が使用されています。

電池の交換方法や取り扱いを誤ると、発熱、発火、破裂のおそれがあります。電池の交換には、IBM部品番号33F8354の電池またはメーカー推奨の同等の電池を使用してください。

交換用電池の購入については、お買い求めの販売店または弊社の営業担当までお問い合わせください。

電池は幼児の手の届かない所に置いてください。万一、幼児が電池を飲み込んだときは、直ちに医師に相談してください。

以下の行為は絶対にしないでください。

- 水にぬらすこと
- 100°C以上の過熱や焼却
- 分解や充電
- ショート

電池を廃棄する場合、および保存する場合にはテープなどで絶縁してください。他の金属や電池と混ざると発火、破裂の原因となります。電池は地方自治体の条例、または規則に従って廃棄してください。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に捨てないでください。

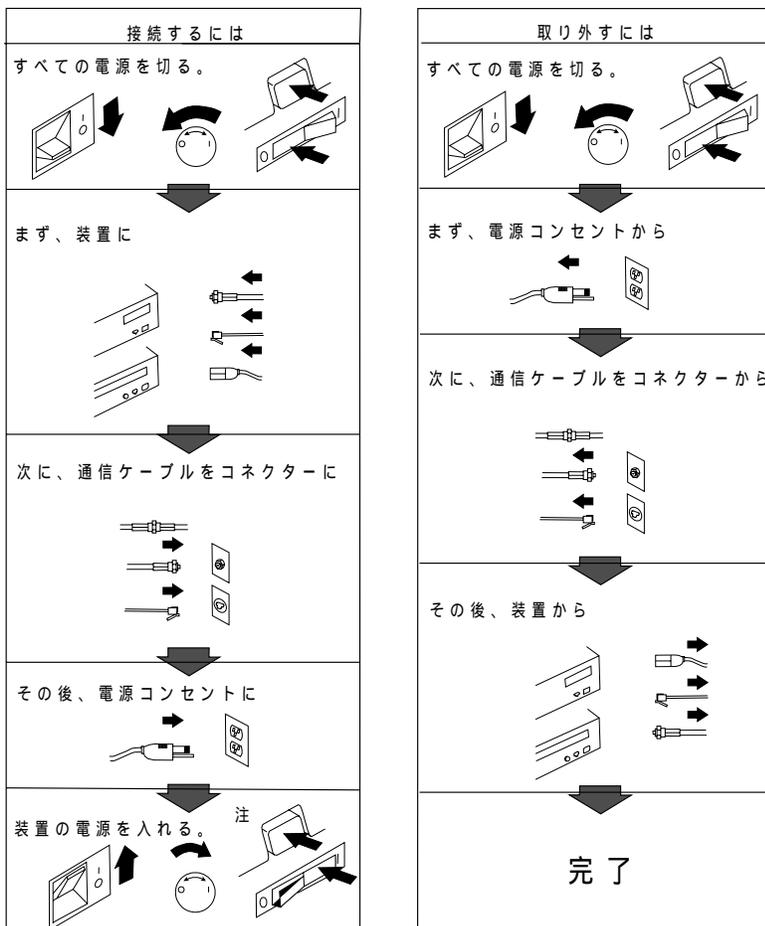
3 ピン電源プラグが設定場所の接地端子付きコンセントに合う場合は、付属の接地端子付き電源プラグは使用しないで、3 ピン電源プラグをそのままコンセントに差し込んでください。接地端子付き電源プラグは廃棄してください。3 ピン電源プラグが設置場所のコンセントに合わない場合は、付属の接地端子付き電源プラグをお使いください。緑色の線はアース用です。端子の絶縁物を外して専門の電気技術者によって施工されたアース端子に接続してください。ガス管への接続およびコンセントへの差し込みは大変危険ですので絶対にしないでください。アース線をアース端子に接続することにより、安全にご使用いただけます。なお 3 ピン電源プラグを持つコンピューターで使用することを前提にしているオプション・アダプター・カード（例：LAN アダプター・カード）は接地が必要です。

付属の接地端子付き電源プラグ以外は使用しないでください。また、付属の接地端子付き電源プラグをほかの機器には使用しないでください。火災、感電のおそれがあります。

⚠ 危険

ケーブル類の取り付け、取り外し順序。

電源コード、電話ケーブル、通信ケーブルからの電流は身体に危険を及ぼします。設置、移動、または製品のカバーを開けたり装置を接続したりするときには、以下のようにケーブルの接続、取り外しを行ってください。



電話ケーブル、通信ケーブルまたはテレビのアンテナ線を接続する製品は、雷の発生時にはケーブルの取り外しはしないでください。

注意

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。（必ずプラグを持って抜いてください。）

湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災、感電の原因となることがあります。

この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

本体を持ち上げたり、配置を変えたり、移動したりするときは、思わぬ怪我をしないように注意してください。重すぎるときは、ほかの人の応援を頼んでください。

長期間使用しないときは、電源プラグを AC コンセントから抜いておいてください。

レーザーの安全性について

IBM パーソナル・コンピューターの一部のモデルには、CD-ROM ドライブが搭載されています。CD-ROM ドライブはオプションとしても別売りされています。CD-ROM ドライブはレーザーを使用している製品です。CD-ROM ドライブは、Class 1 レーザー製品について規定している米国の Department of Health and Services 21 Code of Federal Regulations (DHHS 21 CFR) Subchapter J (保健福祉省連邦法規則 21 副章 J) に準拠しています。それ以外にもドライブは Class 1 レーザー製品の規格である国際電気標準会議 (IEC) 825 および CENELEC EN 60 825 に準拠しています。

CD-ROM ドライブがインストールされている場合は、以下のことに注意してください。

△ 注意

本書で指定された内容以外の制御、調整または手順を行った場合、レーザーの放射の危険があります。

CD-ROM ドライブのカバーを開けると、危険なレーザーを浴びる可能性があります。

CD-ROM ドライブの内部には、修理の対象となる部品はありません。カバーを開けないでください。

一部の CD-ROM ドライブは、Class 3A または Class 3B のレーザー・ダイオードを使用しています。次の点に、注意してください。

△ 危険：

CD-ROM ドライブのカバーを開けるとレーザーが放射されます。光線をみつめたり、光学器械を使って直接見たりしないでください。また、光線を直接浴びないようにしてください。

本書について

本書は、IBM パーソナル・コンピューターと、そのさまざまな機能に精通するのに役立ちます。本書は、コンピューターの構成、操作、および保守の方法を説明しています。万一問題が発生した場合に、問題を判別するのに役立つ情報、および本書に記載されている保守サービスを受けるための説明も示されています。

本書は、以下のような構成になっています。

第 1 章、「IBM パーソナル・コンピューターについて」は、本製品の機能の概要です。

第 2 章、「使用環境を快適にする」では、本製品の使用環境を最適化するための作業場所の設定について説明しています。安全上の考慮事項も示されています。

第 3 章、「本製品の使用方法」では、本製品の始動や終了、ディスクットや CD-ROM ドライブの使い方、システム管理機能の使い方など、本製品の日常の操作について説明しています。

第 4 章、「日常の手入れ」では、本製品の正しい扱い方と手入れについて説明しています。

第 5 章、「装置構成ユーティリティの使用法」では、構成手順について説明しています。

第 6 章、「問題解決」では、本製品の使用中に発生する可能性のある問題を識別し、それを訂正するのに役立つ情報を提供しています。

第 7 章、「ヘルプ、サービス、および情報の入手」では、本製品の使用を援助するために IBM から提供されているさまざまな援助について説明しています。詳細は別冊の「IBM サービスのご案内」を参照してください。

付録 A、「製品に関する記録」には、本製品に関する情報を記録するための用紙があります。これは、追加オプションの導入を決めた場合、あるいは本製品の修理を依頼することが必要になった場合に役立ちます。

付録 B、「ライセンス情報」には、ライセンス情報に関する情報が収められています。

付録 C、「特記事項」には、特記事項および商標に関する情報が収められています。

関連資料

本書の他に、以下の資料に本製品についての情報が記載されています。

セットアップ・ガイド

この資料には、本製品をセットアップするための手順が示されています。

オプション・ガイド

この資料には、メモリーや、アダプター、ドライブ、その他のオプションを本製品に追加するための手順が示されています。

解説書 (SA88-5861)

このオンライン資料 (ソフトウェアが初期導入済みの製品でのみ提供されます) には、パーソナル・コンピューターの使用方法についての一般的な説明と、本製品に特有な機能についての詳しい説明があります。この資料のハード・コピーをお求めになるには、別冊「IBM サービスのご案内」の「マニュアルのご注文」を参照してください。

初期導入済ソフトウェアについて

この資料 (ソフトウェアが初期導入済みの製品でのみ提供されます) には、初期導入済みのソフトウェア・パッケージに関する情報、およびサポート CD の使用方法が記載されています。

以下の資料には、本製品に関する追加情報が記載されています。この資料は、IBM にご注文いただくことによって、入手することができます。資料の購入方法については、別冊の「IBM サービスのご案内」の「マニュアルのご注文」を参照してください。

保守マニュアル (SA88-5727-06)

この資料には、専門知識のある保守技術者向けの情報があります。

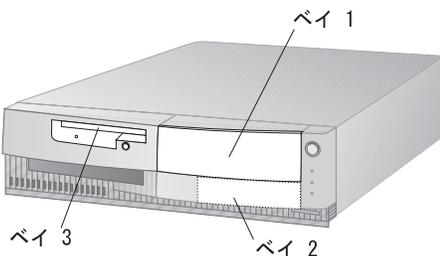
本製品の識別

本製品の識別には、モデル/タイプ番号を使用する場合がほとんどです。モデル/タイプ番号は、マイクロプロセッサのタイプや、デスクトップ型かミニタワー型かの区別など、本製品のさまざまな特徴を示すものです。この番号は、本製品の前面にある小さいラベルに表示されています。モデル/タイプ番号は、たとえば *6282-52J* などの番号です。

本製品のマシン・タイプは、6272 および 6282 の 2 種類があります。6272 は、拡張スロットが 2 つ、ドライブ・ベイが 3 つ装備されたモデルです。6282 は、拡張スロットが 4 つ、ドライブ・ベイが 4 つ装備されたモデルです。本書においてこれらのマシン・タイプは、区別する必要がある箇所でのみ使われます。これらの呼称を使わない説明は、本製品のすべてのモデルにあてはまります。

モデル 6272

カバーが付いていると、モデル 6272 ではベイ 2 が見えませんが、このベイはハード・ディスク・ドライブ用のもので、CD-ROM ドライブやディスク・ドライブなどの取り外し可能なメディアには使用しません。モデル 6272 には、以下の背面図に示すように、アダプター用の拡張スロットが 2 つあります。



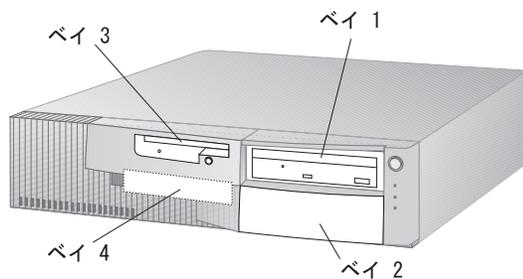
前面



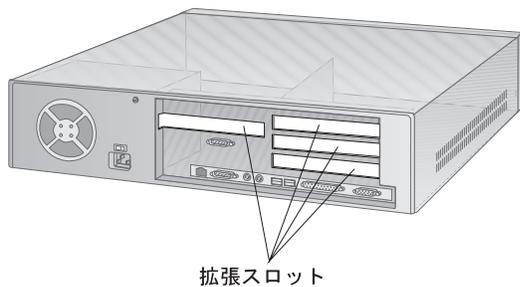
後面

モデル 6282

カバーが付いていると、モデル 6282 ではベイ 4 が見えませんが、このベイはハード・ディスク・ドライブ用のもので、CD-ROM ドライブやディスク・ドライブなどの取外し可能なメディアには使用しません。モデル 6282 には、以下の背面図に示すように、アダプター用の拡張スロットが 4 つあります。

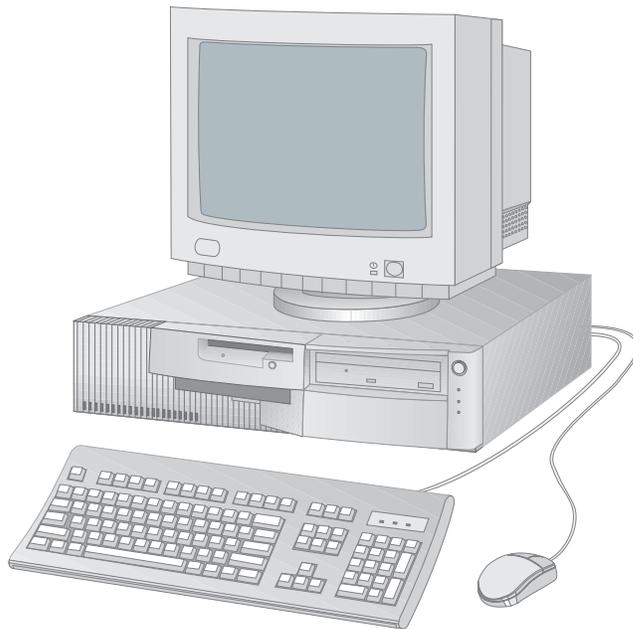


前面



後面

第1章 IBM パーソナル・コンピューターについて



このたびは、IBM パーソナル・コンピューターをお買上げいただき、ありがとうございます。本製品は、パーソナル・コンピューターの最新の先進技術を数多く取り入れており、ユーザーのニーズの変化に伴って拡張やアップグレードを簡単に行うことができます。

注: お手元のコンピューターは、上の図のものと異なる場合があります。

IBM パーソナル・コンピューターが提供する機能

この項では、本製品の主な特徴を説明します。

Intel Pentium マイクロプロセッサー

本製品の中核をなすのは、Intel Pentium マイクロプロセッサーです。この高性能なマイクロプロセッサーにより、複雑なプログラムを利用するために必要な処理速度と性能が実現されます。本製品のシステム・ボードは、133 MHz ~ 166 MHz¹ のマイクロプロセッサー速度をサポートしています。

システム・ボードは、MMX テクノロジーを使用した Pentium プロセッサーなどの、マイクロプロセッサーのアップグレードに対応するよう設計されています。将来、プロセッサー・アップグレードが利用可能になれば、アップグレードできる可能性があります。本製品で使用できるマイクロプロセッサー・アップグレードに関する最新情報については、お買上げの販売店または IBM 特約店にお問い合わせください。

システム・メモリー

本製品には、同期式ダイナミック・ランダム・アクセス・メモリー (SDRAM) が標準装備されています。また、EDO (Extended Data Out) ダイナミック・ランダム・アクセス・メモリー (DRAM) も使用できます。また、EDO メモリーと SDRAM メモリーは、両方ともシステムのパフォーマンスを向上する先進の技術を使用しています。

L2 キャッシュ

システム・ボードには 256 KB のレベル 2 (L2) キャッシュが標準装備されており、マイクロプロセッサーとシステム・メモリーとの間での情報交換をより高速にすることができます。

グラフィックス・サポート

本製品には、グラフィックス・サブシステムがシステムボード上に標準で実装されています。高性能なグラフィックス機能を実現するのは、Cirrus Logic CL-GD5446 64 ビット VisualMedia アクセラレーターです。このアクセラレーターで、ビデオの再生が可能です。さらに、本製品のシステム・ボードでは、最大 2 MB までのビデオ・メモリーが使用可能で、すでに 2 MB のビデオ・メモリーが標準装備されています。

¹ MHz は、マイクロプロセッサーのみの内部のクロック速度を表しており、他の要因がアプリケーションのパフォーマンスに影響する場合があります。

内蔵イーサネット・サブシステム

一部のモデルでは、高性能なネットワーク接続を可能にする 10Base-T イーサネット・コントローラーと RJ-45 コネクタを内蔵しています。内蔵イーサネットは、"Wake on LAN" や表示可能な MAC (媒体アクセス制御) アドレスのサポートに対応した、プラグ・アンド・プレイ・デバイスです。(詳細については、64ページの『システム管理を設定する』を参照してください。) イーサネット・サブシステム用のデバイス・ドライバーは、本製品に付属の サポート CD で提供されています。本製品に、ソフトウェアが初期導入されている場合は、デバイス・ドライバーは、すでにハード・ディスク・ドライブにインストール済みです。ネットワーク・ケーブルを本製品に接続する方法については、*セットアップ・ガイド* を参照してください。

システム管理機能

本製品は、ネットワーク管理者が本製品を遠隔から管理し、制御することを可能にする機能を搭載しています。この機能には、以下のものがあります。

LANClient Control Manager の使用が可能

リモート・プログラム・ロード (RPL) および動的ホスト構成プロトコル (DHCP) の使用が可能

Wake on LAN 始動の使用が可能

初期始動シーケンスおよび自動パワーオン始動シーケンス

ネットワークを介した POST/BIOS 更新の使用が可能

デスクトップ管理インターフェース (DMI) BIOS および DMI ソフトウェア

これらの機能については、32ページの『システム管理機能の使用方法』および 64ページの『システム管理を設定する』を参照してください。

オーディオ・サポート

モデルによっては、オーディオ・アダプターが標準装備されています。オーディオ・アダプターは Sound Blaster 互換で、オプションのゲーム・コントローラーや電子楽器を接続するための MIDI (Musical Instrument Digital Interface) を提供します。さらに、電源付きスピーカー、ポータブル CD などのオーディオ入力装置、およびマイクロホンに接続する 3 つのポートがあります。

ISA バス

本製品には、業界標準アーキテクチャー (ISA) バスが装備されています。ISA バスは、利用可能な入出力 (I/O) バスの中でもっとも広く使用され、定着しているものの一つです。ISA バスが広く使われている理由は、このバス用に設計された非常に種類のアダプターや装置が市販されているためです。

PCI バス

本製品は、周辺装置相互接続 (PCI) バスも採用しています。PCI は、マイクロプロセッサ・バスや最新の周辺装置の向上し続けるパフォーマンスに対応するための、先進のバス標準です。PCI バスは、ISA バスの機能をさらに強化し、コンピューター・システム内のマイクロプロセッサと周辺装置との間の情報交換の速度を高めます。

アダプターによる拡張

アダプターをインストールすることで、本製品の機能を拡張してさまざまな周辺装置やアプリケーションを利用することが可能になります。本製品は、ISA バスや PCI バスへのアダプターの接続にライザー・カードを使用します。

大容量ハード・ディスク・ドライブ

本製品には、拡張 IDE (EIDE) インターフェースを持つハード・ディスク・ドライブが標準装備されています。このハード・ディスク・ドライブは、SMART (自己モニター、分析、およびレポート技術) ドライブで、潜在的な問題を予測する能力があります。適切なソフトウェア・アプリケーションとともに使用すれば、SMART ハード・ディスク・ドライブはデータを保護し、信頼性を向上することができます。

CD-ROM ドライブ

モデルによっては、16X Max CD-ROM ドライブが標準装備されています。CD-ROM (コンパクト・ディスク読み取り専用メモリー) ドライブは、CD の情報の再生または読み取りを行って、大量の情報に素早くアクセスできます。コンパクト・ディスクには、音声や、動く画像、アニメーションなどに必要な大容量のファイルのような、650 MB 以上のデータを格納できます。

パラレル・ポート

本製品には、パラレル・ポートが 1 つ装備されています。パラレル・ポートは、パラレル・プリンターと通信するためにもっともよく使用されますが、他のパラレル装置との通信にも使用できます。

パラレル・ポートは、数種類のモードで動作可能です。本製品の省略時解釈 (デフォルト) モードは、標準パラレル・ポート (SPP) ですが、本製品は拡張機能ポート/拡張パラレル・ポート (ECP/EPP) モードもサポートしています。詳細については、51ページの『パラレル・ポートの設定値を変更する』を参照してください。

シリアル・ポート

本製品には、標準の 16550-UART シリアル・ポートが 2 つ装備されており、これらを使用してモデムやプリンターなどのデバイスを接続することができます。

ユニバーサル・シリアル・バス・ポート

ユニバーサル・シリアル・バス (USB) インターフェースは、パーソナル・コンピューターの多様性と機能をさらに強化する最新技術をベースにしています。USB コネクタが 2 つ装備されているので、最新の USB デバイスが利用可能になればすぐに利用することができます。

USB インターフェースは、プラグ・アンド・プレイを採用しているため、構成を自動的に行うデバイスを導入することが可能です。また、コンピューターの電源を切らずにデバイスの導入や取外しを行うことが可能です。さらに、ハブと呼ばれるオプションにより、複数のデバイスを一度につなげることが可能です。ハブは、1 つの USB コネクタを、USB デバイスを接続できる複数のポートに変換します。

注： 本製品は、キーボードやマウスの USB ポートへの接続はサポートしていません。

簡易操作機能

プラグ・アンド・プレイや、診断プログラム、システム管理機能などによって、コンピューターの操作がさらに簡単になります。

プラグ・アンド・プレイのためのサポート機能は、本製品のシステム・ボードに内蔵されています。この機能により、必要な資源が使用中でない限り、自動で構成を行うプラグ・アンド・プレイ・アダプターを接続可能です。ほとんどの場合、プラグ・アンド・プレイによって、スイッチやジャンパーを設定したり、従来型の ISA 資源を設定したりして、デバイスを手動で構成する必要がなくなります。

本製品に問題が発生した場合は、QAPLus/PRO という診断プログラムが、問題を引き起こしているハードウェア構成要素があるかどうか判別します。QAPLus/PRO 診断プログラムは、ディスクで提供されています。またサポート CD にも含まれています。

本製品がネットワークに正しく接続されれば、Wake on LAN や、RPL、DHCP などの先進のシステム管理機能が利用できます。詳細については、32ページの『システム管理機能の使用方法』を参照してください。

人間工学に基づいた機能

本製品は、より快適に使用できるように、人間工学に基づいた機能を搭載しています。電源スイッチやインディケータは、操作がしやすく見やすいように、前面パネルに配置されていま

す。さらに、画面のちらつきや揺れを抑えるためにモニターの設定を変更したり、楽に入力できるようにキーボードの角度を調節したりすることが簡単にできます。

初期導入済ソフトウェア

本製品の一部のモデルには、ソフトウェアが初期導入されています。このソフトウェアには、オペレーティング・システム、内蔵の機構をサポートするためのデバイス・ドライバー、およびその他のサポート・プログラムが含まれています。このソフトウェアについての詳細は、初期導入済モデルのみに付属の*初期導入済ソフトウェア*について、記載されています。

サポートされるオペレーティング・システム

本製品は、ユーザーの特定のニーズに合わせるために、さまざまなオペレーティング・システムを使用できるようになっています。初期導入済ソフトウェアとして提供しているオペレーティング・システムは、以下のものです。

Windows 95

さらに、以下のオペレーティング・システムが本製品でサポートされています。

IBM PC DOS J6.3/V

IBM DOS J7.0/V

日本語 MS Windows V3.1 (IBM 版)

Windows NT Workstation 3.51 日本語版

Windows NT Workstation 4.0 日本語版

OS/2 Warp V3 (V3.01),V4 - 日本語版

OS/2 Warp Connect V3 - 日本語版

Netware from IBM

省電力機能

エネルギー資源の保護が話題となっていますが、本製品はそれぞれの構成要素に対して異なるレベルの省エネルギー設定ができる、省電力 (APM) 機能を搭載しています。装置構成ユーティリティを使用して、APM の設定値の表示および変更ができます。

資産機密保護機能

IBM は、本製品用にさまざまなコンピューター機密保護機能を提供しています。これらの機密保護機能により、ハードウェアとソフトウェアの両方の保護が強化されます。以下の機能が利用可能です。

始動パスワードと管理者パスワードによる保護機能

始動シーケンス制御

ハード・ディスク・ドライブとディスク・ドライブのアクセス管理

ネットワークを介した POST/BIOS の更新機能 オペレーティング・システムの機密保護

パスワード保護機能: 本製品の機密保護を強化するために、パスワード保護機能が利用可能です。始動パスワードは、キーボードとマウスをロックして本製品を保護します。始動パスワードを使用する際に、3つのモードを選ぶことができます。さらに、管理者パスワードを使用して、本製品の構成の設定を保護することができます。詳細については、53ページの『パスワードの使用法』を参照してください。

始動シーケンス制御: 本製品の初期始動シーケンスと、自動パワーオン始動シーケンスを制御することができます。詳細については、68ページの『始動順序のデフォルト設定値』および69ページの『自動パワー・オン時の始動順序』を参照してください。

ハード・ディスク・ドライブとディスク・ドライブのアクセス管理: 本製品のハード・ディスクとディスク・ドライブへのアクセスを管理することができます。これらの機能についての設定にアクセスするには、装置構成ユーティリティを実行して、「システム・セキュリティ」を選択します。装置構成ユーティリティの使い方の詳細については、39ページの第5章、『装置構成ユーティリティの使用法』を参照してください。

ネットワークを介した POST/BIOS の更新: 本製品を適切に構成すれば、POST/BIOS の設定をネットワークを介して更新できます。詳細については、70ページの『ネットワークからの POST/BIOS の更新』を参照してください。

オペレーティング・システムの機密保護: オペレーティング・システムの中には、キーボードとマウスのロック機能のような機密保護機能があるものがあります。詳細については、オペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

サービスとサポート

本製品の修理に関するお問い合わせは、お買上げの販売店、または下記の IBM サービス・センター専用フリーダイヤルにご連絡ください。詳細については、別冊「IBM サービスのご案内」を参照してください。

・ IBM サービス・センター

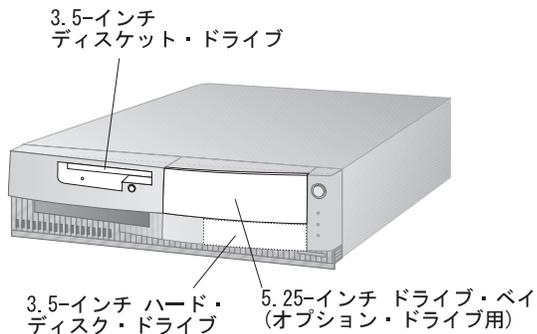
電話: 0120-20-5550

時間: 9:00 ~ 18:00 (日、祝日および 12 月 30 日 ~ 1 月 3 日を除く)

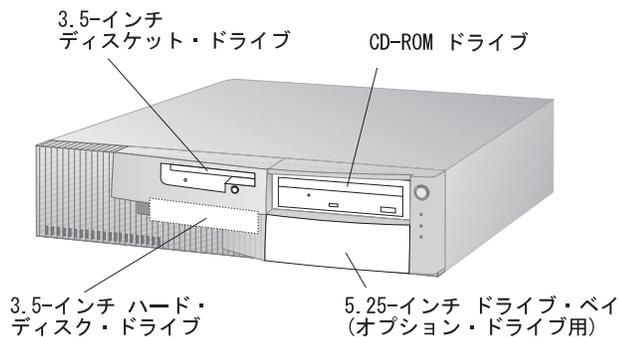
拡張性

システム・メモリーや、ビデオ・メモリー、ドライブ、アダプターなどを追加して、本製品の機能を簡単に拡張することができます。

ドライブ・ベイ: モデル 6272 には 3 つのドライブ・ベイがあり、モデル 6282 には 4 つのドライブ・ベイがあります。以下の図は、ディスケット、CD-ROM、およびハード・ディスクの各ドライブの場所を示しています。空いているドライブ・ベイを使用して、デバイスを追加インストールできます。

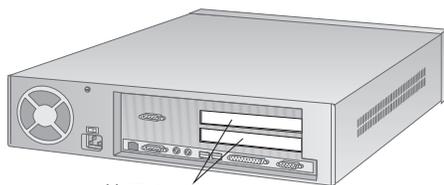


モデル 6272



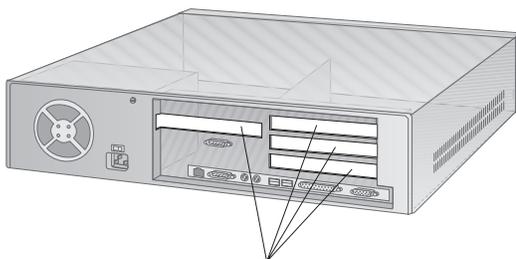
モデル 6282

拡張スロット: モデル 6272 には 2 つの拡張スロットがあり、モデル 6282 には 4 つの拡張スロットがあります。以下の図は、両モデルの拡張スロットの場所を示しています。空いているスロットを使用して、オプションのアダプターを導入できます。



拡張スロット

モデル 6272

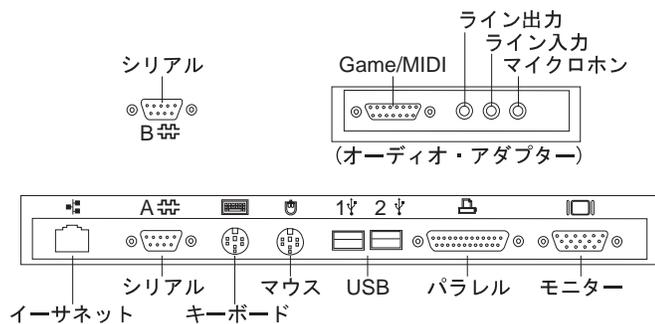
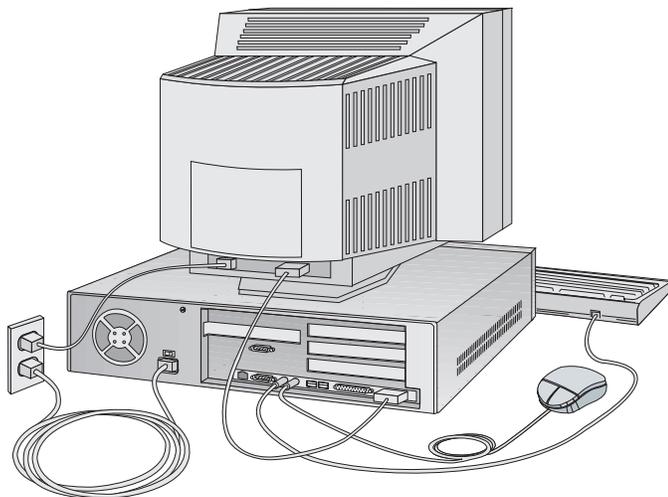


拡張スロット

モデル 6282

外部コネクタ

入出力装置に接続する外部コネクタの場所は、モデルによって異なります。イーサネット・サブシステムを内蔵しているモデルには、RJ-45 コネクタが装備されています。また、オーディオ・アダプターが導入されている場合は、拡張スロット内の入出力パネルの上にコネクタがあります。



注: 図のコネクタの中には、お手元のコンピュータにないものが含まれている場合があります。

機能一覧

以下の情報は、モデル 6272 とモデル 6282 の両方で利用可能な機能をまとめたものです。お手元のコンピューターに固有な機能のリストについては、装置構成ユーティリティの「システム構成」画面を参照してください。詳細については、45ページの『システム構成を表示する』を参照してください。

<p>機械設計</p> <p>6272: 3 ドライブ・ベイ、2 拡張スロット 6282: 4 ドライブ・ベイ、4 拡張スロット</p> <p>マイクロプロセッサ</p> <p>Intel Pentium マイクロプロセッサ システム・ボードは、133 MHz ~ 166 MHz の速度をサポート</p> <p>メモリー</p> <p>最大拡張可能: 128 MB (EDO の場合) 64 MB (SDRAM の場合) 2 つの 168 ピン DIMM ソケット (3.3 V) SDRAM モジュールまたは EDO DRAM モジュール (混在での使用可能)</p> <p>レベル 2 キャッシュ</p> <p>256 KB 装着済み</p> <p>グラフィックス</p> <p>CL-GD5446 64 ビット VisualMedia アクセラレーター内蔵 2 MB DRAM ビデオ・メモリー</p> <p>イーサネット・サブシステム (オプション機構)</p> <p>10Base-T 接続 RJ-45 コネクター Wake on LAN のサポート</p> <p>ディスク・ドライブ</p> <p>標準: 3.5 インチ 1.44 MB (3 モード)ドライブ 1 台 最大: 2 台 オプション</p> <ul style="list-style-type: none"> - 5.25 インチ 1.2 MB ドライブ - 3.5 インチ 1.44 MB ドライブ <p>ハード・ディスク・ドライブ</p> <p>標準: PCI バス・マスター EIDE ドライブ 1 台 6272 での最大: 2 台 6282 での最大: 3 台</p>	<p>拡張</p> <p>ISA/PCI 拡張スロットを持つライザー・カード プラグ・アンド・プレイ・サポート</p> <p>入出力機能</p> <p>ECP/EPP パラレル・ポート 2 つの 16550-UART シリアル・ポート 2 つのユニバーサル・シリアル・バス (USB) ポート モニター・ポート マウス (PS/2) ポート (マウスが付属) キーボード・ポート (キーボードが付属) イーサネット・ポート (標準装備の場合)</p> <p>電源</p> <p>6272: 85 W、100 V AC、50/60 Hz 6282: 145 W、100 V AC、50/60 Hz 過負荷保護およびサージ保護内蔵 省電力機能 Wake on LAN の使用が可能</p> <p>資産機密保護機能</p> <p>本製品のソフトウェアとハードウェアの両方にセキュリティ機能が提供されています。詳細については、6ページの『資産機密保護機能』を参照してください。</p> <p>システム管理</p> <p>LANClient Control Manager が使用可能 Wake on LAN のサポート タイマー・ウェイク・アップ ネットワークからの POST/BIOS の更新 DMI BIOS および DMI ソフトウェア</p> <p>IBM 導入済ソフトウェア</p> <p>一部のモデルには、オペレーティング・システム、内蔵機構をサポートするためのデバイス・ドライバ、およびその他のサポート・プログラムが初期導入済みです。導入済パッケージの詳細な説明については、<i>初期導入済ソフトウェア</i>についてを参照してください。</p> <p>サポートされているオペレーティング・システムについては、6ページの『サポートされるオペレーティング・システム』を参照してください。</p>
--	--

システム仕様

サイズ、重量、および発熱量の仕様は、モデルによって異なります。その他のシステム仕様は、6272 と 6282 の両方に適用されます。

サイズ

6272

- 奥行き: 400 mm
- 高さ: 95 mm
- 幅: 369 mm

6282

- 奥行き: 420 mm
- 高さ: 110 mm
- 幅: 440 mm

重量

6272

- 出荷時の最小構成: 6.80 kg
- 最大構成: 8.16 kg²

6282

- 出荷時の最小構成: 9.07 kg
- 最大構成: 11.3 kg²

² 最大構成重量は、実際にインストールされているオプション機構によって異なります。示されている数字は、一般的なオプション機構を完全に装備したシステムの場合のものであります。

発熱量

6272

- 英国熱量単位 (Btu) による 1 時間当たりの発熱量 (近似値):
 - 最小構成: 110 Btu (35 ワット)³
 - 最大構成: 273 Btu (80 ワット)⁴

6282

- 英国熱量単位 (Btu) による 1 時間当たりの発熱量 (近似値):
 - 最小構成: 120 Btu (35 ワット)³
 - 最大構成: 685 Btu (200 ワット)⁴

発熱量は、使用中のインストール済みオプション機構と電源管理オプション機構の数とタイプによって異なります。

環境

気温:

- システム電源オン時: 10° ~ 35°C (高度 0 ~ 914m)
10° ~ 32°C (高度 914 ~ 2134m)
- システム電源オフ時: 10° ~ 43°C

湿度:

- システム電源オン時: 8% ~ 80%
- システム電源オフ時: 8% ~ 80%

最大高度: 2134 m (7000 フィート)

³ 基本モデルでの最小ワット数は、エナジー・スター (EnergyStar) 要件を満たしています。

⁴ 最大発熱量の仕様は、システムの電源機構の最大容量に基づいています (6272 では 85 ワット、6282 では 145 ワット)。

電源

AC 50/60 Hz

電圧:

- 公称 100 V
- 容量 (概算)
 - 出荷時の最小構成: 0.08 kVA (6272/6282)
 - 最大構成: 0.30 kVA (6272/6282)⁵

定格⁶:

- 高調波ガイド・ライン適合品 (6282)
- 入力電力: 55 W (6272)
80 W (6282)
- 容量: 75 VA (6272)
105 VA (6282)
- 電源の回路分類: 42 (コンデンサ平滑単相ブリッジ・リアクトルあり)

エネルギーの消費効率:

- 30 W (6272/6282)

⁵ 最大電力、発熱量、容量は最大 85 ワット (6272)/145 ワット (6282)の電源の能力を基準にしたものです。

⁶ 高調波ガイド・ラインに対応する仕様表示です。

通風

約 0.56 立方メートル/分 (20 立方フィート/分)

音響ノイズ発生値

平均音圧レベル:

- オペレーターの位置:
 - 38 dBA (待機中)
 - 43 dBA (動作中)
- そばにいる人の位置-1 メートル (3.3 フィート):
 - 33 dBA (待機中)
 - 37 dBA (動作中)

表記上の (上限) 音力レベル:

- 4.8 ベル (待機中)
- 5.1 ベル (動作中)

これらのレベルは、米国規格協会 (ANSI) S12.10 および ISO 7779 で指定された手順に従い、制御された音響環境の中で計測されたもので、ISO 9296 に従って報告されています。

実際の音圧レベルは、部屋の反響や近くにある他の雑音源などのために、場所によっては表示された平均値を超える場合があります。表示されている音力レベルは上限を示しており、コンピューターの多くはこれより低いレベルで動作します。

第2章 使用環境を快適にする

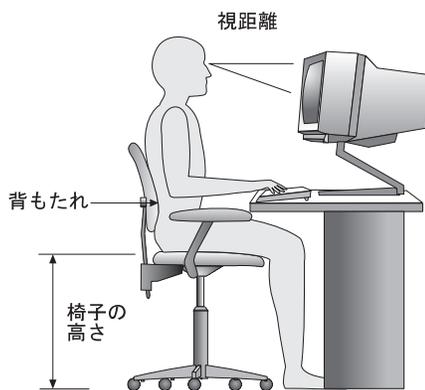
本製品を最大限に活用するために、作業内容や目的に合わせて装置および使用環境を調節します。快適に作業を進めることは最も重要なことですが、照明の位置、空気調節、電気ケーブルの位置によって、作業環境の調節が制限される場合もあります。

快適さ

快適な使用環境は、利用者によって異なるため、すべての利用者にとって理想的なひとつの決まった使用環境というものはありませんが、以下にいくつかの目安を示しますので、自分に最も合った環境を見付けてください。

同じ姿勢で長時間座っていると疲れてしまいます。良い椅子を使用しているかどうかによって、疲労の度合いはまったく違ってきます。背もたれと座部シートを別々に調節でき、しっかり支えてくれるものが良い椅子であるといえるでしょう。座部シートの前部はやや下に曲がるような形になっていて、ひざに圧力がかからないものにします。太ももが床と平行になり、足は床や足置きに平らにのせられるように座部シートを調節します。

キーボードを使用するときには、前腕が床と平行になるようにし、手首は無理のない楽な位置に置きます。キーボードには軽く触れるようにし、手と指の力を抜きます。キーボードの脚を調節して、一番使用しやすい角度にします。



モニターは、画面の最上部が目の高さかそれより少し下になるように調節します。モニターは見やすい距離に置いてください。通常、利用者とモニターとの距離は 50 ~ 60 cm です。また、体をねじらなくても見えるような位置に置いてください。

反射と照明

頭上の照明、窓、その他の光源からの反射光ができる限りモニターに映りこまないように、モニターを配置してください。これらの光源や物体ができるだけ映り込まないように、モニターの角度や向きを調節してください。必要に応じて、照明を消したり、ワット数の低い電球にして頭上の照明を暗くしてください。窓の近くにモニターを置くときは、カーテンやブラインドで日光を遮ってください。部屋の明るさが1日のうちで変わる場合には、その変化に応じて、モニターの輝度やコントラストのつまみを調整してください。

反射を防いだり、照明を調節できない場合には、反射防止フィルターを画面に取り付けると見やすくなる場合があります。ただし、このようなフィルターを使用すると画面上の映像がはっきりと見えなくなる可能性もありますので、フィルターは他に反射を防ぐ方法がない場合にだけ使用してください。

ほこりがたまると、反射状態がさらにひどくなります。モニター画面は、研磨剤が入っていない液体ガラス・クリーナーで湿らせた柔らかい布で定期的に汚れをふいてください。

空気調節

本製品およびモニターは熱を発生します。本製品には、新鮮な空気を送り込んで、熱風を外に出すファンが付いています。モニターでは、通気孔を通じて熱風を外に出しています。通気孔をふさぐと熱がたまり、装置の誤動作や損傷の原因となることがあります。通気孔を遮断するものがなにもないように、コンピューターとモニターを配置します。通常は5 cmのスペースがあれば十分です。また、排出された熱風が人にかからないようにしてください。

電源コンセントおよび電源ケーブルの長さ

本体を設置する位置は、電源コンセント、モニター、プリンター、その他の装置と接続する電源コードやケーブルの長さによって最終的に決まります。

本製品の使用環境を調節するときには、以下の点に注意してください。

延長コードを使用しないようにします。本製品の電源コードは、できるだけ電源コンセントに直接差し込むようにしてください。

電源コードやケーブルは、通路や誤ってけられる可能性があるような場所を通さないようにしてください。

第3章 本製品の使用方法

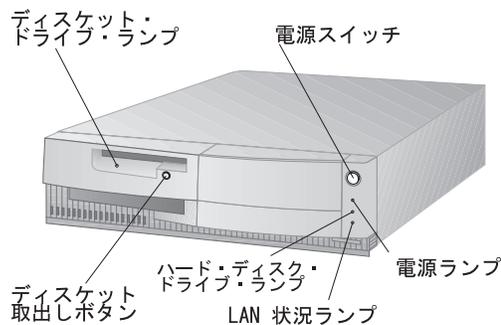
この章には、本製品の日常の使用に役立つ情報が収められています。

スイッチとインディケータの場所

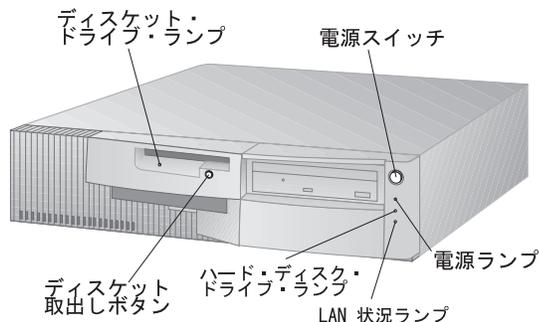
本製品の前面を見てください。ボタンは、本製品の電源オンなどの特定の操作を行うスイッチです。ランプは、ディスク・ドライブなどの機能が使用中であることを示すインディケータです。

注: 本製品に CD-ROM ドライブが事前にインストールされている場合は、そのスイッチとインディケータがあります。詳細については、29ページの『CD-ROM ドライブの使用法』を参照してください。

次の図は、両モデルのスイッチとインディケータを示しています。



モデル 6272



モデル 6282

以下のリストは、本体の前面にあるスイッチとインディケータの説明です。

ディスクレット・ドライブ・ランプ: このランプが点灯しているときは、ディスクレット・ドライブのヘッドが移動中であること、またはコンピューターがディスクレットの読み書きを行っていることを示しています。ランプが点灯しているときにディスクレットを取り出さないでください。

ディスクレット取出しボタン: このボタンを押して、ドライブからディスクレットを取り出します。

電源スイッチ: このスイッチを押して、本体の電源を入れたり、切ったりします。ハード・ディスク・ドライブやディスクレット・ドライブの使用中のランプが点灯しているときには、本体の電源を切らないでください。

電源ランプ: このインディケータは、本体の電源を入れると点灯します。

ハード・ディスク・ドライブ・ランプ: このランプが点灯しているときは、ハード・ディスク・ドライブのヘッドが移動中であること、またはコンピューターがハード・ディスクの読み書きを行っていることを示しています。

LAN 状況ランプ: このランプは、ネットワークが活動中であることを示しています。

本製品の始動

注: 本製品を正しく構成すれば、ネットワークからのリモート始動が可能になります。詳細については、『Wake on LAN』を参照してください。

1. 本体に接続している装置の電源をすべて入れます。
2. 本体の電源スイッチをいれます。これでコンピューターが始動し、次のアクションが行われます。
 - a. IBM ロゴが画面の中央に現れます。
 - b. 自己診断テスト (POST) が行われます。このことは、画面の左上の数字が増えていくことで分かります。この数字は、POST がテストしているメモリーの量です。この数字が停止すると、メモリーのテストが終わり、POST は完了します。

POST が問題を検出した場合は、ピーブ音が数回鳴り (またはピーブ音が鳴らない)、画面にエラー・メッセージが表示されます。エラー・コードの番号と説明をすべて書き取って、詳細について 74ページの『POST 問題の解決』および 77ページの『POST エラー・メッセージ表』を参照してください。(POST 中にピーブ音が鳴らなかった場合は、95ページの『問題判別表』を参照してください。本体を修理する必要があるかもしれません。)
 - c. 装置構成ユーティリティーに入る (**F1** を押す) か、高速 POST を実行 (**Esc** を押す) することができます。これらのオプションは、画面の左下に表示されています。
3. 本体がパスワード保護されていない場合は、ピーブ音が 1 回鳴り、オペレーティング・システムがアプリケーション・プログラムの最初の画面が表示されます。

コンピューターがパスワード保護されている場合は、始動パスワードか管理者パスワードのいずれかを入力するためのプロンプトが表示されます。始動パスワードと管理者パスワードの両方を設定した場合は、パスワード・プロンプトでいずれかを入力する必要があります。(パスワードの設定および使用に関する説明については、53ページの『パスワードの使用法』を参照してください。) プロンプトでパスワードを入力し、**Enter** を押してください。オペレーティング・システムがアプリケーション・プログラムの最初の画面が表示されます。

本体の電源を切る

本体の電源を切るときには、使用中のオペレーション・システムの正しい終了手順に従って行い、まだ保管されていないデータが失われたり、ソフトウェア・プログラムを損傷したりすることのないようにします。終了の手順については、オペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

一部のオペレーティング・システムでは、オペレーティング・システムが終了した後に本体の電源を自動的に切るようにセットアップすることができます。この設定を選択していない場合は、電源スイッチを押して放し、本体の電源を手動で切る必要があります。

重要

オペレーティング・システムの実行中に本体を再始動するときに、**Ctrl+Alt+Del** は使用しないでください。代わりに、オペレーティング・システムの終了手順を行い、電源スイッチを押して本体の電源を切り、すべての表示ランプが消灯するまで数秒間待って、それから 21 ページの『本製品の始動』の手順に従ってください。

マウスの使用方法

マウスは、モニター画面上のオブジェクトを指し示したり、選択したりするために使用する装置です。本製品に付属のマウスは、コンピューターの背面にあるマウス・ポートにケーブルで接続します。マウスの接続については、*セットアップ・ガイド*を参照してください。

注: オプションのマウス装置は、シリアル・ポートを介して本体に接続する場合があります。マウス装置を USB ポートを通じて接続することはできません。

マウスを使用して、画面上のポインターを移動することができます。今までにまったくマウスを使用したことがない場合には、最初は少し戸惑うことがあります。しかし、少し練習すれば、マウスを自然に動かすことができるようになります。

マウスは、キーボードのそばの平らな面か、マウス・パッドの上に置きます。マウス・パッドは平らで滑らかなゴム製のパッドで、ほとんどのコンピューター販売店で入手できます。マウスの底にはボールが付いているので、平滑な面で使用することが重要です。ほとんどのオペレーティング・システムに、マウス・ボタンを右利き用か左利き用か、どちらの設定にするか、選択する機能があります。ボタンが 2 つあるマウスを右利き用に設定した場合は、ほとんどの作業には左ボタンを使います。ボタンが 2 つあるマウスを左利きユーザー用に設定した場合は、ほとんどの作業には右ボタンを使います。詳細については、オペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

マウスを使用するときには、平らな面の上でマウスを前後左右に滑らせます。画面上で選択したい項目がある場合には、ポインターをその項目へ移動して(この操作をポインティングといいます)、マウスの左か右のどちらかのボタンを押して放します(この操作をクリックといいます)。

本製品に入っているソフトウェアでのマウスの使用方法を覚えるには、ソフトウェアに付属のマニュアルを参照してください。サポートされるマウス・ボタンの個数は、プログラムによって 1 つ、2 つ、あるいは 3 つとさまざまです。ある程度の違いはありますが、以下のような一部の用語は、業界ではほぼ標準になっています。

ポインティング	選択したいオブジェクトにポインターがくるように、マウスを移動します。
クリック	マウス・ボタンを 1 回押して、放します。
ダブルクリック	マウス・ボタンを 2 回すばやく押して、放します。
ドラッグ	オブジェクトを指し示し、マウス・ボタンを押しながらマウスを移動して、オブジェクトの位置を変更します。
ドロップ	オブジェクトを新しい位置へドラッグした後で、マウス・ボタンを放します。

ディスク・ドライブの使用方法

本製品のディスク・ドライブでは、3.5 インチのディスクを使用することができます。5.25 インチのディスクを使用したい場合は、5.25 インチのディスク・ドライブをインストールする必要があります。(オプションのディスク・ドライブのインストール方法については、*オプション・ガイド*を参照してください。)

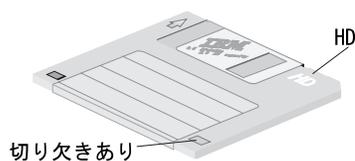
以下に示す情報は、3.5 インチのディスクを識別し、正しく使用するために役立ちます。

ディスクを識別する

3.5 インチ・ディスクのラベルは、ディスクの製造業者間で統一されていません。ディスクによっては、ディスク・タイプを識別するために *DD* または *HD* という文字のラベルが付いているものがあります。また、ラベルが付いていないディスクもあります。ただし、下の図に示すように、3.5 インチ・ディスクの右下隅の外見を見れば、必ずディスク・タイプを識別できます。



1 MB 大容量 (DD)



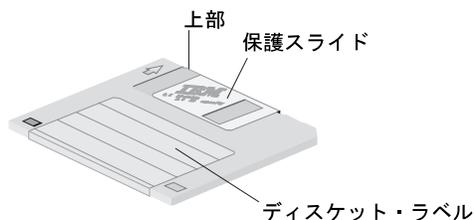
2 MB 高密度 (HD)

ディスクの取扱いと保管

ディスク保護ケースの中に、磁気に敏感なコーティングが施されているフレキシブル・ディスクが入っています。このディスクは、熱、ほこり、磁場、さらには指紋によって損傷を受けることがあります。ディスクの取扱いおよび保管には、次の点にご注意ください。

データは、ディスクの磁気面に記憶されます。3.5 インチ・ディスクは、この面はプラスチックのカバーで保護されています。カバーが損傷している場合は、そのディスクは使用しないでください。ディスクの損傷により、ディスク・ドライブが損傷することがあります。

3.5 インチ・ディスクの上部にある保護スライドは、磁気面の一部をカバーしています。ディスク・ドライブは、ディスクのデータの読取りまたは書込みのために、このスライドを移動させます。指紋やほこりによってデータが損失することがあるので、このスライドは動かさないでください。



磁気ディスクそのものを触らないでください。

磁石や強い磁場を生じる機器（電気モーターやジェネレーター）には、ディスクを近づけないでください。ディスクは、テレビ、電話、ステレオ・スピーカーなどの機器によって発生する磁気に敏感です。磁気によって、ディスクのデータが消失することがあります。ディスクをモニターの上に置いたり、磁石を使用してメモをコンピューターに付けたりしないでください。

ディスクは、高温または低温の場所、あるいは直射日光に当たる場所には保管しないでください。3.5 インチ・ディスクの場合、好ましい温度の範囲は 4° ~ 53°C (39° ~ 127°F) です。ディスクを熱に近づけないでください。外部のプラスチック製カバーが曲がって、ディスクに損傷を与えることがあります。

ディスクにラベルを付ける

ディスクを使用する前に、ディスクにラベルを付けて、保管されたデータを識別できるようにします。通常、ラベルはディスクに付属しています。ディスクのラベルは正しく貼らないと、問題が起きることがあります。ラベルの端がはがれていたり、ラベルを重ねて貼ると、ディスクの挿入や取出しができなくなることがあります。

このような問題を防止するために、以下の点に注意してください。

新しいラベルを貼る前に、古いラベルを除去します。

ラベルを注意して貼り、すべての端がぴったりと貼られていることを確認します。

ラベルはディスクの前面にだけ貼ります。保護スライドの邪魔になったり、ディスクの保護ケースの入口をふさぐような位置にラベルを貼らないでください。

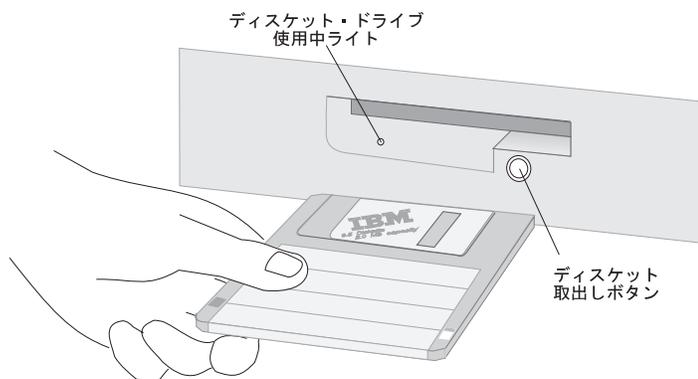
ディスクの挿入と取出し

重要

ディスクを挿入する前に、ディスク・ドライブが空であることを必ず確かめてください。ディスク取出しボタンが本体の前面から出ていなければ、ディスクを挿入できます。ディスク取出しボタンが本体の前面から出ている場合は、ディスクはすでに挿入されています。

3.5 インチ・ディスクを挿入するときは、ラベルを上に向けてディスクを持ち、保護スライドの側から挿入します。ディスクをディスク・ドライブの中に、カチッと音がして収まるまで押し込みます。ディスク取出しボタンが押し出されます。

ディスクを取り出すには、取出しボタンを押して、ディスクをドライブから抜き取ります。使用中ライトが点灯している間は、ディスクを取り出さないでください。

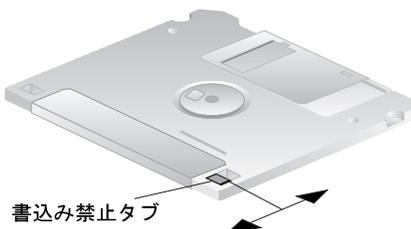


書込み禁止ディスク

誤ってディスクをフォーマットしたり、データを書き込んだりすることがあります。重要な情報が上書きされたり、消失したりする恐れがあります。このため、重要なディスクは書込み禁止にすることをお勧めします。書込み禁止にしたディスクからデータを読み取ることができますが、データを消去したり変更したりすることはできません。

たいていの 3.5 インチ・ディスクには、ディスクへのデータの書込みや、ディスク上のデータの消去を防ぐための書込み禁止タブが付いています。書込み禁止タブが付いていない 3.5 インチ・ディスクは、永久書込み禁止になっています。

書込み禁止タブは、3.5 インチ・ディスクの裏面にあります。



ディスクに書込みができるようにするには、タブをスライドさせて、書込み禁止ウィンドウを閉じてください。

ディスクを書込み禁止にするには、タブをスライドさせて、書込み禁止ウィンドウを開いてください。

ディスクをフォーマットする

ディスクは、フォーマット済みまたは未フォーマットのものを購入することができます。フォーマット済みディスクはすぐに使用できますが、未フォーマットのディスクは、オペレーティング・システムでフォーマットしてからでないと使用できません。フォーマット操作では、ディスクに損傷があるかどうか検査し、データを保管できる状態にします。すでにデータがディスクに保管されている場合には、フォーマット操作によってこのデータは上書きされ、失われます。

オペレーティング・システムの FORMAT コマンドによって、特定の種類のディスクットのフォーマット方法が指定されます。

重要

ディスクットは常に正しい容量でフォーマットしてください。誤った容量でフォーマットすると、データの内容が保証されなくなります。磁気コーティング、ディスクット材の厚さ、使用される記録方式などの違いは、すべてフォーマット操作に影響します。ディスクットのフォーマットの詳細については、オペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

次の表には、ディスクットの種類、フォーマット容量、および各ディスクットを使用できるドライブ・タイプが示されています。

3.5 インチ・ディスクット・タイプ	フォーマット容量	ドライブ・タイプ
1 MB (MF2DD)	720 KB	1.44 MB
2 MB (MF2HD)	1.44 MB	1.44 MB

注:

1. MF2DD = ミニフロッピー、両面、倍密度
2. MF2HD = ミニフロッピー、両面、高密度
3. DOS を使用している場合、1.44 MB ドライブ内で 1 MB ディスクットをフォーマットするときは、`FORMAT A: /F:720` を使用してください。

ディスクットをコピーする

DOS を使用している場合、COPY コマンドを使用すると、1 つまたは複数のファイルをディスクットへ、またはディスクットからコピーすることができます。XCOPY コマンドを使用すると、ファイルをグループ単位でさらに迅速にコピーすることができます。COPY と XCOPY は両方とも、異なるタイプのディスクットにファイルをコピーできます。ディスクットを複写する場合は、DISKCOPY コマンドを使用します。DISKCOPY では、ソース・ディスクット（コピー元のディスクット）とターゲット・ディスクット（コピー先のディスクット）が両方とも同じタイプでなければなりません。

ディスクットのコピーの詳細については、オペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

CD-ROM ドライブの使用方法

モデルによっては、CD-ROM ドライブが事前インストールされています。CD-ROM (コンパクト・ディスク読み取り専用メモリー) で、非常に大きな量の情報に素早くアクセスできます。コンパクト・ディスクには、音声、静止画や動く画像、グラフィックスやアニメーションなどに必要な大容量のファイルのような、650 MB 以上のデータを格納できます。CD-ROM ドライブは CD の情報を再生したり読み取ったりすることができますが、情報を CD に書き込むことはできません。CD-ROM ドライブは、業界標準の 12 cm (4.75 インチ) CD を使用します。

CD-ROM ドライブを使用する際には、以下のガイドラインに従ってください。

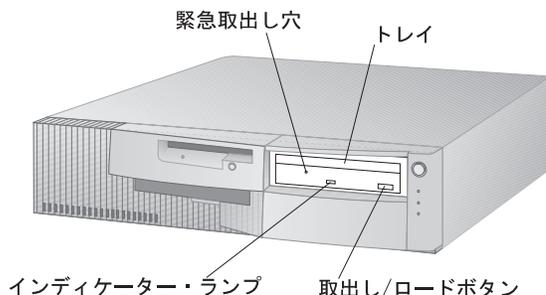
以下のような場所にドライブを置かないでください。

- 高温な場所
- 湿度の高い場所
- ほこりの多い場所
- 振動や急激な衝撃の加わる場所
- 傾いた面
- 直射日光の当たる場所

ドライブの中には CD 以外のものは挿入しないでください。

本体を動かすときは、ドライブから CD を取り出してください。

以下の図は、導入済み CD-ROM ドライブの場合のスイッチとインディケータを示しています。



注: お手元のコンピューターは、上の図のものと異なる場合があります。

CD の取扱い方法

CD を取り扱う際には、以下のガイドラインに従ってください。

CD を持つ際には端を持って、表面には触らないでください。

ほこりや指紋を取り除くには、CD を中心から外側に拭いてください。CD を円周方向にふくと、データが失われる場合があります。

CD に書込みをしたり、紙を貼ったりしないでください。

CD に傷を付けたり、印を付けたりしないでください。

CD を直射日光の当たる場所に置いたり保管したりしないでください。

CD をクリーニングする際には、ベンゼンやシンナーなどのクリーナーを使用しないでください。

CD を落としたり、曲げたりしないでください。

CD の入れ方

CD を CD-ROM ドライブに入れるには、以下のように行います。

1. Eject/Load (取出し/ロード) ボタンを押します。トレイがドライブからスライドして出てきます。(手でトレイをこじ開けないでください。)
2. CD を、ラベル面を上に向けてトレイの中に置きます。オプションのフロア・スタンドを使用してコンピューターを縦に置いている場合は、トレイにある 4 つのクリップのうち、下側の 2 つのクリップを出して、CD をクリップとトレイの間に滑り込ませてください。これで、CD-ROM の動作中に CD がトレイから滑り落ちないように保持されます。
3. Eject/Load (取出し/ロード) ボタンを押すか、トレイを軽く前方に押ししてトレイを閉めます。トレイが閉まると、ドライブの前面のインディケーターが点灯して、ドライブが使用中であることを示します。
4. CD を取り出すには、Eject/Load (取出し/ロード) ボタンを押します。トレイがスライドして出てきたら、CD を気を付けながら取り出します。
5. Eject/Load (取出し/ロード) ボタンを押すか、トレイを軽く前方に押ししてトレイを閉めます。

注: Eject/Load (取出し/ロード) ボタンを押してもトレイがドライブから出てこない場合は、CD-ROM インディケーターの左上にある緊急取出し穴に、大きめの紙クリップのどがった先を挿入してください。

CD-ROM ドライブをユーザー自身で導入しており、ドライブについての追加情報が必要な場合は、CD-ROM ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

オーディオ機構の使用方法

本製品にオーディオ・アダプターが事前にインストールされている場合は、オーディオ・アダプターは Sound Blaster 互換で、サウンドの再生や録音の機能があります。

事前にインストール済みのオーディオ・アダプター用のデバイス・ドライバーは、ハード・ディスク・ドライブに事前にインストールされています。また、サポート CD にも含まれています。

オーディオ・アダプターにオプション装置を接続する場合は、そのメーカーの指示に従ってください (デバイス・ドライバーが必要になる場合もあります)。必要なデバイス・ドライバーについては、メーカーにお問い合わせください。

オーディオ・アダプターでは、以下のポートが使用可能です。

Game/MIDI (Musical Instrument Digital Interface) (ゲーム/MIDI) ポートは、ゲームのコントローラーや、電子キーボードなどの楽器の接続用です。⁷

Line in (ライン入力) ポートは、ポータブル CD やステレオなどの音楽機器の接続用です。

Line out (ライン出力) ポートは、電源付きスピーカーの接続用です。本製品のオーディオ・システムでは、アダプターからの音声を鳴らすために、ライン出力にスピーカー一式を接続する必要があります。スピーカーは、電源付き (内蔵アンプ付き) のものが必要です。一般に、パーソナル・コンピュータ用の電源付きスピーカーなら、すべて本製品のオーディオ・アダプターと使用できます。これらのスピーカーは、さまざまな機能や出力を持つものが入手可能です。

Microphone (マイクロホン) は、マイクロホンの接続用です。



⁷ Game/MIDI (ゲーム/MIDI) ポートに電子機器を接続する際に、オプションのアダプター・ケーブルが必要になる場合があります。詳細については、電子機器に付属のマニュアルを参照してください。

システム管理機能の使用方法

この項は、主にネットワーク管理担当者向けのものです。ここでは、ネットワーク管理者が遠隔から本製品を管理し、制御することを可能にする本製品の機能を説明しています。

本製品の BIOS (基本入出力システム) は、デスクトップ管理インターフェース (DMI) と呼ばれるインターフェースをサポートしています。DMI は、本製品内のハードウェアやソフトウェアについての情報を集め、ネットワーク管理者がネットワーク環境内のコンピューターを遠隔から監視、制御することを可能にするメカニズムです。DMI を使用して、シリアル番号や、メモリー属性、インストール済み周辺機器の製品固有の特性、オペレーティング・システムの構成情報などの、コンピューターに関するさまざまな種類の情報を遠隔から把握することができます。この情報には、DMI ブラウザーを使用してアクセスすることができます。DMI ブラウザーは、TME 10 NetFinity、Intel LAN Desk、Microsoft SMS などの、主要なオペレーティング・システムや主要な LAN 管理パッケージで提供されています。

Wake on LAN 機能を使用して、ネットワーク管理者が遠隔地から本製品の電源を入れることができます。LANClient Control Manager や TME 10 NetFinity などのネットワーク管理ソフトウェアと組み合わせて Wake on LAN を使用すると、データ転送、ソフトウェア更新、POST/BIOS 更新などのさまざまな処理を遠隔地から実行することができます。これらの処理を勤務時間後や週末に実行することができ、通常の勤務時間中にユーザーを煩わすことがないので、時間を節約し、生産性を向上させることができます。詳細については、69ページの『Wake on LAN』を参照してください。

リモート・プログラム・ロード (RPL) や動的ホスト構成プロトコル (DHCP) など、その他の機能もネットワーク管理者が本製品を遠隔から制御することを可能にするものです。

LANClient Control Manager と組み合わせてリモート・プログラム・ロードを使用すると、ハイブリッド RPL と呼ばれる機能を使用できます。LANClient Control Manager を使用すると、ハイブリッド・イメージ (あるいはファイル) をハード・ディスク・ドライブ上にインストールすることによって本製品をセットアップします。その後、コンピューターがネットワークから始動するたびに、LANClient Control Manager は本製品をハイブリッド RPL クライアントとして認識し、ブートストラップ・プログラムが本製品にダウンロードされます。このブートストラップ・プログラムは、ネットワーク過密を防止するのに役立つ小さいプログラムです。ハイブリッド・イメージの代わりに、ブートストラップ・プログラムが本製品のハード・ディスク・ドライブから始動プロセスを開始します。ハイブリッド RPL の利点は、通常の RPL に関連したネットワークの負荷がなくなることです。これらの 2 つの機能の詳細については、65ページの『RPL および DHCP』を参照してください。

POST/BIOS の更新

POST/BIOS は、IBM コンピューターのすべてに組み込まれている、ソフトウェアの基本層です。POST (自己診断テスト) は、本製品の電源を入れるたびに実行される一連のテストおよびプロシーチャーです。BIOS (基本入出力システム) はソフトウェアの層で、ソフトウェアの他の層からの命令を、コンピューターのハードウェアが理解できる電気信号に変換します。POST/BIOS にはさらに装置構成ユーティリティが含まれており、このユーティリティにより本製品の構成や設定を見たり変更したりすることが可能になります。

従来は、POST/BIOS はシステム・ボード上の読取り専用メモリー (ROM) モジュール内に含まれていました。そのため、POST ルーチン、BIOS 命令、および装置構成ユーティリティを更新する場合には、本体を分解してモジュールを交換するか、あるいはシステム・ボードを交換しなければなりません。現在は、システム・ボード上の ROM モジュールは、電気的に消去可能なプログラム式読取り専用メモリー (EEPROM、フラッシュ・メモリーとも呼ばれます) に置き換えられています。これにより、本製品内の POST 情報、BIOS コード、および装置構成ユーティリティを更新ディスクによって簡単に更新できます。この手順は、POST/BIOS のフラッシュと呼ばれることがよくあります。

本製品が正しくネットワークに接続されていれば、ネットワークを介して POST/BIOS を更新できます。詳細については、70ページの『ネットワークからの POST/BIOS の更新』を参照してください。

品質の向上のために、IBM は POST ルーチンおよび BIOS コードを変更および拡張することがあります。更新が必要となる場合には、新しいバージョンのシステム・プログラムを収録した更新ディスクをご用意します。詳しい手順は更新ディスクに収録されます。

第4章 日常の手入れ

この章では、本製品の取扱いと手入れを正しく行うためのガイドラインを説明します。

基本事項

本製品を正しく機能させるために、以下のことにご注意ください。

本製品は清潔で乾燥した環境で使用し、必ず平らでしっかりした面に設置してください。

モニターの上に物を置いたり、モニターや本体の通気孔をふさいだりしないようにしてください。通気孔は、本製品が過熱しないように空気を供給します。

食べ物や飲み物を本製品の近くに置かないでください。食べ物のかげらやこぼれた液体がキーボードやマウスにかかると、故障の原因になります。

電源スイッチやその他の制御部分をぬらさないでください。湿気があるとこれらの部品が損傷し、感電の危険を招くことがあります。

電源コードを抜くときは、コードではなく、必ずプラグを持って抜いてください。

本製品を清掃する

本製品を定期的に清掃することにより、機器の外観を保護し、操作上のトラブルを防ぐことができます。

△ 注意

本体およびモニター画面を清掃する前に、必ず本体およびモニターの電源スイッチを切ってください。

本体とキーボード

本体とキーボードの塗装面を清掃するときは、水または薄めた中性洗剤で湿らせて固く絞った布を使用します。

モニター画面

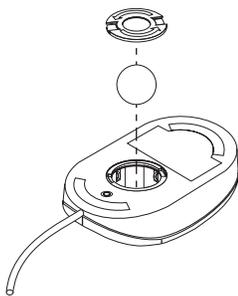
モニター画面の表面の清掃には研磨材の入った洗剤を使用しないでください。画面の表面は傷が付きやすいので、ペン、鉛筆の先、消しゴムなどで触れないでください。

画面の表面は、柔らかい乾いた布でそっとふきます。砂や粒子が付着している場合は、吹き飛ばしてきれいにします。その後で、研磨材の入っていない液体ガラス・クリーナーで湿らした柔らかい布でふいてください。

マウス

マウスで画面上のポインターをスムーズに移動できない場合は、マウスの清掃が必要になることがあります。

1. 本体の電源を切ります。
2. マウス・ケーブルを本体から外します。
3. マウスを裏返しにします。マウスの底のボール押さえに示されている矢印の方向にボール押さえを回して、そのロックを外します。



4. マウスをゆっくり傾けると、ボール押さえとボールが外れて出てきます。
5. ボールを、薄めた中性洗剤で洗った後、水で洗い、よく乾かします。
6. 湿った布を使って、マウスとボール押さえの外部をふきます。マウスの内部のローラーも必ずふいて、乾かします。
7. ボールとボール押さえを元の位置に収めます。ボール押さえを矢印と反対の方向に回してロックします。
8. マウス・ケーブルを本体に再接続します。

電池を交換する

日付、時刻、および組込み機能の設定値（たとえば、シリアル・ポートやパラレル・ポートの割当て（構成）など）を保持するために、本製品は特殊なメモリーを内蔵しています。本体の電源を切ると、電池がこの情報を保持します。

電池は充電やメンテナンスは不要ですが、どのような電池でも永久に使えるわけではありません。電池の寿命が尽きると、日付、時刻、および構成情報（パスワードも含む）が失われます。その場合、本体の電源を入れると、エラー・メッセージが表示されます。

電池の交換については、本書の vii ページの『安全に正しくお使いいただくために』、およびオプション・ガイドを参照してください。

本製品を移動する

△ 注意

電源が入っている間は、本体を動かさないでください。本体を動かす前に、必ず電源を切ってください。

本体をひとりで持ち上げたり、移動しないでください。けがをする恐れがあります。他の人の応援を頼んでください。

通常の輸送や取扱いの際にも、ハード・ディスクからデータが失われることがあります。本製品にハード・ディスクが内蔵されている場合は、次のことを行ってから移動してください。

1. ハード・ディスクからすべてのファイルとデータのバックアップを取ります。
バックアップ手順は、オペレーティング・システムによって異なります。データ・ファイルだけを保存するものもあれば、アプリケーション・プログラムとデータ・ファイルの両方をコピーするものもあります。ソフトウェアのバックアップについては、オペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。
2. すべての媒体 (ディスケット、コンパクト・ディスク、テープなど) をドライブから取り出します。
3. 本体とすべての接続装置の電源を切ります。ハード・ディスク・ドライブは、自動的に読取り/書込みヘッドを非データ域に移動して停止させます。これによって、ハード・ディスクの損傷を防ぐことができます。
4. 電源コード・プラグをコンセントから抜き取ります。
5. 本体の背部のケーブルの接続位置をメモしてから、ケーブルを外します。
6. 購入時のボール箱と梱包材を保管してある場合は、それを使って装置を梱包してください。別のボール箱を使う場合は、装置が損傷しないように緩衝材を使用してください。

第5章 装置構成ユーティリティーの使用法

この項では、本製品に付属の装置構成ユーティリティーについて説明します。装置構成ユーティリティーを使用すれば、どのオペレーティング・システムを使用している場合でも、本製品の構成および設定を見たり変更したりすることが可能になります。

重要

オペレーティング・システムで、装置構成ユーティリティーにあるものと同じ設定を変更できることがよくあります。オペレーティング・システムの方を使用して変更を行う場合には、変更が装置構成ユーティリティーの同じ設定と対立する、あるいは設定を上書きする可能性があることに注意してください。

装置構成ユーティリティーの始動

1. 21 ページの手順 1 および 2 に従って本体を始動してください。
2. 装置構成ユーティリティー・プロンプトが画面の左下隅に表示されたら、すぐに **F1** を押します。管理者パスワードを設定していない場合は、装置構成ユーティリティー・メニューが表示されます。

管理者パスワードを設定している場合は、パスワード・プロンプトが画面に表示されます。管理者パスワードを入力し、**Enter** を押します。

本製品に管理者パスワードと始動パスワードの両方が設定されている場合には、パスワード・プロンプトでどちらのパスワードを入力しても構いません。入力したら **Enter** を押します。ただし、装置構成ユーティリティーの設定を変更する場合には、管理者パスワードを入力する必要があります。始動パスワードを入力した場合には、本製品のシステム構成および製品の情報を表示することしかできません。

装置構成ユーティリティを始動すると、以下のメニューが表示されます。

装置構成ユーティリティ
メニュー
システム構成
製品の情報
デバイスと I/O ポート
始動オプション
日付と時刻
システム・セキュリティ
アドバンス設定
ISA リソース
省電力機能
設定を保存する
設定を戻す
デフォルト設定をロードする
装置構成ユーティリティの終了

以下は、上のメニューに表示されるカテゴリーのリストです。各カテゴリーの下には、それぞれの中で実行できる機能が示されています。

システム構成

本製品の現在のオプションおよび機構についての情報を表示できます。システム構成に含まれるものは、マイクロプロセッサや、メモリー、ビデオ・コントローラー、ディスクケット・ドライブ、ハード・ディスクなどについての情報です。

製品の情報

マシン・タイプとモデル、フラッシュ EEPROM の改訂レベル、システム・ボード番号、製品番号、および BIOS の日付についての情報を表示できます。

デバイスと I/O ポート

ビデオや、IDE ドライブ、シリアル・ポート、パラレル・ポート、イーサネットの各設定を含む、デバイスと I/O ポートについての設定の表示と変更ができます。

始動オプション

デバイスの始動順序や、キーボード速度、ウィルス検出、各種のパワー・オン時のオプションなどの本製品の機能の設定の表示と変更ができます。

日付と時刻

本製品の内部時計の日付と時刻の、表示と変更ができます。

システム・セキュリティー

ハード・ディスク・ドライブやディスクレット・ドライブへのアクセスを管理する設定の、表示と変更ができます。また、始動パスワードや管理者パスワードの設定、変更、および削除もできます。

アドバンスト設定

ROM のシャドウ化や、キャッシュ、PCI および Plug&Play 機能などの、ハードウェア機能の設定の表示と変更ができます。アドバンスト設定の設定値が正しく構成されていないと、本製品が誤動作する場合があります。

ISA リソース

従来型の ISA アダプターで使用されているシステム・リソース (DMA、割込み、メモリー、および I/O ポート) の表示と変更ができます。

省電力機能

自動パワー・オン機能などの、本製品の省エネルギー機能に関する設定の表示と変更ができます。

装置構成ユーティリティでの設定の表示と変更の方法

装置構成ユーティリティのいろいろなメニューを選択するには、キーボードを使用する必要があります。それぞれのメニューで使用できるキーは、スクリーンの一番下にそのつど表示されます。以下の表は、使用可能なキーの機能を示しています。

キー	機能
↑ ↓	これらの矢印キーを使用して、選択したいメニューが強調表示されるまでメニュー間を移動します。
← →	これらの矢印キーを使用して、メニュー項目の選択項目を表示し、切り替えます。
Enter	このキーを押して、強調表示されたメニュー項目を選択します。
Esc	メニュー内の設定を見たり変更したりしたあとに、このキーを押してメニューを終了します。
+	一部のメニューでは、このキーを使用して設定値の数値を増やします。
-	一部のメニューでは、このキー（マイナス・キーあるいはハイフン・キー）を使用して設定値の数値を減らします。
0-9	一部のメニューでは、これらの数字キーを使用して設定値の数値を変更します。
F1	このキーを押して、選択されたメニュー項目についてのヘルプを見ます。
F9	設定を変更してから、その設定を変更前にアクティブだった設定に復元したい場合に、このキーを押します。
F10	選択したメニュー項目の設定値をデフォルト値に戻すには、このキーを使用します。

設定の表示および変更を補助するために、装置構成ユーティリティは以下の記号を使用します。

記号	意味
	さらに選択可能なメニューがあります。
[]	このかっこ内の設定値のみが変更できます。 変更が行われたか、装置構成ユーティリティがエラーを検出してその訂正を試みしました。また、 が付いたメニュー項目に続いてさらにメニューがある場合があります。
*	システム資源の対立。装置構成ユーティリティを終了する前にこの対立を解決して、本製品が正しく機能するようにする必要があります。

装置構成ユーティリティの終了方法

装置構成ユーティリティでの設定値の表示や変更が終了したら、以下のステップに従ってユーティリティを終了します。

1. 装置構成ユーティリティ・メニューに戻るまで、**Esc** を押します。
2. 以下のいずれかを行います。
 - a. 変更した設定値 (復元した設定値やデフォルトの設定値を含む) を保存するには、「設定を保存する」を選択します。ここで設定値を保存しない場合は、「装置構成ユーティリティの終了」メニューでも保存することができます。
 - b. 設定値を変更および設定が行われる前のものに復元するには、「設定を戻す」を選択します。
 - c. すべての設定値についてのデフォルト値をロードするには、「デフォルト設定をロードする」を選択します。⁸
3. **Esc** を押して「装置構成ユーティリティの終了」メニューに入り、画面の指示に従います。

⁸ ネットワーク管理ソフトウェアとともに RPL または DHCP を使用しているネットワーク管理者は、デフォルト設定をロードする前に 66ページの『ネットワークから始動するための始動順序』を読んでください。

オプションを導入した後に設定を保存する

ほとんどの場合、本製品にハードウェアを追加したり取り外したりする際には、BIOS (基本入出力システム) が変更内容を検出して、構成を自動的に更新します。コンピューターが構成の設定値を自動的に変更しますが、新しい構成を有効にするために、ユーザーが装置構成ユーティリティでこれらの設定値を保存する必要があります。新しい設定値を保存しないと、オペレーティング・システムは開始しません。

ハードウェアを追加したり取り外したりした後に構成を保存するには、以下のステップを実行します。

1. 本体の電源を入れると、画面の左上隅のメモリー・カウンターの数字の増加が止まってから約 30 秒後に、構成に変更があったことを示すエラー・メッセージが表示されます。この構成エラー・メッセージが消えると、POST スタートアップ・エラー画面が表示され、「装置構成を設定する」か「装置構成を設定しない」のいずれかを選択するプロンプトが出ます。「装置構成を設定する」を選択します。「装置構成を設定しない」を選択すると、別のエラー・メッセージが出る場合があります。)
2. 装置構成ユーティリティ・メニューが表示され、構成に変更があったメニュー・カテゴリーの隣に右向きの矢印の先 () が付いています。新しい構成の設定値を見たい場合は、このメニュー項目を選択して、見終わったら **Esc** を押して装置構成ユーティリティ・メニューに戻ります。
3. 装置構成ユーティリティ・メニューから「設定を保存する」を選択します。
4. **Esc** を押して装置構成ユーティリティを終了し、画面の指示に従います。

システム構成を表示する

装置構成ユーティリティを使用して、本製品のオプションおよび機構の構成を表示することができます。システム構成を表示するには、次の手順で行います。

1. 装置構成ユーティリティを開始します (39ページの『装置構成ユーティリティの始動』を参照してください)。
2. 装置構成ユーティリティ・メニューから「システム構成」を選択します。「システム構成」画面が表示されます。

モデルと構成によって、表示される画面はこの例と少し異なることがあります。

システム構成	
プロセッサ	Pentium
プロセッサ・スピード	167 MHz
数値演算プロセッサ	内蔵
システム・メモリー	640 KB
拡張メモリー	31 MB
ビデオ・コントローラー	Cirrus Logic GD-5436/46 VGA
キャッシュ・サイズ	256 KB
キャッシュの使用	する
シャドー RAM	384 KB
システム ROM	F000h - FFFFh
メモリー・タイプ	パリティなし
ディスケット・ドライブ A:	1.44 MB, 3.5 インチ
ディスケット・ドライブ B:	未装着
ハード・ディスク・ドライブ 0	2560 MB
ハード・ディスク・ドライブ 1	装着済
CD-ROM ドライブ 2	未装着
ハード・ディスク・ドライブ 3	未装着

日付と時刻を設定する

本製品には、日付と時刻を保持する内部クロックがあります。本体の電源を切っても、内部クロックは電池によって活動状態に保持されます。

日付と時刻を設定するには、次の手順で行います。

1. 装置構成ユーティリティを開始します (39ページの『装置構成ユーティリティの始動』を参照してください)。
2. 装置構成ユーティリティ・メニューから「日付と時刻」を選択します。
3. 該当するフィールドに日付と時刻を入力します。
4. **Esc** を押して、装置構成ユーティリティ・メニューに戻ります。
5. プログラムを終了する前に、装置構成ユーティリティ・メニューから「設定を保存する」を選択し、**Enter** を押してください。
6. 装置構成ユーティリティを終了するために、**Esc** を押して、画面の指示に従ってください。

オペレーティング・システムにも、日付と時刻を設定する機能が組み込まれている場合があります。詳細については、オペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

キーボード速度を変更する

キーを押したときのキーボードの応答速度を変更することができます。通常、**キーボード速度**は 10 文字/秒ですが、装置構成ユーティリティを使用すると、この速度を最高 30 文字/秒に変更することができます。

キーボード速度を変更するには、次の手順で行います。

1. 装置構成ユーティリティを開始します (39ページの『装置構成ユーティリティの始動』を参照してください)。
2. 装置構成ユーティリティ・メニューから「始動オプション」を選択します。
3. 「キーボード速度」を「普通」または「高速」設定します。選択を切り替えるためには、左矢印 (←) または右矢印 (→) を使用します。
4. **Esc** を押して、装置構成ユーティリティ・メニューに戻ります。
5. プログラムを終了する前に、装置構成ユーティリティ・メニューから「設定を保存する」を選択します。

6. 装置構成ユーティリティを終了するために、**Esc** を押して、画面の指示に従ってください。

モニター設定値を変更する

本製品には、グラフィックス・コントローラーが装備されています。SVGA は、モニター画面にテキスト画像およびグラフィック画像を表示するためのビデオ標準です。他のビデオ標準と同様に、SVGA は各種のビデオ・モードをサポートします。ビデオ・モードは、テキストまたはグラフィックスを表示するためのビデオ標準によって定義された解像度、リフレッシュ・レート、およびカラーをさまざまに組み合わせたものです。

SVGA は、ビデオ・グラフィックス・アレイ (VGA) のような以前のビデオ標準に比べて、グラフィックスの解像度が高く、リフレッシュ速度が速く、カラーが豊富です。同時に、SVGA はすべての標準 VGA モードをサポートします。

画面上の画像を最も鮮明な状態にし、ちらつきを抑えるには、モニターの解像度およびリフレッシュ・レートをリセットする必要がある場合があります。モニター設定値の詳細については、オペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

重要

モニターの設定値を変更する前に、必ずモニターに付属のマニュアルを参照してください。モニターでサポートされていない解像度やリフレッシュ・レートを使用すると、画面が乱れたり、モニターを損傷したりする原因になる場合があります。モニターのマニュアルには、そのモニターがサポートする解像度およびリフレッシュ・レートに関する情報が通常記載されています。さらに情報が必要な場合は、モニターの製造元にお問い合わせください。

画面のちらつきやぶれを最小限に抑えるには、モニターのリフレッシュ・レートを、モニターがサポートしているノンインターレース方式の最高のリフレッシュ・レートに設定します。VESA ディスプレイ・データ・チャンネル (DDC) 標準に準拠しているモニターでは、すでにモニターとグラフィックス・コントローラーがサポートできる最高のリフレッシュ・レートに設定されています。モニターが DDC に準拠しているかどうかが不明確な場合は、モニターのマニュアルを参照してください。

モニターの設定値を変更するには、装置構成ユーティリティ・メニューから「デバイスと I/O ポート」を選択して、次に「ビデオの設定」を選択します。

本製品では、以下のモードがサポートされています。

解像度 (ペル)	ビット/ピクセル	リフレッシュ・レート (Hz)	ビデオ・メモリー 容量 (MB)
640 x 480	8/15/16	60, 72, 75, 85	1
640 x 480	32	60, 72, 75, 85	2
800 x 600	8/15/16	60, 72, 75, 85	1
800 x 600	32	60, 72, 75, 85	2
1024 x 768	8	43i, 60, 70, 75, 85	1
1024 x 768	15/16	43i, 60, 70, 75, 85	2
1280 x 1024	8	45i, 60, 72, 75	2
1600 x 1200	8	49i	2

注:

1. 43 Hz、45 Hz、および 49 Hz はインターレース方式 (i)、その他のリフレッシュ・レートはノンインターレース方式です。

アプリケーション・プログラムの中には、SVGA モードを使用するためにビデオ・デバイス・ドライバが必要な場合があります。本製品に IBM 導入済みソフトウェアが搭載されている場合は、ビデオ・デバイス・ドライバが含まれており、説明をオンラインで見ることができます。ソフトウェアが事前にインストールされていない場合は、ビデオ・デバイス・ドライバはサポート CD にあります。

一部のアプリケーション・プログラムには、SVGA モードを利用するための独自のデバイス・ドライバが用意されています。このデバイス・ドライバは、アプリケーション・プログラムに組み込まれているセットアップ・プログラムを使用してインストールします。このようなアプリケーションを SVGA モードで動作するようにセットアップする場合、これらのモードの用語が業界で統一されていないために、混乱が生じる可能性があります。アプリケーション・プログラムで使用されている用語が不明確な場合は、アプリケーションに付属のマニュアルを参照して、詳しい情報を入手してください。

ソフトウェアの互換性

グラフィックス・コントローラーは、以下のビデオ・モード用に書かれたアプリケーション・プログラムの表示が可能です。モノクローム・グラフィックス・アダプター (MGA)、カラー・グラフィックス・アダプター (CGA)、拡張グラフィックス・アダプター (EGA)、マルチカラー・グラフィックス・アレイ (MCGA)、およびビデオ・グラフィックス・アレイ (VGA) は、すべて以前のパーソナル・コンピュータで使用されたビデオ標準です。

ビデオ標準	モニター解像度	カラー (1 MB DRAM)
MGA	720 x 350	-
CGA	320 x 200	4
EGA	640 x 350	16
MCGA	320 x 200	256
	640 x 480	2
VGA	640 x 480	16

シリアル・ポートの設定値を変更する

シリアル・アダプターを追加する場合や、構成の対立の原因になる特殊なハードウェアやソフトウェアを使用する場合は、シリアル・ポートの設定値の変更が必要になることがあります。シリアル・ポートは、以下の設定値を使用することができます。

4 つの使用可能ポート・アドレス (16 進): 3F8、2F8、3E8、2E8。

2 つの推奨 IRQ 割当て: IRQ 4 と IRQ 3。また、IRQ 9、IRQ 10、IRQ 11、IRQ 14、および IRQ 15 も使用できますが、一部のオペレーティング・システムやアプリケーションは、これらの設定値では動作しない場合があります。

シリアル・ポートの設定値を変更するには、以下のことを行います。

1. 装置構成ユーティリティーを開始します (39ページの『装置構成ユーティリティーの始動』を参照してください)。
2. 装置構成ユーティリティー・メニューから「デバイスと I/O ポート」を選択します。
3. 「シリアル・ポートの設定」を選択します。
4. 矢印キーを使用して、「シリアル・ポート A アドレス」または「シリアル・ポート A ・割り込み」の設定値を選択します。
5. **Esc** を押して、装置構成ユーティリティー・メニューに戻ります。
6. プログラムを終了する前に、装置構成ユーティリティー・メニューから「設定を保存する」を選択します。
7. 装置構成ユーティリティーを終了するために、**Esc** を押して、画面の指示に従ってください。

注: シリアル・ポートの詳細については、解説書を参照してください。

パラレル・ポートの設定値を変更する

パラレル・アダプターを追加する場合や、構成の対立の原因になる特殊なハードウェアやソフトウェアを使用する場合は、パラレル・ポートの設定値の変更が必要になる場合があります。

パラレル・ポートは、数種類のモードで動作可能です。本製品のデフォルト・モードは、SPP (標準パラレル・ポート) ですが、本製品は ECP/EPP (拡張機能ポート/拡張パラレル・ポート) モードもサポートしています。ECP/EPP には、SPP を上回る 2 つの利点があります。本製品が ECP/EPP モードに入ると、本製品が SPP モードの時よりも高速に文書を印刷でき、さらに通信デバイスや記憶デバイスなど、プリンター以外のデバイスをパラレル・ポートに接続できます。装置構成ユーティリティを使用して、パラレル・ポートの動作のモードを設定できます。

パラレル・ポートは、以下の設定値を使用できます。

3 つの使用可能ポート・アドレス (16 進): 3BC、378、および 278。

2 つの使用可能 IRQ 割当て: IRQ 7 および IRQ 5。

2 つの使用可能 DMA (ECP/EPP モードのみ): DMA 1 および DMA 3

パラレル・ポートの設定値を変更するには、以下のことを行います。

1. 装置構成ユーティリティを開始します (39ページの『装置構成ユーティリティの始動』を参照してください)。
2. 装置構成ユーティリティ・メニューから「デバイスと I/O ポート」を選択します。
3. 「パラレル・ポートの設定」を選択します。
4. 矢印キーを使用して、設定値を選択します。
5. **Esc** を押して、装置構成ユーティリティ・メニューに戻ります。
6. プログラムを終了する前に、装置構成ユーティリティ・メニューから「設定を保存する」を選択します。
7. 装置構成ユーティリティを終了するために、**Esc** を押して、画面の指示に従ってください。

注: パラレル・ポートの詳細については、解説書を参照してください。

プラグ・アンド・プレイ制御機能を変更する

プラグ・アンド・プレイ・アダプターや、その他のデバイスのインストール中に問題が発生した場合は、装置構成ユーティリティーの Plug&Play 機能の中の設定値の変更が必要になる場合があります。

注: プラグ・アンド・プレイのアダプターやデバイスに関連したエラー・メッセージが出た場合は、問題解決の詳細について 77ページの『POST エラー・メッセージ表』を参照してください。

プラグ・アンド・プレイ・アダプターの動作方法に影響する可能性のある設定値は、アドレス・デコード設定値です。ほとんどのプラグ・アンド・プレイ・アダプターは、16 ビット・アドレスのデコードを使用しています (これは Address Decode のデフォルト設定です。)一部のプラグ・アンド・プレイ・アダプターには、このアドレッシング方法が完全に組み込まれていません。プラグ・アンド・プレイ・アダプターで問題が発生した場合には、アドレス・デコードを「**10 - Bit**」に変更することで問題が修正できる場合があります。反対に、1852 のエラー・メッセージが出た場合には、アドレス復号の設定値を「**16 - Bit**」に変更することで問題が修正できる場合があります。

すべてのタイプのプラグ・アンド・プレイ・デバイスに影響するもう 1 つの設定値は、Plug&Play OS (プラグ・アンド・プレイ・オペレーティング・システム) 設定値です。プラグ・アンド・プレイのアダプターやデバイスのインストール中に 185 x のエラー・メッセージが発生し、本製品がロードするオペレーティング・システムがプラグ・アンド・プレイに準拠している場合は、この値を「はい」に設定します。

注: オペレーティング・システムがこの機能をサポートしているかどうかを判別するには、オペレーティング・システムのマニュアルを調べてください。

185x のエラー・メッセージが出るのは、リソースの割当てが対立しているために、システム内のアダプターとデバイスのすべてを本製品が構成できなかったためです。「はい」を選択すれば、プラグ・アンド・プレイ・デバイスの構成をオペレーティング・システムで実行できるようになります。

プラグ・アンド・プレイ制御の設定値を変更するには、「アドバンスト設定」を選択し、次に「**Plug&Play 機能**」を選択します。次のメニューで、「アドレス・デコード」と「**Plug&Play OS**」が表示されます。

パスワードの使用方法

本製品とその中に保管されている情報を保護するのに役立つ 2 種類のパスワード保護機能が提供されています。始動パスワード機能は、許可されていない人が本製品の中に保管されている情報にアクセスするのを防ぎます。管理者パスワード機能は、許可されていない人が装置構成ユーティリティーにアクセスして、本製品の設定を変更するのを防ぎます。複数のコンピューターの設定の管理を担当している場合は、管理者パスワードを設定することが必要になります。

オペレーティング・システムまたはネットワークを通して、他のパスワード・セキュリティ機能も利用できる場合があります。

始動パスワード

始動パスワードを設定することは、本製品を使用するために必須ではありませんが、このタイプのパスワードを設定すれば、許可されていない人が本製品を使用するのを防ぐことができます。始動パスワードを設定した場合は、本製品の始動時に表示されるパスワード・プロンプトでパスワードを入力する必要があります。

始動パスワードを設定すると、次の 3 つのパスワード・プロンプト・モードのいずれかを選択できます。

表示 (待機) 表示 (待機) モードでは、本体の電源を入れたときに、始動パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。コンピューターは、正しいパスワードが入力されるまで CONFIG.SYS または AUTOEXEC.BAT⁹ 命令を実行しないため、オペレーティング・システムは始動せず、キーボードはロック状態のままになります。マウスがマウス・ポートに接続されている場合、マウスもロック状態のままになります。マウスがシリアル・ポートに接続されている場合は、パスワードが設定されているかどうかに関係なく、本体が始動されるとマウスが活動化されます。

非表示 (無人) 非表示 (無人) モード (自動始動モードとも呼ばれます) では、本体の電源を入れても、始動パスワードの入力を求めるプロンプトは表示されません。コンピューターは CONFIG.SYS および AUTOEXEC.BAT 命令を実行し、オペレーティング・システムを始動します。ただし、マウスをマウス・ポートに接続している場合は、次のテキスト枠を参照してください。

⁹ CONFIG.SYS および AUTOEXEC.BAT は、Windows NT など一部のオペレーティング・システムには存在しません。

この情報は、マウスをマウス・ポートに接続しているユーザーのみにあてはまるものです。シリアル・マウスは非表示 (無人) モードによって影響されることはありません。

非表示 (無人) モードでは、コンピュータはマウスの接続を検出しません。このモードでは、マウス・デバイス・ドライバーが CONFIG.SYS または AUTOEXEC.BAT によって自動的にロードされないために、マウス・ポートが使用不能になっていることを示すエラー・メッセージが表示され、コンピュータは停止します。エラー・メッセージが表示されないようにオペレーティング・システムをロード可能にするには、ご使用のオペレーティング・システムにあてはまる以下の情報を読んでください。

OS/2 を使用している場合は、非表示 (無人) モードを使用可能にする前に以下のいずれかを行ってください。

オペレーティング・システムがデバイス・ドライバー・エラーで停止しないように CONFIG.SYS ファイルを設定する。これを行うには、CONFIG.SYS ファイルの先頭の近くに "PAUSEONERROR=NO" コマンドを入れます。

または

マウス・ドライバーのステートメントを CONFIG.SYS ファイルから削除する。

Windows 95 を使用している場合は、以下のことを行います。

本製品が始動し、マウス・ポートが使用不能であるというエラー・メッセージが表示されたら、始動パスワードまたは管理者パスワードを入力して、キーボードを使用可能にする。次に、キーボードを使用して「Do not display this message in the future (今後このメッセージを表示しない)」チェックボックスにチェック・マークを付ける。

オペレーティング・システムが非表示 (無人) モードで始動すると、キーボードはロック状態のままになります。マウスがマウス・ポートに接続されている場合、マウスもロック状態のままになります。

このモードでは、パスワードを入力するよう求めるプロンプトは表示されませんが、POST が終了した後はいつでも、オペレーティング・システムがロードされた後でも始動パスワードまたは管理者パスワードのいずれかを入力できます。パスワードを入力すると、キーボードはロック解除され

ますが、マウス・ポートに接続されているマウスは使用不能のままになります。

非表示 (無人) モードは、ネットワーク・サーバーなど、オペレーター不在状態でコンピューターを動作するときに便利です。電源障害が発生した場合には、オペレーターが介入しなくても、電源が回復するとコンピューターが自動的に再始動し、このモードで操作を再開します。

自動判別

自動判別では、本体が電源スイッチで始動されたか、モデムや、タイマー、Wake on LAN などの無人の方法で始動されたかによって、本体の始動の動作が異なります。

本体を電源スイッチを使用して始動した場合は、本体は表示 (待機) モードのときと同様に動作します。詳細については、53 ページを参照してください。

本体が LAN を介してリモート始動された場合など、無人の方法で始動された場合は、本体は非表示 (無人) モードのときと同様に動作します。詳細については、53 ページを参照してください。

注: マウスとキーボードがアクティブでなくても、TME 10 NetFinity などのネットワーク管理ソフトウェアによってシステムをリモート管理することはできます。

始動パスワードと管理者パスワードが両方とも設定されている場合、コンピューターの始動時に表示されるパスワード・プロンプトに対しては、どちらのパスワードを入力しても構いません。ただし、装置構成ユーティリティーの設定値を変更したい場合は、装置構成ユーティリティーへのアクセスを試みたときに表示されるパスワード・プロンプトに対して、管理者パスワードを入力する必要があります。このプロンプトで始動パスワードを入力した場合、装置構成ユーティリティーで限られた情報を表示することはできますが、設定値を変更することはできません。

パスワードを入力しても、画面にはパスワードは表示されません。間違ったパスワードを入力した場合は、パスワードが間違っていることを知らせる画面メッセージが表示されます。間違ったパスワードを 3 回入力した場合は、本体の電源をいったん切ってから、再び電源を入れてください。正しいパスワードを入力すると、キーボードとマウスのロックが解除され、コンピューターは通常の操作を開始します。

始動パスワードを設定および変更する： 装置構成ユーティリティーを使用して、始動パスワードを設定または変更します。始動パスワードには、組合せは自由で最高 7 文字 (A-Z、a-z、0-9) を使用できます。

重要

始動パスワードは、忘れないようにメモして、安全な場所に保管しておいてください。始動パスワードが設定されている場合、最初にパスワードを指定しないと、キーボードおよびマウスを活動化することができません。パスワードを紛失したり忘れてしまった場合、コンピューターのカバーを外してシステム・ボード上のジャンパーを移動させなければ、パスワードの変更や削除を行うことができません。詳細については、60ページの『紛失したり忘れた場合のパスワードの消去』を参照してください。

始動パスワードを設定または変更するには、次の手順で行います。

1. 装置構成ユーティリティーを開始します (39ページの『装置構成ユーティリティーの始動』を参照してください)。
2. 装置構成ユーティリティー・メニューから「システム・セキュリティ」を選択します。
3. 「始動パスワード」を選択します。
4. パスワードを入力して、下矢印 (↓) を押します。
5. パスワードを再度入力します。
6. 「始動パスワードの設定および変更」を選択し、画面の指示に従ってください。
7. システム・セキュリティ・メニューが表示されます。**Esc** を押して、装置構成ユーティリティー・メニューに戻ります。
8. プログラムを終了する前に、装置構成ユーティリティー・メニューから「設定を保存する」を選択します。
9. 装置構成ユーティリティーを終了するために、**Esc** を押して、画面の指示に従ってください。

始動パスワードを無効にする: 装置構成ユーティリティを使用して、始動パスワードを無効にします。

始動パスワードを無効にするには、次の手順で行います。

1. 装置構成ユーティリティを開始します (39ページの『装置構成ユーティリティの始動』を参照してください)。
2. 装置構成ユーティリティ・メニューから「システム・セキュリティ」を選択します。
3. 「始動パスワード」を選択します。
4. 「始動パスワードを無効にする」を選択し、画面の指示に従ってください。
5. システム・セキュリティ画面が表示されます。**Esc** を押して、装置構成ユーティリティ・メニューに戻ります。
6. プログラムを終了する前に、装置構成ユーティリティ・メニューから「設定を保存する」を選択します。
7. 装置構成ユーティリティを終了するために、**Esc** を押して、画面の指示に従ってください。

管理者パスワード

管理者パスワードを設定すると、許可されていない人は装置構成ユーティリティーの設定値を変更できなくなります。管理者パスワードが設定されている場合、装置構成ユーティリティーへのアクセスを試みたときに表示されるパスワード・プロンプトに対して管理者パスワードを入力してからでないと、装置構成ユーティリティーの設定値を変更することができません。

複数のコンピューターの設定の管理を担当している場合は、管理者パスワードを設定することが必要になります。

管理者パスワードを設定すると、装置構成ユーティリティーにアクセスするたびに、パスワード・プロンプトが表示されます。パスワードを入力しても、画面にはパスワードは表示されません。間違ったパスワードを入力した場合は、パスワードが間違っていることを知らせる画面メッセージが表示されます。間違ったパスワードを3回入力した場合は、本体の電源をいったん切ってから、再び電源を入れてください。正しいパスワードを入力すると、装置構成ユーティリティー・メニューが表示されます。

始動パスワードと管理者パスワードが両方とも設定されている場合、コンピューターの始動時に表示されるパスワード・プロンプトに対しては、どちらのパスワードを入力しても構いません。ただし、装置構成ユーティリティーの設定値を変更したい場合は、装置構成ユーティリティーへのアクセスを試みたときに表示されるパスワード・プロンプトに対して、管理者パスワードを入力する必要があります。このプロンプトで始動パスワードを入力した場合、装置構成ユーティリティーで限られた情報を表示することはできますが、設定値を変更することはできません。

管理者パスワードを設定および変更する： 装置構成ユーティリティーを使用して、管理者パスワードを設定または変更します。パスワードには、組合せは自由で最高 7 文字 (A-Z、a-z、0-9) を使用できます。

重要

管理者パスワードは、忘れないようにメモして、安全な場所に保管しておいてください。管理者パスワードが設定されている場合、ユーザーは最初に管理者パスワードを使用しないと、装置構成ユーティリティーにアクセスすることができません。パスワードを紛失したり忘れたりしてしまった場合、コンピューターのカバーを外してシステム・ボード上のジャンパーを移動させなければ、パスワードの変更や削除を行うことができません。詳細については、60ページの『紛失したり忘れた場合のパスワードの消去』を参照してください。

管理者パスワードを設定または変更するには、次の手順で行います。

1. 装置構成ユーティリティーを開始します (39ページの『装置構成ユーティリティーの始動』を参照してください)。
2. 装置構成ユーティリティー・メニューから「システム・セキュリティ」を選択します。
3. 「管理者パスワード」を選択します。
4. パスワードを入力して、下矢印 (↓) を押します。
5. パスワードを再度入力します。
6. 「ユーザーによる始動パスワードの変更」で「可」または「不可」を選択します。選択を切り替えるときは、左矢印 (←) または右矢印 (→) を押します。(「可」を選択すると、管理者パスワードが設定されている場合でも、ユーザーが始動パスワードを変更することができます。「不可」を選択すると、管理者パスワードが設定されている場合に、ユーザーが始動パスワードを変更することができません。)
7. 「管理者パスワードの設定及び変更」を選択し、画面の指示に従ってください。
8. 管理者パスワード・メニューが表示されます。**Esc** を 2 回押して、装置構成ユーティリティー・メニューに戻ります。
9. 装置構成ユーティリティーを終了する前に、装置構成ユーティリティー・メニューから「設定を保存する」を選択します。
10. 装置構成ユーティリティーを終了するために、**Esc** を押して、画面の指示に従ってください。

管理者パスワードを無効にする： 装置構成ユーティリティーを使用して、管理者パスワードを無効にします。

管理者パスワードを削除するには、次の手順で行います。

1. 装置構成ユーティリティーを開始します (39ページの『装置構成ユーティリティーの始動』を参照してください)。
2. 装置構成ユーティリティー・メニューから「システム・セキュリティ」を選択します。
3. 「管理者パスワード」を選択します。
4. 「管理者パスワードを無効にする」を選択し、画面の指示に従ってください。
5. システム・セキュリティ画面が表示されます。**Esc** を押して、装置構成ユーティリティー・メニューに戻ります。
6. プログラムを終了する前に、装置構成ユーティリティー・メニューから「設定を保存する」を選択します。
7. 装置構成ユーティリティーを終了するために、**Esc** を押して、画面の指示に従ってください。

紛失したり忘れた場合のパスワードの消去

始動パスワードまたは管理者パスワードを紛失したり、忘れたりした場合、そのパスワードを消去するには、本体のカバーを取り外し、システム・ボード上の CMOS クリア・ジャンパー (パスワード・ジャンパーとも呼ばれる) を動かさなければなりません。本体のカバーの取り外し方、およびジャンパーを動かす方法については、*オプション・ガイド*を参照してください。CMOS クリア・ジャンパーの位置は、本体カバーの内側のシステム・ボード・ラベルを参照してください。

重要

CMOS クリア・ジャンパーを移動した場合、装置構成ユーティリティーはデフォルトの設定値をロードするので、コンピューターを再構成する必要があります。装置構成ユーティリティーを使用してコンピューターを再構成し、新規のパスワードを設定してください。

ご使用のモデルがイーサネット・サポートを内蔵している場合、コンピューター構成が消去されると、初期始動順序用の特別な工場設定値も消去されることに注意してください。詳細については、66ページの『ネットワークから始動するための始動順序』を参照してください。

省電力機能の使用法

本製品には、内蔵の省エネルギー機能が標準装備されています。装置構成ユーティリティの「省電力機能」メニューを使用して、省エネルギー設定の表示と変更を行うことができます。この項では、本製品の省電力機能について説明し、この機能の使用法を示します。

重要

モニターなどの装置に省電力機能がない場合には、本製品が省電力状態になったときにこれらの装置が損傷を受けることがあります。モニターに対して省電力機能を選択する前に、そのモニターが省電力機能（DPMS）をサポートするかどうかを、モニターに付属のマニュアルで調べてください。

ハードウェア省電力機能

ハードウェア省電力を使用すれば、コンピューター、マイクロプロセッサ、およびモニター（モニターが DPMS をサポートしている場合）を、操作が行われないまま指定の期間が経過した場合に、省電力状態にすることができます。

省電力には 3 つのレベルがあります。それぞれのレベルについて、選択した省電力オプションが有効になるまでの、コンピューターが操作されない時間の長さを指定することができます。レベル 1 では 5 分から 4 時間まで、レベル 2 では 10 分から 5 時間まで、レベル 3 では 15 分から 6 時間までがそれぞれ選択できます。それぞれのレベルでは、以下のオプションの値を指定することで、エネルギーの節約量を定めることができます。

システム電源: このオプションでは、コンピューターの電源を入れたままにしたい場合は「オン」、コンピューターを終了したい場合は「オフ」を選択できます。

プロセッサ速度: このオプションでは、マイクロプロセッサの実行速度を内部クロック速度の 1%、10%、25%、または 50% に設定できます。また、マイクロプロセッサの省電力機能を使わないようにすることもできます。コンピューターの何らかの活動により、マイクロプロセッサは通常速度に戻ります。

ディスプレイ省電力: このオプションでは、モニターの省電力機能を使わないようにするか、以下の省電力状態のいずれかを選ぶことができます。

- スタンバイ: このモードでは、画面には何も表示されませんが、何らかの活動が検出されるとただちに画面イメージが復元されます。
- サスペンド: このモードでは、モニターの消費電力はスタンバイ・モード時よりも低くなります。画面には何も表示されませんが、何らかの活動が検出された後数秒以内に画面イメージが復元されます。
- オフ: このモードでは、モニターの電源が切られます。再びモニターの電源を入れるためには、モニターの電源スイッチを押す必要があります。このモードを使用するためには、モニターがこの機能を装備している必要があります。

ハードディスク省電力: このオプションでは、ドライブが約 20 分間活動しなかったら、ハード・ディスク・ドライブを“スピン・ダウン”(ドライブのモーターを停止する)することが可能になります。ハード・ディスクに対して読取りや書込みを行おうとすると、スピンドルは数秒以内に元の状態に戻ります。

ハードウェア省電力機能を設定する: ハードウェア省電力機能を設定するには、以下のステップに従ってください。

1. 装置構成ユーティリティを開始します (39ページの『装置構成ユーティリティの始動』を参照してください)。
2. 装置構成ユーティリティ・メニューから「省電力機能」を選択します。
3. 「APM BIOS サポート」が「する」に設定されていることを確認します。そうっていない場合は、左矢印 (←) または右矢印 (→) を使用して、設定を変更します。
4. 「ハードウェア省電力」を選択します。
5. 「ハードウェア省電力」を「する」に設定します。
6. 省電力の 3 つのレベル (システム電源、プロセッサ速度、およびディスプレイ省電力) についての値を、必要に応じて選択します。
7. 「ハードディスク省電力」を「する」または「しない」に設定します。
8. **Esc** を 2 回押して、装置構成ユーティリティ・メニューに戻ります。
9. プログラムを終了する前に、装置構成ユーティリティ・メニューから「設定を保存する」を選択します。
10. 装置構成ユーティリティを終了するために、**Esc** を押して、画面の指示に従ってください。

自動パワー・オン機能

「省電力機能」メニューの中の自動パワー・オン機能を使用すると、本製品の電源を自動的に入れる機能を使用可能にしたり使用不可にしたりすることができます。

シリアル・ポート/モデムの着信 (リングによる始動): 内蔵モデムやシリアル・ポートに接続されたモデムでリングが検出されたときに、システムの電源を入れるようにするには、この機能を「する」に設定します。

タイマー・ウェイク・アップ (タイマーによる始動): この機能を使用すると、コンピューターの電源を自動的に入れる日付と時刻を指定できます。この機能は、一回のみ実行することも、毎日、同じ時刻に実行することもできます。

Wake on LAN: 本製品をイーサネット接続用に正しく構成して、ネットワーク管理ソフトウェアを使用すれば、IBM の開発した Wake on LAN 機能を使用することができます。Wake on LAN を「する」に設定すれば、別のコンピューターから LAN を介して特定の信号を本製品が受信したときに、本製品の電源が入ります。詳細については、69ページの『Wake on LAN』を参照してください。

自動パワー・オン機能を設定する: 自動パワー・オン機能を設定するには、以下のステップに従ってください。

1. 装置構成ユーティリティを開始します (39ページの『装置構成ユーティリティの始動』を参照してください)。
2. 装置構成ユーティリティ・メニューから「省電力機能」を選択します。
3. 「自動パワー・オン」を選択します。
4. 設定値の表示または変更を行いたいメニュー項目を選択します。選択を切り替えるためには、左矢印 (←) または右矢印 (→) を使用します。
5. **Esc** を 2 回押して、装置構成ユーティリティ・メニューに戻ります。
6. プログラムを終了する前に、装置構成ユーティリティ・メニューから「設定を保存する」を選択します。
7. 装置構成ユーティリティを終了するために、**Esc** を押して、画面の指示に従ってください。

システム管理を設定する

この項は、本製品のネットワーク・インターフェースの構成方法を説明しており、主にネットワーク管理者向けに書かれています。本製品のシステム管理機能の詳細については、32ページの『システム管理機能の使用法』を参照してください。

装置構成ユーティリティで、本製品のネットワーク・インターフェースを構成するための設定を、使用可能および使用不能にすることができます。以下のものを設定します。

イーサネット・サポート

リモート・プログラム・ロード (RPL) および動的ホスト構成プロトコル (DHCP)

自動パワーオン始動シーケンス

Wake on LAN

ネットワークからの POST/BIOS の更新

内蔵イーサネット・サブシステムを装備していれば、装置構成ユーティリティで本製品の媒体アクセス制御 (MAC) アドレスを表示することもできます。MAC アドレスにアクセスするには、装置構成ユーティリティ・メニューから「デバイスと I/O ポート」を選択し、次に **Ethernet Setup** (イーサネットの設定) を選択します。MAC アドレスを表示することができますが、設定値を変更することはできません。

続いて、装置構成ユーティリティでのその他のシステム管理設定へのアクセス方法を説明します。

イーサネットの使用

この設定は、本製品内の内蔵イーサネット・コントローラーを使用可能にしたり使用不可にしたりするために使用します。設定値は、デフォルトでは使用可能になっています。

内蔵イーサネットを使用しない場合は、「イーサネットの使用」の設定を「しない」にします。こうすれば、システム・リソースを開放して、オプションのアダプター用を使用することができます。

「イーサネットの使用」の設定にアクセスするには、装置構成ユーティリティ・メニューから「デバイスと I/O ポート」を選択して、次に「イーサネットの設定」を選択します。

注: システム・ボード内蔵イーサネットのシリアル番号は 10000000 です。オプションのネットワーク・アダプターを導入する場合、この情報が必要になる場合があります。

RPL および DHCP

リモート・プログラム・ロード (RPL) を使用すると、RPL 用に構成された LAN を介して、サーバーから直接本製品を始動することが可能になります。RPL を利用するには、LANClient Control Manager などのネットワーク管理ソフトウェアが必要です。

動的ホスト構成プロトコル (DHCP) は、ブート・イメージを遠隔からロードできるように、イントラネット¹⁰ 上の DHCP サーバーがインターネット・プロトコル (IP) アドレスを本製品に対して割り当てることを可能にするものです。Intel LAN Desk Configuration Manager などのネットワーク管理ソフトウェアが DHCP を使用できます。

内蔵イーサネット・サブシステムを装備しているモデルでは、装置構成ユーティリティーによって選択すれば RPL および DHCP をただちに使用可能です。内蔵イーサネットのないモデルでもこれらの機能を使用できますが、使用できるのは RPL または DHCP に対応した ROM を搭載した、オプションのネットワーク・アダプターを装備している場合のみです。詳細については、オプションのアダプターに付属のマニュアルを参照してください。

内蔵イーサネットを装備しているモデルにオプションのネットワーク・アダプターをインストールした場合で、オプションのアダプターの RPL 機能または DHCP 機能を使用したい場合は、「イーサネットの使用」を「しない」にします。内蔵イーサネット・サブシステムを使用不可にする方法については、64ページの『イーサネットの使用』を参照してください。

RPL または DHCP を使用可能または使用不可にするには、以下のステップに従ってください。

1. 装置構成ユーティリティーを開始します (39ページの『装置構成ユーティリティーの始動』を参照してください)。
2. 「デバイスと I/O ポート」を装置構成ユーティリティー・メニューから選択し、次に「イーサネットの設定」を選択します。
3. 「イーサネットの使用」を「する」に設定します。
4. 「ネットワークからの始動」で、矢印キーを使用して「RPL」または「DHCP」を選択します。(ネットワークからオペレーティング・システムを始動しない場合は、「しない」を選択します。)
5. 装置構成ユーティリティー・メニューに戻るまで、**Esc** を押します。

¹⁰ イントラネットとは、インターネットで提供されるサービスと同様なサービスを提供する、組織内のネットワークです。ただし、インターネットとは必ずしも接続していません。

6. 「始動オプション」を選択し、次に「始動順序」を選択します。始動順序の中のいずれかの設定値を「ネットワーク」に設定する必要があります。
7. 設定の保存と装置構成ユーティリティの終了の方法については、43ページの『装置構成ユーティリティの終了方法』を参照してください。

注: RPL 機能および DHCP 機能を使用している場合、内蔵イーサネット・サブシステム特有のエラー・メッセージが出る場合があります。この場合は、エラー・メッセージを記録して、ネットワーク管理者に問題を報告してください。また、これらのエラー・メッセージについては、105ページの『内蔵イーサネット特有のエラー・メッセージ』に説明があります。

工場出荷時の始動順序: 本製品の始動順序は工場出荷時に以下のように設定されています。

メニュー項目	設定値
始動オプション	
始動順序	
主始動デバイス	ディスクット・ドライブ 0
第 2 始動デバイス	ハードディスク 0
第 3 始動デバイス	ネットワーク (RPL)
第 4 始動デバイス	非動作
自動パワー・オン時の始動順序	
主始動デバイス	ハードディスク
第 2 始動デバイス	ネットワーク
第 3 始動デバイス	非動作
第 4 始動デバイス	非動作

注: これらの工場設定値は、本製品のデフォルトの設定値ではありません。デフォルト設定値が復元されると、工場設定値は消去されます。(デフォルト設定値については、68ページの『始動順序のデフォルト設定値』を参照してください。)デフォルト設定値をロードすれば、工場設定値を以下の表に示す値にいつでも戻すことができます。

始動順序の設定の表示または変更を行うには、装置構成ユーティリティ・メニューから「始動オプション」を選択し、次に「始動順序」を選択します。

ネットワークから始動するための始動順序: 本製品では、始動順序の初期設定値は、LANClient Control Manager などのネットワーク管理ソフトウェアをサポートするための設定にはなっていません。本製品を正しく構成し、始動順序を以下のように設定すれば、本製品を始動するごとに毎回リモート・プログラム・ロードを実行することができます。

始動順序の設定の表示または変更を行うには、装置構成ユーティリティー・メニューから「始動オプション」を選択し、次に「始動順序」を選択します。

主始動デバイス	ディスク・ドライブ 0
第 2 始動デバイス	ネットワーク (RPL) ¹¹
第 3 始動デバイス	ハードディスク 0
第 4 始動デバイス	非動作

上記の設定値が示しているとおり、本製品が始動すると (ディスク・ドライブにフラッシュ・ディスクがなければ) ネットワークを介して RPL の実行を試みます。このとき、以下のメッセージが画面に表示されます。

```
Press "Home" key to cancel RPL
```

本製品が LAN に正しく接続されていれば、正常に終了するか、**Home** キーを押して取り消すまで RPL は実行を続けます。(ネットワーク・カードは、ネットワーク上に RPL の要求パケットを一定時間ごとにブロードキャストします。そのため、数多くのワークステーションが RPL を要求したままの状態ネットワークに接続されていると、ネットワークのパフォーマンスが低下します。)本製品が LAN に接続されていないか、RPL を取り消した場合は、本製品は第 3 始動デバイスのハード・ディスク・ドライブにアクセスして、オペレーティング・システムのロードを試みます。「ネットワークからの始動」(「イーサネットの設定」メニューにある)によって RPL の代わりに DHCP を使用可能にした場合は、ネットワーク・ブート時にさらに以下のメッセージが毎回表示されます。

```
Press "Spacebar" to Boot from Network
```

本製品が LAN に正しく接続されている場合、DHCP を呼び出すためにスペース・キーを押す必要があります。本製品が LAN に接続されていないか、Home キーを押して RPL を取り消した場合は、本製品は DHCP をバイパスして、第 3 始動デバイスにアクセスします。

¹¹ RPL はこのメニューに表示されませんが、第 2 始動デバイスがアクセスされたときに実行されるのはこの処理 (リモート・プログラム・ロード) です。この設定値は、「イーサネットの設定」メニューの、「ネットワークからの始動」で変更できます。詳細については、65 ページの『RPL および DHCP』を参照してください。

重要

内蔵イーサネット・サブシステムは、使用しない場合は使用不可にしてください。詳細については、64ページの『イーサネットの使用』を参照してください。内蔵イーサネットを使用不可にすると、本製品を始動する際に毎回 RPL メッセージや DHCP メッセージが表示されなくなります。

RPL または DHCP に関連したエラー・メッセージが表示された場合は、詳細について105ページの『内蔵イーサネット特有のエラー・メッセージ』を参照してください。

始動順序のデフォルト設定値: 本製品の始動順序についてのデフォルト設定値を以下に示します。デフォルト設定値は、内蔵イーサネットを装備しているコンピューターと装備していないコンピューターとでは異なります。始動順序の設定の表示または変更を行うには、装置構成ユーティリティ・メニューから「始動オプション」を選択し、次に「始動順序」を選択します。

注: デフォルト設定値をロードする場合は、66ページの『工場出荷時の始動順序』に示す値は変更されます。

以下に示すものは、本製品が内蔵イーサネット・サブシステムを装備している場合のデフォルト設定値です。

メニュー項目	設定値
始動オプション	
始動順序	
主始動デバイス	ディスクレット・ドライブ 0
第 2 始動デバイス	ハードディスク 0
第 3 始動デバイス	ネットワーク (RPL)
第 4 始動デバイス	非動作
自動パワー・オン時の始動順序	
主始動デバイス	動作
第 2 始動デバイス	ネットワーク
第 3 始動デバイス	ハードディスク 0
第 4 始動デバイス	非動作
第 4 始動デバイス	非動作

以下に示すものは、本製品が内蔵イーサネット・サブシステムを装備していない場合のデフォルト設定値です。

メニュー項目	設定値
始動オプション	

メニュー項目	設定値
始動順序	
主始動デバイス	ディスクット・ドライブ 0
第 2 始動デバイス	ハードディスク 0
第 3 始動デバイス	非動作
第 4 始動デバイス	非動作
自動パワー・オン時の始動順序	動作
主始動デバイス	ハードディスク 0
第 2 始動デバイス	非動作
第 3 始動デバイス	非動作
第 4 始動デバイス	非動作

自動パワー・オン時の始動順序

遠隔から本製品の電源を入れると、自動パワー・オン時の始動順序が始動デバイスの順序を決定します。始動デバイスは、オペレーティング・システムのロードに使用されるデバイスです。自動パワー・オン時の始動順序の設定値は、シリアル・ポート/モデム・リングの着信や、タイマー・ウェイク・アップ、Wake on LAN などの本製品の自動パワー・オン機能において使用されます。

自動パワー・オン時の始動順序の設定にアクセスするには、装置構成ユーティリティ・メニューからの「始動オプション」を選択し、次に「始動順序」を選択します。

Wake on LAN

この設定は、ネットワーク管理者が遠隔からコンピューターの電源を入れることを可能にする、IBM の開発した Wake on LAN 機能を使用可能または使用不可にするために使用します。Wake on LAN をサポートするには、リモート・ネットワーク管理ソフトウェアを使用する必要があります。このようなソフトウェアは、たとえば LANClient Control Manager や TME 10 NetFinity などです。

Wake on LAN の設定にアクセスするには、装置構成ユーティリティ・メニューから「省電力機能」を選択し、次に「自動パワー・オン」を選択します。

注: オプションのネットワーク・アダプターで Wake on LAN を使用するには、アダプターが Wake on LAN をサポートしており、正しく構成されている必要があります。

ネットワークからの **POST/BIOS** の更新

この機能を使用可能にすると、ネットワーク管理者が本製品の POST/BIOS を遠隔から更新することができます。本製品に管理者パスワードが設定してある場合に、ネットワーク管理者がパスワードを入力する必要はありません。この機能を利用するには、ネットワーク管理ソフトウェアが必要です。

この設定にアクセスするには、装置構成ユーティリティー・メニューから「システム・セキュリティ」を選択し、次に「**POST/BIOS** アップデート」を選択します。

第6章 問題解決

本製品の問題は、ハードウェア、ソフトウェア、あるいはユーザーのエラー（たとえば、誤ったキーを押した場合など）が原因となって発生します。この章で説明する診断援助機能を使用すると、ユーザー自身で問題を解決したり、有益な情報を集めてサービス技術員に報告することができます。

ハードウェアは、この章の手順に従って検査することができます。また、本製品に同梱の診断プログラムを利用することもできます（診断プログラムについての説明は、別冊の「診断プログラム・ユーザーズ・ガイド」を参照してください）。

ハードウェアの検査に問題がなく、ユーザー側にエラーがない場合には、ソフトウェアに問題がある可能性があります。ソフトウェアに問題があると考えられる場合、本製品に IBM 事前インストール・ソフトウェアが搭載されている場合は、*初期導入済ソフトウェア*についておよび本製品に付属のオペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。ユーザーが独自のソフトウェア・アプリケーションを導入した場合は、そのソフトウェアのマニュアルを参照してください。

エラー・メッセージ

エラー・メッセージは、テキスト、数値、またはその両方で画面に表示されます。以下のタイプのエラー・メッセージがあります。

POST エラー・メッセージ

始動時に POST がハードウェアに関する問題を検出したか、ハードウェア構成の変更が検出されたときに表示されるメッセージ。POST エラー・メッセージは、3、4、5、8、または 12 桁の英数字からなるメッセージで、簡単な説明も入っています (ただし、I999XXXX エラーは例外です)。

エラー・メッセージの原因とその処置についての詳細は、74ページの『POST 問題の解決』および 77ページの『POST エラー・メッセージ表』を参照してください。

ソフトウェア生成エラー・メッセージ

アプリケーション・プログラムまたはオペレーティング・システム (あるいはその両方) で問題や矛盾が検出された場合に表示されるメッセージです。オペレーティング・システムおよびその他のソフトウェアの問題に関するエラー・メッセージは、通常はテキスト・メッセージですが、数字メッセージの場合もあります。ソフトウェア・エラー・メッセージの詳細については、オペレーティング・システムやアプリケーション・プログラムのマニュアルを参照してください。

診断エラー・メッセージ

診断テスト・プログラムでハードウェアの問題が検出されたときに表示されるメッセージです。このメッセージは、障害のある部分を識別するために使用できるテキスト情報を表示します。

内蔵イーサネット特有のエラー・メッセージ

内蔵イーサネット、および RPL 環境や DHCP 環境に関して問題が発生した場合に表示されるメッセージです。このメッセージは、本製品の内蔵イーサネット・コントローラーやソフトウェア・コードに特有のものです。

自己診断テスト

本製品は、本体の電源を入れるたびに、基本操作を検査するための一連のテストを実行します。この一連のテストのことを、*自己診断テスト (POST)*と呼んでいます。

POST では、次の検査を行います。

基本システム・ボードの動作を検査する。

メモリーの動作を検査する。

現在のシステム構成と、装置構成ユーティリティによって設定された構成を比較する。

ビデオ操作を始動する。

ディスク・ドライブが動作するかどうか検査する。

ハード・ディスク・ドライブおよび CD-ROM (導入されている場合) が動作するかどうか検査する。

POST が開始すると、テスト中のメモリーの量を表す数字が、システム内のメモリーの合計量に達するまで画面の左上隅に表示されます。高速 POST を実行するため、または装置構成ユーティリティにアクセスするためのオプションが、画面の左下隅に表示されます。

注: 基本入出力システム (BIOS) がランダム・アクセス・メモリー (RAM) を一部使用するため、表示される使用可能なメモリー容量は実際よりもやや少なくなります。

POST が何も問題を検出せずに終了すると、ピープ音が 1 回鳴り、オペレーティング・システムまたはアプリケーション・プログラムの最初の画面が表示されます (始動パスワードを設定していない場合)。始動パスワードを設定した場合は、パスワード・プロンプトが表示されません。パスワードを入力しないと、オペレーティング・システムまたはアプリケーション・プログラムの最初の画面は表示されません。(パスワードの使用についての詳細は、53ページの『パスワードの使用法』を参照してください。)

POST が問題を検出した場合は、ピープ音が複数回鳴るか、あるいはピープ音がまったく鳴りません。ほとんどの場合、エラー・コードが画面の左上隅に表示され、場合によってはエラーの記述がコードの横に表示されます。(複数のエラー・コードと記述が画面に表示されることもあるので注意してください。) エラー・メッセージの原因とその処置についての詳細は、74ページの『POST 問題の解決』および 77ページの『POST エラー・メッセージ表』を参照してください。

POST 中にピープ音が鳴らなかった場合は、95ページの『問題判別表』を参照してください。本体を修理する必要があるかもしれません。

POST 問題の解決

自己診断テスト (POST) 中にエラー・メッセージを受け取った場合、この項で説明するステップを完了すると、問題を解決できることがあります。

注

デバイスの追加または取外しの直後、またはデバイスの位置を変更した直後にエラー・メッセージを受け取った場合は、44 ページの手順に従ってください。それでもエラー・メッセージがなくなる場合は、続いて以下の指示に従ってください。

1. コンピューターを始動したときに画面に表示された、すべてのエラー・コード番号と記述を書き留めます。(1 つの問題が原因で複数のエラー・メッセージが表示される場合があります。最初のエラー・メッセージの原因を修復すると、次に本体の電源を入れたときに、他のエラー・メッセージも表示されなくなることがあります。)
2. 始動パスワードを設定した場合は、パスワード・プロンプトが表示されます。始動パスワードと管理者パスワードの両方を設定した場合は、パスワード・プロンプトに対して、どちらのパスワードを入力しても構いません。ただし、装置構成ユーティリティー内の設定値を変更することが必要になると思われる場合は、パスワード・プロンプトに対して管理者パスワードを入力することが必要です。始動パスワードを入力した場合でも、「POST スタートアップ・エラー」画面に表示されるエラー・コードおよびエラー・コードの説明を見ることができます。また、装置構成ユーティリティー内の限られた情報を見ることができます。ただし、設定値を変更することはできません。
3. ほとんどのエラーの場合、装置構成ユーティリティーが自動的に開始されるので、ユーザーは問題の識別および訂正を試みることができます。装置構成ユーティリティーが開始されると、「POST スタートアップ・エラー」という画面が表示されます。(「POST スタートアップ・エラー」画面は、ただちには表示されません。約 1 分間待たなければなりません。)「POST スタートアップ・エラー」画面が表示されない場合は、ステップ 6 に進んでください。
4. 装置構成ユーティリティー・メニューにアクセスしたい場合は、「POST スタートアップ・エラー」画面で「装置構成を設定する」を選択します。装置構成ユーティリティーを終了したい場合は「装置構成を設定しない」を選択します。(現在の設定を何も変更せずに装置構成ユーティリティーを終了する場合について、ステップ 5 の「重要」テキスト枠を参照してください。)項目を選択するには、上矢印 (↑) または下矢印 (↓) を押して項目を強調表示してから **Enter** を押します。

5. ステップ 4 で「装置構成を設定する」を選択した場合、装置構成ユーティリティー・メニューが画面に表示されます。誤動作しているメニュー項目、あるいは前回に本体の電源を入れた以降に変更された項目があれば、その横にポインターが置かれています。フラグが付いているメニュー項目を意図的に変更した覚えがない場合は、その項目には誤動作があるものと思われます。変更した場合は、この続きに進んでください。変更しなかった場合は、ステップ 5e に進んでください。

装置構成ユーティリティーを使用するには、以下のようにします。

- a. 上矢印 (↑) または下矢印 (↓) を使用して、フラグが付いている (または、ユーザーが表示したい) メニュー項目を選択し、**Enter** を押します。
- b. その項目に特有の新しいメニューが表示されます。メニュー項目の選択を切り替えるときは、左矢印 (←) または右矢印 (→) を押します。(各メニュー項目にはヘルプ画面があります。ヘルプ画面を表示するには、そのメニュー項目を選択して **F1** を押します。)
- c. 設定値の表示および変更が終了したら、**Esc** を押して、装置構成ユーティリティー・メニューに戻ります。
- d. プログラムを終了する前に、「設定を保存する」を選択します。装置構成ユーティリティー・メニューを終了すると (ステップ 5e を参照)、オペレーティング・システムが自動的に開始されます (IDE ハード・ディスク・ドライブに未解決の問題がない場合)。

重要

装置構成ユーティリティーの設定値を何も変更しなかった場合は、以下のことに注意してください。

設定を保存せずに装置構成ユーティリティーを終了すると、エラー・メッセージが表示されることがあります。また、本体を再始動すると、POST エラー・メッセージが表示され、再び装置構成ユーティリティーが自動的に開始されます。

設定の保存を選択してから装置構成ユーティリティーを終了すれば、エラー・メッセージは表示されません。システムは、装置構成ユーティリティーで現在表示されているとおりにすべての設定値を保存し、オペレーティング・システムが開始されます (IDE 装置に未解決の問題がない場合)。

- e. 装置構成ユーティリティーを終了するために、**Esc** を押して、画面の指示に従ってください。

6. エラー・メッセージの原因とその処置についての詳細は、下表を参照してください。

問題	参照箇所
POST エラー・コードまたはメッセージが表示される。	77ページの『POST エラー・メッセージ表』
2 回以上ピーブ音が鳴った後で、アプリケーション・プログラムまたはオペレーティング・システムが表示される。	103ページの『診断プログラム』
ブランクの画面、読取り不可能な画面、またはその他の異常な応答が発生する。	95ページの『問題判別表』

問題を解決することができず援助が必要な場合は、109ページの第7章、『ヘルプ、サービス、および情報の入手』を参照してください。

POST エラー・メッセージ表

本製品では、複数のエラー・メッセージが表示される場合があります。最初に発生したエラーが、後続のエラーの原因になっていることがよくあります。以下の POST メッセージ表を使用する際には、必ず画面に表示された**最初**のエラー・メッセージに対する処置を取ることから始めてください。下表の“X”には英数字が入ります。

重要

本体のカバーを取り外す必要がある場合は、*オプション・ガイド*を参照してください。

POST メッセージ	説明
101 102	システム・ボードとマイクロプロセッサのテスト中に障害が発生しました。 処置: 本体の修理を依頼してください。
110	システム・ボードのテスト中にメモリー・パリティ障害が発生しました。 処置: 診断プログラムを実行して、DIMM に問題があることを確認してください。 (本製品で提供される診断プログラムについての詳細は、103ページの『診断プログラム』を参照してください。) 障害のある DIMM を識別するためにシステム・メモリーを再構成する必要がある場合は、 <i>オプション・ガイド</i> を参照してください。 この方法では障害のある DIMM を識別できない場合は、本体の修理を依頼してください。
114	アダプター読み取り専用メモリー (ROM) エラーが発生しました。 処置: システムの始動のために必要でないすべてのアダプターを取り外し、一度に 1 つずつ再取付けし、再取付けするたびにテストを実行します。アダプターに障害がある場合は、アダプターを交換してください。 問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。
121	ハードウェア・エラーが発生しました。 処置: 本体の修理を依頼してください。

161	<p>システム・ボード上の電池が消耗しています。</p> <p>注意: リチウム電池の交換は正しく行わないと、破裂する恐れがあります。</p> <p>IBM 指定の電池または同等品と交換してください。電池は、地方自治体の条例または規則に従って廃棄してください。(電池の使用、廃棄、および交換については、viiページの『安全に正しくお使いいただくために』および 37ページの『電池を交換する』を参照してください。)</p> <p>処置: 電池を交換するまでも、コンピューターは使用できます。ただし新しい電池を入れるまでは、本体の電源を入れるたびに装置構成ユーティリティを実行して、日付と時刻を設定する必要があります。(装置構成ユーティリティの使用方法については、39ページの第5章、『装置構成ユーティリティの使用法』を参照してください。)</p>
162	<p>入出力装置の構成に変更がありました。以下の条件の 1 つまたは複数当てはまる場合に、このメッセージが表示されます。</p> <p>新しい装置を導入した。</p> <p>装置を別の場所に移動した、または別のケーブル接続に変えた。</p> <p>装置を除去したか、ケーブルから切り離れた。</p> <p>装置が故障しており、本製品によって導入済み装置として認知されなくなっている。</p> <p>外付け装置の電源が入っていない。</p> <p>CMOS メモリー (不揮発 RAM) で無効なチェックサムが検出された。</p> <p>処置:</p> <ol style="list-style-type: none">1. すべての外付け装置の電源が入っていることを確認してください。本体の電源を入れる前に、外付け装置の電源が入っていないとなりません。2. 装置がすべて正しく導入されており、しっかり接続されていることを確認してください。3. 装置を追加または除去したり、装置の場所を変更したりした場合は、装置構成ユーティリティで新しい構成を保存する必要があります。構成の保存の詳細とその方法については、44 ページを参照してください。4. 装置を追加または除去したり、場所を移動していない場合は、おそらく装置が故障しています。診断プログラムを実行すると、障害のある装置を特定できる場合があります。(本製品で提供される診断プログラムについての詳細は、103ページの『診断プログラム』を参照してください。) <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>
163	<p>クロックが正しく機能していません。</p> <p>処置: 正しい日付と時刻を設定してください。日付と時刻を正しく設定して保存してもまだ 163 エラー・メッセージが表示される場合は、電池を交換してください。</p> <p>それでも問題を訂正できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p> <p>注: 修理するまでも本体を使用することができますが、日付と時刻を使用するアプリケーション・プログラムに影響が出ます。</p>

POST メッセージ	説明
164	<p>メモリー構成に変更がありました。このエラーは、メモリーの追加、除去、または誤ったインストールが原因で生じます。</p> <p>注: エラーが訂正されるまでも本体を使用することができますが、メモリー容量が減ります。</p> <p>処置:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. メモリーを追加した場合は、<i>オプション・ガイド</i>を参照して、新しいメモリーが本製品に適合するもので、正しく導入されていることを確認してください。 2. メモリーを追加または除去した場合は、装置構成ユーティリティーで新しい構成を保存する必要があります。構成の保存の詳細とその方法については、44 ページを参照してください。 3. 診断プログラムを実行すると、問題のある DIMM の位置が特定され、追加情報を入手できることがあります。(本製品で提供される診断プログラムについての詳細は、103ページの『診断プログラム』を参照してください。) <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>
20X	<p>メモリーのテスト中に障害が発生しました。このエラーの原因としては、メモリーのインストールが正しくない、DIMM に障害がある、またはシステム・ボードに障害があることが考えられます。</p> <p>処置:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. メモリーを追加した場合は、<i>オプション・ガイド</i>および本書の39ページの第5章、『装置構成ユーティリティーの使用法』を参照して、新しいメモリーが本製品に適合するもので、正しく導入されていることを確認してください。 2. 診断テストを実行して、問題を確認してください。(本製品で提供される診断プログラムについての詳細は、103ページの『診断プログラム』を参照してください。) <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>
301 303	<p>キーボードおよびキーボード・コントローラーのテスト中に障害が発生しました。このエラー・メッセージが表示されるときに、連続するピーブ音が鳴ることがあります。</p> <p>処置:</p> <p>次のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーボード上になにかが置かれており、キーを押していないか。 2. キーが押されたままになっていないか。 3. キーボード・ケーブルが、本体のキーボード・コネクタにしっかり接続されているか。(キーボード・コネクタの場所については、10ページの『外部コネクタ』を参照してください。) <p>注: 新しいマウスや他のポインティング装置を接続したばかりの場合は、本体の電源を切って、その装置を外します。少なくとも 5 秒間待ってから、本体の電源を入れます。これでエラー・メッセージが出なくなった場合は、その装置を交換してください。エラー・メッセージが再表示される場合は、キーボードとケーブル、または本体の修理を依頼してください。</p>

POST メッセージ	説明
601	<p>ディスクット・ドライブとディスクット・ドライブ・コントローラーのテスト中に障害が発生しました。このエラーは、ケーブルの接続が緩かったり接続方法が正しくない場合、またはドライブがシステム・ボードに障害があると発生します。</p> <p>注: 本製品を使用することはできますが、1 台または複数のディスクット・ドライブが動作しないことがあります。</p> <p>処置: ディスクット・ドライブのケーブルがすべて正しく取り付けられており、しっかり接続されていることを確認してください。</p> <p>診断テストを実行すると、障害のあるディスクット・ドライブを特定できることがありますが、必ず本体の修理を依頼しなければなりません。(本製品で提供される診断プログラムについての詳細は、103ページの『診断プログラム』を参照してください。)</p>
602	<p>本製品のドライブ内のディスクットを始動できません。ディスクットが壊れているか、またはフォーマットが正しくない可能性があります。</p> <p>処置: 正しくフォーマットされており、状態の良い別の始動可能ディスクットで試してみてください。(ディスクットのフォーマットについて、およびフォーマットの方法については、27ページの『ディスクットをフォーマットする』、およびオペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。)</p> <p>それでも問題を訂正できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>
604	<p>ディスクット・ドライブのテスト中に障害が発生しました。</p> <p>処置:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 装置構成ユーティリティーが、インストールされているディスクット・ドライブのタイプを正しく反映しているか確認します。(装置構成ユーティリティーの使用方法については、39ページの第5章、『装置構成ユーティリティーの使用法』を参照してください。) 2. 診断プログラムを実行してください。(本製品で提供される診断プログラムについての詳細は、103ページの『診断プログラム』を参照してください。) 3. 診断プログラムで障害が検出された場合は、ディスクット・ドライブを交換してください。 <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>
662	<p>ディスクット・ドライブ構成エラーが発生しました。</p> <p>処置:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 装置構成ユーティリティーが、導入されたディスクット・ドライブの個数を正しく反映しているか確認します。(装置構成ユーティリティーの使用法については、39ページの第5章、『装置構成ユーティリティーの使用法』を参照してください。) 2. ディスクット・ドライブの導入または取外しを行った場合、装置構成ユーティリティーで新しい構成を保存する必要があります。構成の保存の詳細とその方法については、44 ページを参照してください。 <p>それでも問題を訂正できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>

1762

IDE 構成エラーが発生しました。以下のいずれかが原因である可能性があります。

ハード・ディスク・ドライブまたはその他の IDE ドライブ (IDE CD-ROM ドライブなど) が追加されたか取り外されましたが、装置構成ユーティリティーに対する変更がまだ保存されていません。構成の保存の詳細とその方法については、44 ページを参照してください。

ハード・ディスク・ドライブまたはその他 IDE ドライブが追加されましたが、ドライブについてのマスター/スレーブの設定が不適切に設定されています。

電源ケーブルまたは IDE ケーブルが切断されているか、完全に接続されていません。

ハード・ディスク・ドライブが故障しています。

処置: 導入された IDE ドライブ (ハード・ディスク・ドライブ、CD-ROM ドライブなど) の数を装置構成ユーティリティーが正しく反映しているかどうかを確認してください。詳細については、39ページの第5章、『装置構成ユーティリティーの使用法』を参照してください。

情報が正しい場合は、設定を保存し、装置構成ユーティリティーを終了して、本体を再始動します。

情報が正しくない場合は、以下のことを行います。

1. 設定を保存 *せずに* 装置構成ユーティリティーを終了します。
2. 電源ケーブルおよび IDE ケーブルがドライブ・コネクタの中に完全に接続されていること、および IDE ケーブルがシステム・ボード上のコネクタの中に完全に接続されているかどうか確認します。
3. 新しいドライブを追加したばかりの場合は、追加したドライブのマスター - スレーブ設定が正しく設定されていることを確認します。新しいドライブが IDE ケーブルに接続している唯一のドライブである場合は、マスターに設定する必要があります。新しいドライブが IDE ケーブル上の 2 番目のドライブである場合は、スレーブに設定する必要があります。

注: 同じケーブルに新しいドライブを 2 つ導入した場合は、一方がマスターに設定されており、もう一方が従属に設定されていることを確認してください。

ジャンパーの位置や設定については、新しいドライブに付属の説明書を参照してください。

4. 本体を再始動します。1762 のエラー・メッセージが再び表示された場合は、装置構成ユーティリティーの IDE ドライブ情報が正しいかどうか確認します。正しければ、情報を保存して本体を再始動します。情報がまだ誤っている場合は、ドライブが故障している可能性があります。本体の修理を依頼してください。

POST メッセージ	説明
178X	<p>ハード・ディスク・ドライブ、あるいは 1 次または 2 次 IDE 装置のテスト中に障害が発生しました。</p> <p>処置:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 診断プログラムを実行してください。(本製品で提供される診断プログラムについての詳細は、103ページの『診断プログラム』を参照してください。) 2. 診断プログラムで障害が検出された場合は、障害のあるハード・ディスク・ドライブ、あるいは 1 次または 2 次の IDE 装置または EIDE 装置を交換してください。 <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>
1800	<p>PCI アダプターが要求しているハードウェア割込みを割り当てることができません。</p> <p>処置:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 装置構成ユーティリティで、従来型の ISA アダプターが正しく設定されているか確認します。ハードウェア割込みの設定値が誤っている場合は、その設定値を変更して保存します。従来型の ISA アダプターによって使用されるリソースを「ISA で使用中」に設定すると、従来型アダプターと競合しないようにプラグ・アンド・プレイ機能を構成できるようになります。 <p>PCI アダプター、ISA アダプター、プラグ・アンド・プレイ・アダプター、および従来型の (プラグ・アンド・プレイでない) アダプターに関する背景情報については、オプション・ガイド および解説書を参照してください。従来型の ISA アダプターに必須の割込みリソースの設定については、アダプターに付属のマニュアルを参照してください。装置構成ユーティリティの使用法については、39ページの第5章、『装置構成ユーティリティの使用法』を参照してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 従来型の ISA アダプターのスイッチが、すべて正しく設定されているかどうか確認します。スイッチの設定については、ISA アダプターに付属のマニュアルを参照してください。 3. 従来型の ISA アダプターによってハードウェア割込みがすべて使用中になっている場合は、インストールする PCI アダプターが割込みを使用できるようにするために、ISA アダプターを取り外すことが必要になる場合があります。アダプターの取外しについては、オプション・ガイドを参照してください。 <p>注: 従来型の ISA アダプターを取り外す場合は、別のアダプターを導入する前に、取り外したアダプターが使用していたハードウェア割込みを「使用可」に設定する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 別の PCI アダプターまたはプラグ・アンド・プレイ・アダプターを導入した場合は、導入する PCI アダプターが割込みを使用できるようにするために、これらのアダプターのいずれかを取り外すことが必要になる場合があります。 <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>

1801

PCI アダプターが要求しているメモリー・アドレスを割り当てることができません。

処置:

1. 装置構成ユーティリティーで、従来型の ISA アダプターが正しく設定されているか確認します。メモリー・リソースの設定が正しくない場合は、設定を変更し、保管してください。従来型の ISA アダプターによって使用されるリソースを「ISA で使用中」に設定すると、従来型アダプターと競合しないようにプラグ・アンド・プレイ機能を構成できるようになります。

PCI アダプター、ISA アダプター、プラグ・アンド・プレイ・アダプター、および従来型の (プラグ・アンド・プレイでない) アダプターに関する背景情報については、*オプション・ガイド* を参照してください。従来型の ISA アダプターに必須のメモリー・リソースの設定値については、アダプターに付属のマニュアルを参照してください。装置構成ユーティリティーの使用方法については、39ページの第5章、『装置構成ユーティリティーの使用方法』を参照してください。

2. 従来型の ISA アダプターのスイッチが、すべて正しく設定されているかどうか確認します。スイッチの設定については、ISA アダプターに付属のマニュアルを参照してください。
3. すべてのメモリー・リソースが従来型の ISA アダプターによって使用されている場合は、インストールする PCI アダプターがメモリーを使用できるようにするために、ISA アダプターを取り外すことが必要になる場合があります。アダプターの取外しについては、*オプション・ガイド* を参照してください。

注: 従来型の ISA アダプターを取り外す場合は、別のアダプターを導入する前に、取り外したアダプターが使用していたメモリー・リソースを「使用可」に設定する必要があります。

4. 別の PCI アダプターまたはプラグ・アンド・プレイ・アダプターを導入した場合は、導入する PCI アダプターがメモリーを使用できるようにするために、これらのアダプターのいずれかを取り外すことが必要になる場合があります。

問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。

1802

PCI アダプターが要求している I/O アドレスを割り当てるできないか、PCI アダプターが故障している可能性があります。

処置:

1. 装置構成ユーティリティで、従来型の ISA アダプターが正しく設定されているか確認します。I/O アドレスの設定が誤っている場合は、設定を変更して保管します。従来型の ISA アダプターによって使用されるリソースを「ISA で使用中」に設定すると、従来型アダプターと競合しないようにプラグ・アンド・プレイ機能を構成できるようになります。

PCI アダプター、ISA アダプター、プラグ・アンド・プレイ・アダプター、および従来型の (プラグ・アンド・プレイでない) アダプターに関する背景情報については、*オプション・ガイド* を参照してください。従来型の ISA アダプターに必須の I/O ポート・リソースの設定値については、アダプターに付属のマニュアルを参照してください。装置構成ユーティリティの使用方法については、39ページの第5章、『装置構成ユーティリティの使用方法』を参照してください。

2. 従来型の ISA アダプターのスイッチが、すべて正しく設定されているかどうか確認します。スイッチの設定については、ISA アダプターに付属のマニュアルを参照してください。
3. すべての I/O アドレスが従来型の ISA アダプターによって使用されている場合は、インストールする PCI アダプターが I/O アドレスを使用できるようにするために、ISA アダプターを取り外すことが必要になる場合があります。アダプターの取外しについては、*オプション・ガイド* を参照してください。

注: 従来型の ISA アダプターを取り外す場合は、別のアダプターを導入する前に、取り外したアダプターが使用していた I/O アドレスを「使用可」に設定する必要があります。

4. 別の PCI アダプターまたはプラグ・アンド・プレイ・アダプターを導入した場合は、導入する PCI アダプターが I/O アドレスを使用できるようにするために、これらのアダプターのいずれかを取り外すことが必要になる場合があります。

問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。

1803

PCI アダプターが要求しているメモリー・アドレスを割り当てることができないか、PCI アダプターが故障している可能性があります。

処置:

1. 装置構成ユーティリティで、従来型の ISA アダプターが正しく設定されているか確認します。メモリー・アドレスの設定が誤っている場合は、設定を変更して保管します。従来型の ISA アダプターによって使用されるリソースを「ISA で使用中」に設定すると、従来型アダプターと競合しないようにプラグ・アンド・プレイ機能を構成できるようになります。

PCI アダプター、ISA アダプター、プラグ・アンド・プレイ・アダプター、および従来型の (プラグ・アンド・プレイでない) アダプターに関する背景情報については、*オプション・ガイド* を参照してください。従来型の ISA アダプターに必須のメモリー・リソースの設定値については、アダプターに付属のマニュアルを参照してください。装置構成ユーティリティの使用方法については、39ページの第5章、『装置構成ユーティリティの使用法』を参照してください。

2. 従来型の ISA アダプターのスイッチが、すべて正しく設定されているかどうか確認します。スイッチの設定については、ISA アダプターに付属のマニュアルを参照してください。
3. すべてのメモリー・アドレスが従来型 ISA アダプターによって使用されている場合は、インストールする PCI アダプターがメモリー・アドレスを使用できるようにするために、ISA アダプターを取り外すことが必要になる場合があります。アダプターの取外しについては、*オプション・ガイド* を参照してください。

注: 従来型の ISA アダプターを取り外す場合は、別のアダプターを導入する前に、取り外したアダプターが使用していたメモリー・アドレスを「使用可」に設定する必要があります。

4. 別の PCI アダプターまたはプラグ・アンド・プレイ・アダプターを導入した場合は、導入する PCI アダプターがメモリー・アドレスを使用できるようにするために、これらのアダプターのいずれかを取り外すことが必要になる場合があります。

問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。

1804

PCI アダプターが要求しているメモリー・アドレスを割り当てることができません。

処置:

1. 装置構成ユーティリティーで、従来型の ISA アダプターが正しく設定されているか確認します。メモリー・アドレスの設定が誤っている場合は、設定を変更して保管します。従来型の ISA アダプターによって使用されるリソースを「ISA で使用中」に設定すると、従来型アダプターと競合しないようにプラグ・アンド・プレイ機能を構成できるようになります。

PCI アダプター、ISA アダプター、プラグ・アンド・プレイ・アダプター、および従来型の (プラグ・アンド・プレイでない) アダプターに関する背景情報については、*オプション・ガイド* を参照してください。従来型の ISA アダプターに必須のメモリー・リソースの設定値については、アダプターに付属のマニュアルを参照してください。装置構成ユーティリティーの使用方法については、39ページの第5章、『装置構成ユーティリティーの使用法』を参照してください。

2. 従来型の ISA アダプターのスイッチが、すべて正しく設定されているかどうか確認します。スイッチの設定については、ISA アダプターに付属のマニュアルを参照してください。
3. すべてのメモリー・アドレスが従来型 ISA アダプターによって使用されている場合は、インストールする PCI アダプターがメモリー・アドレスを使用できるようにするために、ISA アダプターを取り外すことが必要になる場合があります。アダプターの取外しについては、*オプション・ガイド* を参照してください。

注: 従来型の ISA アダプターを取り外す場合は、別のアダプターを導入する前に、取り外したアダプターが使用していたメモリー・アドレスを「使用可」に設定する必要があります。

4. 別の PCI アダプターまたはプラグ・アンド・プレイ・アダプターを導入した場合は、導入する PCI アダプターがメモリー・アドレスを使用できるようにするために、これらのアダプターのいずれかを取り外すことが必要になる場合があります。

問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。

1805

PCI アダプター読み取り専用メモリー (ROM) エラーが発生しました。

処置: システムの始動のために必要でないすべての PCI アダプターを取り外し、一度に1つずつ再取り付けし、再取り付けするたびにテストを実行します。アダプターに障害がある場合は、アダプターを交換してください。

問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。

1850

プラグ・アンド・プレイ・アダプターが要求しているハードウェア割込みを割り当てることができません。

処置:

1. 装置構成ユーティリティーで、従来型の ISA アダプターが正しく設定されているか確認します。ハードウェア割込みの設定値が誤っている場合は、その設定値を変更して保存します。従来型の ISA アダプターによって使用されるリソースを「ISA で使用中」に設定すると、従来型アダプターと競合しないようにプラグ・アンド・プレイ機能を構成できるようになります。

PCI アダプター、ISA アダプター、プラグ・アンド・プレイ・アダプター、および従来型の (プラグ・アンド・プレイでない) アダプターに関する背景情報については、*オプション・ガイド* を参照してください。従来型の ISA アダプターに必須の割込みリソースの設定については、アダプターに付属のマニュアルを参照してください。装置構成ユーティリティーの使用法については、39ページの第5章、『装置構成ユーティリティーの使用法』を参照してください。

2. 従来型の ISA アダプターのスイッチが、すべて正しく設定されているかどうか確認します。スイッチの設定については、ISA アダプターに付属のマニュアルを参照してください。
3. 従来型の ISA アダプターによってハードウェア割込みがすべて使用中になっている場合は、インストールするプラグ・アンド・プレイ・アダプターが割込みを使用できるようにするために、ISA アダプターを取り外すことが必要になる場合があります。アダプターの取外しについては、*オプション・ガイド* を参照してください。

注: 従来型の ISA アダプターを取り外す場合は、別のアダプターを導入する前に、取り外したアダプターが使用していたハードウェア割込みを「使用可」に設定する必要があります。

4. 別の PCI アダプターまたはプラグ・アンド・プレイ・アダプターを導入した場合は、導入するプラグ・アンド・プレイ・アダプターが割込みを使用できるようにするために、これらのアダプターのいずれかを取り外すことが必要になる場合があります。
5. ご使用のシステムがプラグ・アンド・プレイ・オペレーティング・システムをロードする場合は、「Plug&Play OS」を「はい」に設定しているかどうか確認します。詳細については、52ページの『プラグ・アンド・プレイ制御機能を変更する』を参照してください。
6. アダプターのアドレス復号値が正しく設定されているかどうか確認します。詳細については、52ページの『プラグ・アンド・プレイ制御機能を変更する』を参照してください。

問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。

1851

プラグ・アンド・プレイ・アダプターが要求しているメモリー・リソースを割り当てることができません。

処置:

1. 装置構成ユーティリティーで、従来型の ISA アダプターが正しく設定されているか確認します。メモリー・リソースの設定が正しくない場合は、設定を変更し、保管してください。従来型の ISA アダプターによって使用される資源を「ISA で使用中」に設定すると、従来型アダプターと競合しないようにプラグ・アンド・プレイ機能を構成できるようになります。

PCI アダプター、ISA アダプター、プラグ・アンド・プレイ・アダプター、および従来型 (プラグ・アンド・プレイでない) アダプターに関する背景情報については、*オプション・ガイド* を参照してください。従来型の ISA アダプターに必須のメモリー・リソースの設定値については、アダプターに付属のマニュアルを参照してください。装置構成ユーティリティーの使用法については、39ページの第5章、『装置構成ユーティリティーの使用法』を参照してください。

2. 従来型の ISA アダプターのスイッチが、すべて正しく設定されているかどうか確認します。スイッチの設定については、ISA アダプターに付属のマニュアルを参照してください。
3. すべてのメモリー・リソースが従来型の ISA アダプターによって使用されている場合は、インストールするプラグ・アンド・プレイ・アダプターがメモリーを使用できるようにするために、ISA アダプターを取り外す必要がある場合があります。アダプターの取外しについては、*オプション・ガイド* を参照してください。

注: 従来型の ISA アダプターを取り外す場合は、別のアダプターを導入する前に、取り外したアダプターが使用していたメモリー・リソースを「使用可」に設定する必要があります。

4. 別の PCI アダプターまたはプラグ・アンド・プレイ・アダプターを導入した場合は、導入するプラグ・アンド・プレイ・アダプターがメモリーを使用できるようにするために、これらのアダプターのいずれかを取り外す必要がある場合があります。
5. ご使用のシステムがプラグ・アンド・プレイ・オペレーティング・システムをロードする場合は、「Plug&Play OS」を「はい」に設定しているかどうか確認します。詳細については、52ページの『プラグ・アンド・プレイ制御機能を変更する』を参照してください。
6. アダプターのアドレス復号値が正しく設定されているかどうか確認します。詳細については、52ページの『プラグ・アンド・プレイ制御機能を変更する』を参照してください。

問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。

1852

プラグ・アンド・プレイ・アダプターが要求している I/O アドレスを割り当てること
ができないか、プラグ・アンド・プレイ・アダプターが故障している可能性があります。

処置:

1. 装置構成ユーティリティで、従来型の ISA アダプターが正しく設定されている
か確認します。I/O アドレスの設定が誤っている場合は、設定を変更して保管し
ます。従来型の ISA アダプターによって使用されるリソースを「ISA で使用中」
に設定すると、従来型アダプターと競合しないようにプラグ・アンド・プレイ機能
を構成できるようになります。

PCI アダプター、ISA アダプター、プラグ・アンド・プレイ・アダプター、およ
び従来型の (プラグ・アンド・プレイでない) アダプターに関する背景情報につい
ては、*オプション・ガイド* を参照してください。従来型の ISA アダプターに必須
の I/O ポート・リソースの設定値については、アダプターに付属のマニュアルを
参照してください。装置構成ユーティリティの使用法については、39ペー
ジの第5章、『装置構成ユーティリティの使用法』を参照してください。

2. 従来型の ISA アダプターのスイッチが、すべて正しく設定されているかどうか確
認します。スイッチの設定については、ISA アダプターに付属のマニュアルを参
照してください。
3. すべての I/O アドレスが従来型の ISA アダプターによって使用されている場合
は、インストールするプラグ・アンド・プレイ・アダプターが I/O アドレスを使
用できるようにするために、ISA アダプターを取り外すことが必要になる場合が
あります。アダプターの取外しについては、*オプション・ガイド* を参照してくだ
さい。

注: 従来型の ISA アダプターを取り外す場合は、別のアダプターを導入する前
に、取り外したアダプターが使用していた I/O アドレスを「使用可」に設
定する必要があります。

4. 別の PCI アダプターまたはプラグ・アンド・プレイ・アダプターを導入した場合
は、導入するプラグ・アンド・プレイ・アダプターが I/O アドレスを使用できる
ようにするために、これらのアダプターのいずれかを取り外すことが必要になる場
合があります。
5. ご使用のシステムがプラグ・アンド・プレイ・オペレーティング・システムをロー
ドする場合は、「Plug&Play OS」を「はい」に設定しているかどうか確認しま
す。詳細については、52ページの『プラグ・アンド・プレイ制御機能を変更する』
を参照してください。
6. アダプターのアドレス・デコードが正しく設定されているかどうか確認します。詳
細については、52ページの『プラグ・アンド・プレイ制御機能を変更する』を参照
してください。

問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。

1853

プラグ・アンド・プレイ・アダプターが要求しているメモリー・アドレスを割り当てる
ことができないか、プラグ・アンド・プレイ・アダプターが故障している可能性があります。

処置:

1. 装置構成ユーティリティで、従来型の ISA アダプターが正しく設定されている
か確認します。メモリー・アドレスの設定が誤っている場合は、設定を変更して保
管します。従来型の ISA アダプターによって使用されるリソースを「ISA で使用
中」に設定すると、従来型アダプターと競合しないようにプラグ・アンド・プレイ
機能を構成できるようになります。

PCI アダプター、ISA アダプター、プラグ・アンド・プレイ・アダプター、およ
び従来型の (プラグ・アンド・プレイでない) アダプターに関する背景情報につい
ては、*オプション・ガイド*を参照してください。従来型の ISA アダプターに必須
のメモリー・リソースの設定値については、アダプターに付属のマニュアルを参照
してください。装置構成ユーティリティの使用方法については、39ページの第5
章、『装置構成ユーティリティの使用法』を参照してください。

2. 従来型の ISA アダプターのスイッチが、すべて正しく設定されているかどうか確
認します。スイッチの設定については、ISA アダプターに付属のマニュアルを参
照してください。
3. すべてのメモリー・アドレスが従来型 ISA アダプターによって使用されている場
合は、インストールするプラグ・アンド・プレイ・アダプターがメモリー・アドレ
スを使用できるようにするために、ISA アダプターを取り外すことが必要になる
場合があります。アダプターの取外しについては、*オプション・ガイド*を参照し
てください。

注: 従来型の ISA アダプターを取り外す場合は、別のアダプターを導入する前
に、取り外したアダプターが使用していたメモリー・アドレスを「使用可」
に設定する必要があります。

4. 別の PCI アダプターまたはプラグ・アンド・プレイ・アダプターを導入した場
合は、導入するプラグ・アンド・プレイ・アダプターがメモリー・アドレスを使用で
きるようにするために、これらのアダプターのいずれかを取り外すことが必要に
なる場合があります。
5. ご使用のシステムがプラグ・アンド・プレイ・オペレーティング・システムをロー
ドする場合は、「Plug&Play OS」を「はい」に設定しているかどうか確認しま
す。詳細については、52ページの『プラグ・アンド・プレイ制御機能を変更する』
を参照してください。
6. アダプターのアドレス・デコードが正しく設定されているかどうか確認します。詳
細については、52ページの『プラグ・アンド・プレイ制御機能を変更する』を参照
してください。

問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。

1854

プラグ・アンド・プレイ・アダプターが要求しているメモリー・アドレスを割り当てることができません。

処置:

1. 装置構成ユーティリティで、従来型の ISA アダプターが正しく設定されているか確認します。メモリー・アドレスの設定が誤っている場合は、設定を変更して保管します。従来型の ISA アダプターによって使用されるリソースを「ISA で使用中」に設定すると、従来型アダプターと競合しないようにプラグ・アンド・プレイ機能を構成できるようになります。

PCI アダプター、ISA アダプター、プラグ・アンド・プレイ・アダプター、および従来型の (プラグ・アンド・プレイでない) アダプターに関する背景情報については、*オプション・ガイド* を参照してください。従来型の ISA アダプターに必須のメモリー・リソースの設定値については、アダプターに付属のマニュアルを参照してください。装置構成ユーティリティの使用法については、39ページの第5章、『装置構成ユーティリティの使用法』を参照してください。

2. 従来型の ISA アダプターのスイッチが、すべて正しく設定されているかどうか確認します。スイッチの設定については、ISA アダプターに付属のマニュアルを参照してください。
3. すべてのメモリー・アドレスが従来型 ISA アダプターによって使用されている場合は、インストールするプラグ・アンド・プレイ・アダプターがメモリー・アドレスを使用できるようにするために、ISA アダプターを取り外すことが必要になる場合があります。アダプターの取外しについては、*オプション・ガイド* を参照してください。

注: 従来型の ISA アダプターを取り外す場合は、別のアダプターを導入する前に、取り外したアダプターが使用していたメモリー・アドレスを「使用可」に設定する必要があります。

4. 別の PCI アダプターまたはプラグ・アンド・プレイ・アダプターを導入した場合は、導入するプラグ・アンド・プレイ・アダプターがメモリー・アドレスを使用できるようにするために、これらのアダプターのいずれかを取り外すことが必要になる場合があります。
5. ご使用のシステムがプラグ・アンド・プレイ・オペレーティング・システムをロードする場合は、「Plug&Play OS」を「はい」に設定しているかどうか確認します。詳細については、52ページの『プラグ・アンド・プレイ制御機能を変更する』を参照してください。
6. アダプターのアドレス・デコードが正しく設定されているかどうか確認します。詳細については、52ページの『プラグ・アンド・プレイ制御機能を変更する』を参照してください。

問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。

1855

プラグ・アンド・プレイ・アダプターの読取り専用メモリー (ROM) エラーが発生しました。

処置: システムの始動のために必要でないすべてのプラグ・アンド・プレイ・アダプターを取り外し、一度に1つずつ再取付けし、再取付けするたびにテストを実行します。アダプターに障害がある場合は、アダプターを交換してください。

問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。

1856

プラグ・アンド・プレイ・アダプターが要求している DMA アドレスを割り当てる
ことができません。

処置:

1. 装置構成ユーティリティで、従来型の ISA アダプターが正しく設定されている
か確認します。DMA アドレスの設定が誤っている場合は、設定を変更して保管
します。従来型の ISA アダプターによって使用されるリソースを「ISA で使用中
」に設定すると、従来型アダプターと競合しないようにプラグ・アンド・プレイ機
能を構成できるようになります。

PCI アダプター、ISA アダプター、プラグ・アンド・プレイ・アダプター、およ
び従来型の (プラグ・アンド・プレイでない) アダプターに関する背景情報につい
ては、*オプション・ガイド*を参照してください。従来型の ISA アダプターに必須
の DMA リソースの設定値については、アダプターに付属のマニュアルを参照し
てください。装置構成ユーティリティの使用法については、39ページの第5
章、『装置構成ユーティリティの使用法』を参照してください。

2. 従来型の ISA アダプターのスイッチが、すべて正しく設定されているかどうか確
認します。スイッチの設定については、ISA アダプターに付属のマニュアルを参
照してください。
3. すべての DMA アドレスが従来型の ISA アダプターによって使用されている場
合は、インストールするプラグ・アンド・プレイ・アダプターが DMA アドレス
を使用できるようにするために、ISA アダプターを取り外すことが必要になる場
合があります。アダプターの取外しについては、*オプション・ガイド*を参照して
ください。

注: 従来型の ISA アダプターを取り外す場合は、別のアダプターを導入する前
に、取り外したアダプターが使用していた DMA アドレスを「使用可」に
設定する必要があります。

4. 別の PCI アダプターまたはプラグ・アンド・プレイ・アダプターを導入した場
合は、導入するプラグ・アンド・プレイ・アダプターが DMA アドレスを使用でき
るようにするために、これらのアダプターのいずれかを取り外すことが必要になる
場合があります。
5. ご使用のシステムがプラグ・アンド・プレイ・オペレーティング・システムをロー
ドする場合は、「Plug&Play OS」を「はい」に設定しているかどうか確認しま
す。詳細については、52ページの『プラグ・アンド・プレイ制御機能を変更する』
を参照してください。
6. アダプターのアドレス・デコードが正しく設定されているかどうか確認します。詳
細については、52ページの『プラグ・アンド・プレイ制御機能を変更する』を参照
してください。

問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。

POST メッセージ	説明
1962	<p>始動順序エラーが発生しました。</p> <p>処置:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 装置構成ユーティリティで、始動オプションが正しく設定されているか確認します。設定が間違っている場合には、設定を変更して保管してください。装置構成ユーティリティの使用法については、39ページの第5章、『装置構成ユーティリティの使用法』を参照してください。 2. 1次 IDE ケーブルが正しく取り付けられており、しっかり接続されているか確認します。 3. すべてのアダプターが正しく導入されているか確認します。アダプターの追加に関する指示については、オプション・ガイドを参照してください。 <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>
2462	<p>ビデオ構成エラーが発生しました。</p> <p>処置:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. モニター信号ケーブルがモニター・コネクタにしっかりと接続されているか確認してください。(コネクタの位置については、10ページの『外部コネクタ』を参照してください。) 2. ビデオ・メモリーを追加または除去した直後の場合は、装置構成ユーティリティで新しい構成を保存する必要があります。構成の保存の詳細とその方法については、44ページを参照してください。 <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>
5962	<p>IDE CD-ROM 構成エラーが発生しました。</p> <p>処置: 81 ページにリストされている、POST エラー・メッセージ 1762 についての手順に従ってください。</p>
8603	<p>マウスのテスト中に障害が発生しました。このエラーの原因としては、マウス、またはシステムボードの障害が考えられます。</p> <p>注: このエラーは、電力供給がごく短い間止まり、その後復元した場合にはも発生する可能性があります。この場合は、本体の電源を少なくとも 5 秒間切ってから、電源を入れ直してください。</p> <p>処置: キーボードとマウスが正しいコネクタにしっかりと接続されているか確認します。正しく接続されている場合は、以下の手順に従ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本体の電源を切ります。 2. マウスを本体から外します。 3. 本体の電源を入れます。 <p>POST エラー・メッセージが再表示されない場合は、おそらくマウスが故障しています。(マウスのテストの詳細については、マウスに付属のマニュアルを参照してください。)問題が解決しない場合は、マウスの修理を依頼してください。</p> <p>POST エラー・メッセージが再表示される場合は、障害箇所を判別するために診断テストを実行します。診断テストで問題が検出されず、POST エラー・メッセージがまだ出る場合は、本体の修理を依頼してください。</p>

POST メッセージ	説明
I9990301	ハード・ディスク障害が発生しました。 処置: 本体の修理を依頼してください。
他の数字	POST でエラーが見つかりました。 処置: 画面に表示される指示に従います。

問題判別表

特定の症状の問題の解決策を見つけるためには、ここに示す問題判別表をご利用ください。

重要

本体のカバーを取り外す必要がある場合は、*オプション・ガイド*を参照してください。

新しいソフトウェアまたは新しいコンピューター・オプションを追加したばかりで、本製品が動作しない場合には、問題判別表を参照する前に、次の操作を行ってください。

追加したばかりのソフトウェアまたは装置を取り外す。

診断プログラムを実行して、本製品が正しく動作しているか確認する。(本製品で提供される診断プログラムについての詳細は、103ページの『診断プログラム』を参照してください。)

新しいソフトウェアまたは新しい装置を取り付け直す。

下表は、問題判別表の中の問題カテゴリーを速やかに見つけるのに役立ちます。

問題のタイプ	参照箇所
ディスクット・ドライブ	96 ページ
一般	98 ページ
断続的	98 ページ
キーボード、マウス、またはポインティング装置	99 ページ
メモリー	99 ページ
モニター	96 ページ
オプション	100 ページ
パラレル・ポート	100 ページ
プリンター	101 ページ
シリアル・ポート	101 ページ
ソフトウェア	102 ページ
スピーカーのハウリング	102 ページ

ディスク・ドライブの問題	処置
<p>ディスク・ドライブの使用ランプが点灯したままか、システムがディスク・ドライブを認識しない。</p>	<p>ドライブにディスクが挿入されている場合は、以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ディスク・ドライブが使用可能になっているか。これを確認するには、装置構成ユーティリティーを使用します。装置構成ユーティリティーの使用法については、39ページの第5章、『装置構成ユーティリティーの使用法』を参照してください。 2. 本体が始動順序中にディスク・ドライブを検査しているか。これを確認するには、装置構成ユーティリティーを使用します。 3. 使用しているディスクが正しいもので、損傷がないか。別のディスクがあれば試しに挿入してみます。 4. ディスクがドライブに正しく（ラベルを上、金属シャッターが奥になるように）挿入されているか。 5. 本体の始動に必要なファイルがディスクに入っているか（ディスクは始動可能でなければなりません）。 6. ディスク・ドライブのケーブルが正しく取り付けられ、しっかり接続されているか。 7. 使用しているソフトウェア・プログラムに問題はないか（102ページの「ソフトウェアの問題」を参照）。 <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>

モニターの問題	処置
<p>一般的なモニターの問題</p>	<p>IBM モニターの中には、固有の自己テスト機能をもつものがあります。モニターの異常を感じたら、モニターのマニュアルで、その調節方法やテスト方法に関する指示を参照してください。</p> <p>問題を見つけることができない場合は、この表の「モニターの問題」にリストされている他の項目をチェックしてください。</p> <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、モニターと本体の修理を依頼してください。</p>

モニターの問題	処置
<p>画面イメージが読み取り不能、または画面イメージの横揺れ、ゆがみ、ぶれがある。</p>	<p>モニターの自己テストでモニターが正常に動作していると判断されたら、以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. モニターの設置場所は適切か。変圧器や、電化製品、蛍光灯、他のモニターなど、他の装置周辺の磁界が問題を引き起こす場合があります。このことが原因になっているかどうかを判別するには、以下のことを行います。 <ol style="list-style-type: none"> a. モニターの電源を切ります。(カラー・モニターの電源を入れたまま移動すると、画面が変色することがあります。) b. モニターと他の装置との配置を調整して、少なくとも 305 mm (12 in.) 離します。また、モニターの配置を変える際には、ディスク・ドライブの読取り/書き込みエラーを防ぐために、必ずモニターをディスク・ドライブから少なくとも 75 mm (3 in.) 離します。 c. モニターの電源を入れます。 2. IBM のモニター信号ケーブルがモニターと本体に正しく接続されており、ケーブルがしっかり取り付けられているか。IBM 以外のモニター信号ケーブルを使用すると、予測できない問題が起こることがあります。 3. モニターがサポートしている速度より速いリフレッシュ速度でモニターを動作させようとしていないか。サポートされているリフレッシュ速度については、モニターに付属のマニュアルを参照してください。 <p>注: ご使用のモニター用に、シールドングを強化した高性能のモニター信号ケーブルが入手できる場合があります。詳細については、IBM 販売業者または IBM 営業担当員にお問い合わせください。</p> <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、モニターと本体の修理を依頼してください。</p>
<p>画面がちらつく。</p>	<p>本製品のモニターおよびビデオ・コントローラーによってサポートされる、ノンインターレース方式での最高のリフレッシュ・レートにモニターを設定します。</p> <p>重要: モニターでサポートされていない解像度またはリフレッシュ・レートを使用すると、モニターが故障することがあります。</p> <p>それでも問題が訂正されない場合は、モニターと本体の修理を依頼してください。</p>
<p>モニターは本体の電源を入れると動作するが、一部のアプリケーション・プログラムを開始すると画面がブランクになる。</p>	<p>以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. モニターの信号ケーブルが本体のモニター・コネクタにしっかり接続されているか。モニター・コネクタの位置については、10ページの『外部コネクタ』を参照してください。 2. アプリケーションに必要なデバイス・ドライバーが導入されているか。 <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、モニターと本体の修理を依頼してください。</p>
<p>モニターは本体の電源を入れると動作するが、本体が一定時間非活動状態になると、画面がブランクになる。</p>	<p>おそらく本体は、省電力 (APM) 機能を用いて省電力が設定されています。APM 機能が使用可能になっている場合は、APM を使用不能にするか、APM の設定値を変更すれば、問題が解決することがあります (61ページの『省電力機能の使用法』を参照してください)。</p> <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>

モニターの問題	処置
画面に何も表示されない。	<p>以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本体の電源コード・プラグが、本体および正常な電源コンセントに差し込まれているか。 2. モニターの電源が入っており、輝度とコントラストの調節が正しく調整されているか。 3. モニターの信号ケーブルが本体のモニター・コネクタにしっかり接続されているか。モニター・コネクタの位置については、10ページの『外部コネクタ』を参照してください。 <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、モニターと本体の修理を依頼してください。</p>
カーソルだけが表示される。	本体の修理を依頼してください。
画面におかしな文字が表示される。	本体の修理を依頼してください。
一般的な問題	処置
電源スイッチを押しても本体が始動しない。	<p>以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ケーブルがすべて本体の正しいコネクタにしっかり接続されているか。コネクタの位置については、10ページの『外部コネクタ』を参照してください。 2. 電圧選択スイッチが正しい位置にセットされているか。 3. 本体のカバーが正しく取り付けられているか。 <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>
カバー・ロックが壊れた、インディケーターが点灯しないなどの問題。	本体の修理を依頼してください。
断続的な問題	処置
偶発的に発生し、検出が困難な問題	<p>以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべてのケーブルとコードが、本体背面と接続装置にしっかり接続されているか。 2. 本体の電源を入れたときに、通気孔がふさがれていないか（通気孔の周りに空気が流れます）。ファンが動作しているか。通気孔がふさがれているか、ファンが動作しない場合は、コンピューターは過熱状態になることがあります。 <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>

キーボード、マウス またはポインティング 装置の問題	処置
キーボードのキーがすべて、 または一部が機能しない。	<p>以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本体とモニターの電源が入っているか。 2. キーボード・ケーブルが、本体のキーボード・コネクタにしっかり接続されているか。キーボード・コネクタの位置については、10ページの『外部コネクタ』を参照してください。 <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、キーボードと本体の修理を依頼してください。</p>
マウスまたはポインティング 装置が機能しない。	<p>以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マウスまたはポインティング装置のケーブルが本体の正しいコネクタにしっかり接続されているか。使用しているマウスのタイプによって、マウス・コネクタがシリアル・コネクタのいずれかに接続します。マウス・コネクタとシリアル・コネクタの位置については、10ページの『外部コネクタ』を参照してください。 2. マウスのデバイス・ドライバーが正しく導入されているか。 <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体と装置の修理を依頼してください。</p>
メモリーの問題	処置
表示されるメモリー容量が、 導入されたメモリー容量より も少ない	<p>基本入出力システム (BIOS) がランダム・アクセス・メモリー (RAM) を一部使用するため、表示される使用可能なメモリー容量は実際よりもやや少なくなります。</p> <p>以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本製品用に正しいタイプの二重インライン・メモリー・モジュール (DIMM) を取り付けたか。DIMM の追加に関する説明については、オプション・ガイドを参照してください。 2. DIMM が正しく取り付けられており、しっかり接続されているか。 3. メモリーを追加または除去した場合は、装置構成ユーティリティで新しい構成を保存したか。構成の保存に関する説明については、44 ページを参照してください。 <p>問題が解消しない場合は、本製品に付属の診断プログラムのメモリー・テストを実行します。(詳細については、103ページの『診断プログラム』を参照してください。) システムが誤った DIMM を検出し、操作を続行できるように自動的にメモリーの再割当てを行った可能性があります。</p> <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>
“Not enough memory (メモリーの不足)” メッセージが表示される。	<p>終了後常駐型プログラム (TSR) がメモリーを占有していないか確認してください。(104ページの『TSR プログラムの管理』を参照してください。)</p>

オプションの問題	処置
<p>取り付けただけのオプションが動作しない。</p>	<p>以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オプションが本製品に適合しているか。 2. オプションに付属のインストール説明書、および<i>オプション・ガイド</i>に従って導入したか。 3. オプション・ファイル (必要ならば) が正しく導入されているか。オプション・ファイルの導入の詳細については、104ページの『<i>オプション・ディスク</i>からのファイルの導入方法』を参照してください。 4. 取り付けした他のオプションやケーブルの接続が緩んでいないか。 5. オプションがアダプターの場合は、アダプターが正しく機能するようにハードウェア・リソースを十分に割り当てたか。アダプターに付属のマニュアル (および導入されている他のアダプターのマニュアル) を参照して、各アダプターに必要な資源を判別してください。 6. 装置構成ユーティリティの構成情報が更新済みであり (必要な場合)、対立がないか。 <p>問題が解消しない場合は、診断プログラムを実行します。(本製品で提供される診断プログラムについての詳細は、103ページの『<i>診断プログラム</i>』を参照してください。)</p> <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体とオプションの修理を依頼してください。</p>
<p>いまままで正常に動作していたオプションが動作しない</p>	<p>オプション・ハードウェアとケーブルがすべて確実に接続されているか確認してください。</p> <p>オプションにテストの説明書が付いている場合には、その指示に従ってオプションをテストしてください。</p> <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体とオプションの修理を依頼してください。</p>
パラレル・ポートの問題	処置
<p>パラレル・ポートにアクセスできない。</p>	<p>以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各ポートに固有のアドレスが割り当てられているか。 2. パラレル・ポート・アダプターを追加した場合は、正しく取り付けられており、しっかり接続されているか。アダプターの追加に関する説明は、<i>オプション・ガイド</i>を参照してください。 <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>

シリアル・ポートの問題	処置
シリアル・ポートにアクセスできない。	<p>以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各ポートに固有のアドレスが割り当てられているか。 2. シリアル・ポート・アダプターを追加した場合、正しく取り付けられており、しっかり接続されているか。アダプターの追加に関する説明は、<i>オプション・ガイド</i>を参照してください。 <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>

プリンターの問題	処置
プリンターが動作しない。	<p>以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プリンターの電源が入っており、オンライン状態になっているか。 2. プリンター信号ケーブルが、本体の正しいパラレル・ポート、シリアル・ポート、または USB ポートにしっかり接続されているか。(パラレル、シリアル、および USB の各ポートの位置については、10ページの『外部コネクタ』を参照してください。) <p>注: IBM 以外のプリンター信号ケーブルを使用すると、予測できない問題が発生することがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. オペレーティング・システムやアプリケーション・プログラムで、プリンター・ポートを正しく割り当てたか。 4. 装置構成ユーティリティで、プリンター・ポートを正しく割り当てたか。(設定を変更するには、39ページの第5章、『装置構成ユーティリティの使用法』を参照してください。) 5. 問題が解消しない場合は、プリンターに付属のマニュアルに記載されているテストを実行します。 <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体とプリンターの修理を依頼してください。</p>

ソフトウェアの問題	処置
<p>使用しているソフトウェア・プログラムは正常かどうか。</p>	<p>問題が導入されているソフトウェアに起因するかどうかを調べるには、以下の項目を確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本製品がそのソフトウェアの使用に必要な最小のメモリー所要量を満たしているか。メモリー所要量については、使用ソフトウェアのマニュアルを参照して確認してください。 <p>注: アダプターやメモリーを取り付けた直後には、メモリーのアドレスが競合していることがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 使用ソフトウェアが本製品に適合しているか。 3. 他のソフトウェアが本製品で動作するか。 4. 使用ソフトウェアが他のコンピューターで動作するか。 <p>ソフトウェア・プログラムの使用中にエラー・メッセージを受け取った場合は、ソフトウェアに付属のマニュアルを参照し、メッセージの説明と問題の解決方法を調べてください。</p> <p>問題の箇所が分からず修復できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>
<p>スピーカーのハウリング</p>	<p>処置</p>
<p>録音中にスピーカーがハウリングする。¹²</p>	<p>以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マイクロホンの録音レベルを上げすぎているか。上げすぎている場合は、マイクロホンのレベルを下げます。 2. スピーカーのボリュームを上げすぎているか。上げすぎている場合は、スピーカーのボリュームを下げます。 3. マイクロホンが電源付きスピーカーから離れているか。

¹² 録音は、オプションのオーディオ・アダプターがインストールされていないと使用できない機能です。本製品に内部スピーカーはありません。外部の電源付きスピーカーとマイクroホンは、本製品のオプション機構です。

診断プログラム

IBM では、ハードウェア問題および一部のソフトウェア問題を診断するのに使用できるプログラムを提供しています。以下では、これらのプログラムについて説明します。

QAPLus/PRO

QAPLus/PRO を使用して、ハードウェア問題を診断できます。また QAPLus/PRO は、本製品についての役に立つ情報を提供する数本のユーティリティー・プログラムを含んでいます。

QAPLus/PRO は、本製品のハードウェアに対する診断テストを、ハード・ディスクに導入されているソフトウェアから分離して実行します。プログラムはオペレーティング・システムとは独立に動作し、ディスクレットから実行する必要があります。このテスト方法は通常、他のテスト方法を利用できない場合、またはハードウェアに関連していると思われる問題を特定できなかった場合に使用します。

QAPLus/PRO は、ディスクレットで提供されます。また、サポート CD にも含まれています。

QAPLus/PRO を開始するには、次のようにします。

1. 本体とすべての接続装置の電源を切ります。
2. QAPLus/PRO ディスクレットを、ディスクレット・ドライブ A に挿入します。
3. すべての接続装置の電源を入れます。その後で、本体の電源を入れます。
4. 画面に表示される指示に従います。

オプション・ディスクからのファイルの導入方法

オプションの装置やアダプターには、ディスクが付属していることがあります。通常、オプション・パッケージに付属するディスクには、システムがオプションを認識し、活動化するために必要なファイルが入っています。必要なファイルを導入するまでは、新しい装置やアダプターがエラー・メッセージの原因になることがあります。

オプションの装置やアダプターにディスクが付属している場合、ディスクから構成（.CFG）ファイルまたは診断ファイル（.EXE または .COM）をハード・ディスクに導入することが必要になる場合があります。ファイルを導入する必要があるかどうかは、オプションに付属のマニュアルを参照してください。

TSR プログラムの管理

終了後常駐型プログラム (TSR) はメモリーにロードされ、そこに常駐するので、必要なときにいつでもアクセスできます。アプリケーション・プログラムのロード時または使用中に、メモリー不足のメッセージを受け取った場合、TSR プログラムが有効なスペースを占有している場合があります。

この問題の解決方法は、各 TSR プログラムに付属のマニュアルで調べてください。現行のワーク・セッションの残りの部分では、TSR プログラムをメモリーから削除しても構わない場合があります。ときには、TSR プログラムのロード順序を変更することによって、より効率的にメモリーを使用できる場合があります。あるいは、AUTOEXEC.BAT ファイルから使用頻度の低い TSR プログラムを削除するという方法もあります。

AUTOEXEC.BAT ファイル内のステートメントの編集方法や使用禁止に設定する方法については、オペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

内蔵イーサネット特有のエラー・メッセージ

注: この項に示されているエラー・メッセージは、内蔵イーサネット・サブシステムが標準装備されているモデルのみで表示されるものです。これらのエラー・メッセージは、RPL (リモートプログラム・ロード) または DHCP (動的ホスト構成プロトコル) をオプションのネットワーク・アダプターを介して使用している場合には表示されません。

イーサネット・コントローラーが初期化され、障害状態が発生すると、エラー・メッセージが画面に表示されます。これらのエラー・メッセージを下に示します。内蔵イーサネット・サブシステムに関連したエラーが発生した場合は、エラー・メッセージを記録して、ネットワーク管理者にその問題を知らせてください。

RPL 関連のエラー・メッセージ

これらのエラー・メッセージは、本製品の内蔵イーサネット・コントローラー、および RPL の環境に特有のものです。

もっとも一般的な 2 つのエラー・メッセージを次に示します。

```
RPL-ROM-ERR: 1 5 The Integrated Ethernet Failed the Loopback Test
RPL-ROM-ERR: 1 7 Media Test Failed; Check the Cable
```

エラー 105 は、イーサネット・チップによって実行された電源オン診断テストが正常に実行されなかったことを示しています。このエラー・メッセージが表示された場合は、本体の修理を依頼する必要があります。エラー 107 は、LAN からのケーブルが本体のイーサネット・ポートにしっかり接続されていないことを示しています。¹³ ケーブルを検査して、正しく接続されているかどうか確認してください。

その他の表示される可能性のあるエラー・メッセージを、以下の表に示します。

¹³ 内蔵イーサネット・モデルを使用しており、ネットワークを物理的に正しく接続せずに本体を始動した場合は、必ず RPL エラー 107 が表示されます。初期始動シーケンスを変更していなければ、コンピューターはハード・ディスク・ドライブからオペレーティング・システムをロードします。内蔵イーサネットを使用していない場合は、内蔵イーサネットを使用不能にすれば、このエラー・メッセージが表示されないようにすることができます。詳細については、64ページの『イーサネットの使用』を参照してください。

RPL-ROM-ERR: 101 Integrated Ethernet was unable to initialize
RPL-ROM-ERR: 102 Integrated Ethernet could not be reset
RPL-ROM-ERR: 100 The integrated Ethernet cannot be found
RPL-ROM-ERR: 103 There are multiple Ethernets in the system.
Please specify the correct serial number in NET.CFG.
RPL-ROM-ERR: 104 The integrated Ethernet EEPROM is faulty or not present
RPL-ROM-ERR: 106 The integrated Ethernet is configured for PnP on non-PnP system
RPL-ROM-ERR: 110 Integrated Ethernet RAM failed the memory test

DHCP 関連のエラー・メッセージ

DHCP および内蔵イーサネット・コントローラーに関連したエラー・メッセージを以下の表に示します。各エラー・メッセージは、エラー・コードと、それに続くテキスト・メッセージからなります。

これらのエラー・メッセージのいずれかが表示されたら、メッセージを記録して、ネットワーク管理担当者に問い合わせてください。

E61: Service boot cancelled.	M38: Cannot open TFTP connection.
E62: Cannot initialize controller.	M39: Cannot read from TFTP connection.
E63: Cannot initialize controller.	M40: BOOTP cancelled by keystroke.
E67: Cannot initialize controller.	M40: DHCP cancelled by keystroke.
E6d: Cannot find BOOTP server.	M41: BOOTP timeout.
E6e: Cannot start from downloaded image.	M41: DHCP timeout.
E71: Too many MTFPT packages.	M42: No client or server IP.
M10: ARP cancelled by keystroke.	M43: No bootfile name.
M11: ARP timeout.	M44: Cannot ARP redirected BOOTP server.
M20: Cannot copy memory.	M6f: System is locked! Press Ctrl+Alt+Del to reboot.
M21: Cannot write to memory.	M90: Cannot intialized controller for multicast.
M22: Cannot write to memory.	M91: MTFPT cancelled by keystroke.
M30: Cannot ARP TFTP address.	M92: MTFPT open timeout.
M31: TFTP cancelled by keystroke.	M93: Unknown MTFPT opcode.
M32: TFTP open timeout.	M94: MTFPT read cancelled by keystroke.
M33: Unknown TFTP opcode.	M95: MTFPT timeout.
M34: TFTP read cancelled by keystroke.	M96: Cannot ARP MTFPT address.
M35: TFTP timeout.	M98: Cannot open MTFPT connection.
M99: Cannot read from MTFPT connection.	Txx: <TFTP エラー・パケットからのメッセージ>

注: エラー・コードに続く x の値は、任意の英数字を表します。

第7章 ヘルプ、サービス、および情報の入手

ヘルプ、サービス、技術援助、または IBM 製品に関する情報が必要な場合のために、IBM ではさまざまな援助をご提供しています。ここでは、そのような援助について説明します。

使用可能なサービスおよびリストされた電話番号は、通知せずに変更されることがあります。

問題の解決

コンピューターの問題の多くは、オンライン・ヘルプを使用したり、本製品またはソフトウェアに付属のオンライン資料やハードコピー資料を調べることにより、外部から援助を受けなくとも解決することができます。また、ソフトウェアに付属の README ファイルの情報は必ず読んでください。

ほとんどのコンピューター、オペレーティング・システム、およびアプリケーション・プログラムには、問題判別手順やエラー・メッセージの説明が記載されている資料が付属しています。コンピューターに付属している資料にも、実行できる診断テストに関する情報が記載されています。

ハードウェアに問題があると考えられる場合には、診断テストを実行して、表示されたエラー・メッセージをメモにとっておいてください。その後で、資料のメッセージを調べて、適切な処置を行ってください。

ソフトウェアの問題について疑わしい場合には、オペレーティング・システムまたはアプリケーション・プログラムについての (README ファイルを含む) 資料を調べてください。

カスタマー・サービスおよびカスタマー・サービスの入手

別冊の「IBM サービスのご案内」を参照してください。

資料の発注

追加資料は、IBM から購入することができます。資料の購入方法については、別冊の「IBM サービスのご案内」の「マニュアルのご注文」を参照してください。

付録A. 製品に関する記録

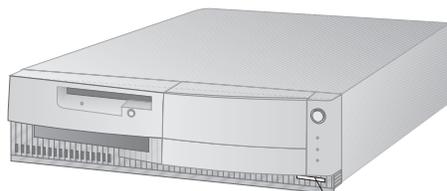
この付録は、本製品についての情報を記録するための用紙を掲載しています。この用紙は、追加ハードウェアを導入する場合、あるいは本製品の修理を依頼する場合に役立ちます。

識別番号

表の項目に情報を記入し、保管してください。

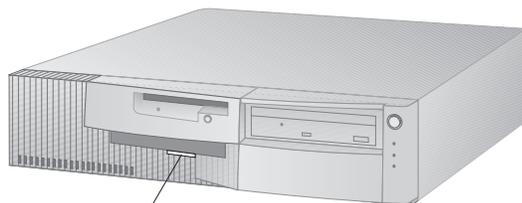
製品名称	PC 300 GL (6272 および 6282)
モデル/タイプ (M/T)	_____
シリアル番号 (S/N)	_____

本製品のモデルおよびタイプ (M/T) 番号と、シリアル番号 (S/N) は、本体前面の小さいラベルに表示されています。



ラベル

モデル 6272



ラベル

モデル 6282

装置に関する記録

下の表を使用して、本製品の内蔵オプションまたは外付けのオプションを記録してください。
この情報は、さらにオプションを追加したり、保守サービスを受けるときに役立ちます。

場所	オプションの説明		
Intel Pentium マイクロプロセッサ	133 MHz その他:	166 MHz	
<hr/>			
システム・メモリー (メモリー 1 DIMM)	16 MB	32 MB	64 MB
(メモリー 2 DIMM)	16 MB	32 MB	64 MB
L2 キャッシュ	256 KB		
ビデオ・メモリー	1 MB	2 MB	
マウス・コネクタ	2 ボタン その他:		
<hr/>			
キーボード・コネクタ	109 キー・キーボード その他:		
<hr/>			
パラレル・コネクタ	<hr/>		
シリアル・コネクタ	<hr/>		
USB コネクタ	<hr/>		
拡張スロット 1	<hr/>		
拡張スロット 2	<hr/>		
拡張スロット 3	<hr/>		
拡張スロット 4	<hr/>		
ベイ 1	<hr/>		
ベイ 2	<hr/>		
ベイ 3	<hr/>		
ベイ 4	<hr/>		

場所	オプションの説明

付録B. ライセンス情報

この冊子に記載の「ライセンス情報」は、「IBMプログラムのご使用条件」により使用許諾されるIBM製および他社製の「プログラム」に適用されるものです。

また、IBMが、このPCとともに提供するプログラムには、独自の使用条件を有するものもあります。これらのプログラムは、別段の定めがある場合を除き、特定物して現存する状態で提供され、法律上の瑕疵担保責任、商品性の保証および特定目的適合性の保証を含むすべての明示または黙示の保証は適用されません。

この冊子で参照しているプログラムには、すべての言語版で提供されていないものまたはすべての国で入手可能とは限らないものもあります。また、プログラムには、実際に市販されているバージョンとは異なることがあり、共に出荷されるこのPC用にカスタマイズされていることがあります。

プログラム名

システム・プログラム

追加条件

家庭用コンピュータ / 携帯用コンピュータへの複製および使用

この「プログラム」には適用されません。

プログラムの移転

この「プログラム」は、「プログラム」の調達元（IBMまたはIBM認定再販売者）の書面による同意がある場合に限り、第三者に移転することができます。

使用権の証明

この「プログラム」に対するお客様の使用権は、所定のライセンス証書により確認されます。IBMまたはIBM認定再販売者が提供する保証サービス、将来における「プログラム」の上移行（発表された場合）または販売促進用の特別な措置（提供された場合）等の資格の確認およびこの「プログラム」に対する使用権の証明として、ライセンス証書を保管するものとします。

このシステムとともに提供された「プログラム」には限定的な技術サポートのみが提供されます。詳細については、システムのマニュアルを参照してください。

プログラム・サ - ビス

この「プログラム」にはプログラム・サ - ビスは提供されません。この「プログラム」は、特定物として現状のまま提供されます。

保証

システム・プログラム

これらの「プログラム」は、特定物として現存するままの状態を提供され、法律上の瑕疵担保責任、商品性の保証および特定目的適合性の保証を含むすべての明示または黙示の保証は適用されません。

その他

この「ライセンス情報」にて参照している書類を含め、この「プログラム」に関するいかなる書類も、お客様の参照のために提供されるもので、「ライセンス情報」記載の内容を拡張または変更するものではありません。

その他の追加条件

以下の条件は、IBM のシステム（以下「システム」といいます。）とともにディスクettもしくは CD-ROM の形で提供、「システム」上に初期導入、CD-ROM・システムもしくはロ - カル・エリア・ネットワ - ク（LAN）から IBM 所定のプログラムを使用してディスクettに複製したデバイス・ドライバ - 、ユ - ティリティ - ・プログラムおよびフラッシュ BIOS コード（以下、あわせて「システム・プログラム」といいます。）に適用されます。「システム」とは、IBM 機械本体、機構、型式変更、オプションおよびその組み合わせを意味します。

お客様が「システム」の正当な占有者である場合、または「システム」の保守の目的で「プログラム」を取得された場合、IBM またはその直接もしくは間接の子会社は、お客様に対し、「システム」と共にもしくはその一部として「プログラム」を使用する権利、および「プログラム」を回復または保守のために使用する権利を許諾します。「システム」の正当な占有者に対して「システム」の回復または保守を目的としてのみ「プログラム」の複製物を配布し、導入することができます。ただし、この場合、この使用条件のコピー - も合わせて提供するものとします。当該占有者が「プログラム」を使用開始したときには、この使用条件に同意したものとします。

「プログラム」の複製物には、お客様は「プログラム」と同一の著作権表示を必ず行うものとします。

付録C. 特記事項

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのようなIBM製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBMライセンス・プログラムまたは他のIBM製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBMの知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBMによって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBMおよび他社は、本書で説明する主題に関する特許権（特許出願を含む）商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用权等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用权等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106 東京都港区六本木3丁目2-31
AP事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

商標

以下の用語は、米国およびその他の国々における IBM 社の商標です。

HelpWare	IBM
NetFinity	OS/2
PowerPC	PS/2
ThinkPad	ValuePoint
Wake on LAN	

以下の用語は、他社の商標です。

America Online	America Online, Inc.
Cirrus Logic	Cirrus Logic, Inc.
CompuServe	CompuServe Incorporated
CoSession	Triton Technologies Inc.
DEC PathWorks	Digital Equipment Corporation
DMI	Desktop Management Task Force
Intel	Intel Corporation
MMX	Intel Corporation
MS-DOS	Microsoft Corporation
NetWare	Novell, Inc.
Novell	Novell, Inc.
OpenServer	The Santa Cruz Operation, Inc.
Pentium	Intel Corporation
PRODIGY	Prodigy Services Company
QAPLus	DiagSoft, Inc.
QAPLus/PRO	Diagsoft, Inc.
QAPLus/WIN	Diagsoft, Inc.
SCO	The Santa Cruz Operation, Inc.
Solaris	Sun Microsystems, Inc.
Sound Blaster	Creative Technology Ltd.
TME 10	Tivoli Systems, Inc.
VESA	Video Electronics Standards Association

Microsoft、Windows、および Windows NT は、Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

2 つのアスタリスク (**) が付いているその他の社名、製品名、およびサービス名は、他社の商標もしくはサービス・マークです。

索引

日本語、英字、数字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

〔ア行〕

アダプター 4
アダプター、プラグ・アンド・プレイ 5
アラームでの始動 11, 63
イーサネット
エラー・メッセージ 66, 105
機能 11
コネクタ 3
コントローラ 3
コントローラを使用不能にする 67
使用、使用可能および使用不能 64
シリアル番号 64
RJ-45 コネクタ 10
椅子の調節 17
移動、本製品の 38
インディケータ、表示 19, 20
イントラネット、定義 65
エラー
症状 95
メッセージ、イーサネット 66, 105
メッセージ、POST 21, 74
遠隔プログラム・ロード
参照：RPL
援助 109
延長コード 18
オーディオ・アダプター
コネクタ 10, 31
デバイス・ドライバ 31
オーディオ・サポート 3
オフィス空間を快適にする 17
オプション
インストール済み 112
情報の記録 112
ディスク 104

オプション (続き)

問題 100
オペレーティング・システム
機密保護 7
互換性 6
サポートされている 11
事前インストール・ソフトウェア付属 6

〔カ行〕

解像度 47
快適さ 17
快適にする、使用環境を 17
外部コネクタ 10
書込み禁止ディスク 27
拡張機能ポート 4, 51
拡張グラフィックス・アダプター (EGA) 49
拡張スロット
インストール、アダプターを 4
使用可能な 9, 11
拡張パラレル・ポート 4, 51
カバー・ロック 98
カバー・ロックが壊れた 98
画面フィルター 18
カラー 48
カラー・グラフィックス・アダプター (CGA) 49
環境仕様 14
管理者パスワード
削除 60
使用 7, 58
設定 59
装置構成ユーティリティ 55
定義 58
本体の始動 21, 55
忘れ 60
関連資料 xiv

キーボード
サポート 11
使用 17
速度、変更 46
問題 99
ロック 53, 54
キーボード速度 46
技術サポート
機能、コンピューター 11
基本入出力システム、更新 33
キャッシュ・メモリー 11
記録、装置と機構に関する 112
空気調節 18
グラフィックス
カラー 48
コントローラー 11, 47
サポート 2
ソフトウェアの互換性 49
ポート 11
モード 47
CGA 49
EGA 49
MCGA 49
MGA 49
SVGA 47, 48
VGA 47, 48
ケーブルの長さ 18
計画、使用環境の 17
コード、電源 18
工場設定値 66
更新、POST/BIOS の更新
システム管理機能 3, 11
使用、フラッシュ・ディスクを 33
ネットワークを介した 32, 33, 70
構成、コンピューターの 39
構成、システム 45
コネクタ 10

〔サ行〕

サージ保護 18
サービスとサポート 7
雑音レベル 16
識別番号 111
時刻の設定 46
自己診断テスト
参照：POST
システム
構成 45
仕様 13
システム管理
機能 3, 5, 11, 32
コントローラー 32
設定 64
始動、本製品の 21
自動始動モード 53
始動順序
自動パワー・オン 7, 69
初期 7, 21
初期、工場設定値 66
デフォルト設定値 68
ネットワークを使用可能 66
始動パスワード
削除 57
自動始動モード 53
使用 7, 53
設定 56
定義 53
本体の始動 21, 55
忘れ 60
自動パワーオン 63
自動パワーオン始動順序 69
周辺機器構成要素相互接続
参照：PCI
重量
最小構成 13
最大構成 13
終了後常駐型プログラム (TSR) 104
仕様、システム 13
障害検出
情報 71
表 95

使用環境を快適にする 17
省電力 6, 61
省電力機能 61
商標 118
照明 18
シリアル番号 111
シリアル・ポート
 使用可能な 11
 変更、設定値の 50
 モデムの着信 63
 問題 101
 16550-UART 5
資料
 関連 xiv
 発注 109
診断
 ツール 71
 表 95
 プログラム 5, 103
スーパー・ビデオ・グラフィックス・アレイ
 (SVGA) 47
スピーカー
 電源付き 31
 ハウリング 102
スロット、拡張 9
制御機構 19, 20
清掃
 コンパクト・ディスク 30
 本体 35
 マウス 36
 モニター 78
赤外線ポート 11
セキュリティ
 書き込み禁止ディスク 27
 機能 6, 11
 パスワード 53
設定、コンピューターの 39
セットアップ・ユーティリティ
 参照：装置構成ユーティリティ
装置構成ユーティリティ
 機能 39
 更新 33

装置構成ユーティリティ (続き)

始動 39
終了方法 43
デフォルト設定のロード 43
表示 42
保存、設定の 43, 44
本体の始動 21
メイン・メニュー 40, 41
ソフトウェア
 エラー 102
 オペレーティング・システム 6
 事前インストール 6, 11
 ネットワーク管理 32, 65
 ビデオの互換性 49
 問題 102
損傷の防止 35, 38

〔 夕行 〕

代替ブート・シーケンス 69
断続的な問題 98
調整
 本体の電源切断 22
 本体の電源投入 21
調節、空気の 18
ちらつきの軽減 47
通風仕様 16
ディスク
 アクセス管理 7
 オプション 104
 書き込み禁止 27
 コピー 28
 使用 28
 使用方法 24
 挿入 26
 タイプ 28
 取扱い 25
 取出し 26
 フォーマット 27
 保管 25
 容量 24, 28
 ラベル付け 26

ディスクットのコピー 28
ディスクットのフォーマット 27
ディスクット・ドライブ
 サポート 11
 タイプ 28
 追加 7
 取出しボタン 19, 20
 場所 8
 表示ライト 19, 20
 問題の解決 96
ディスプレイ
 参照: モニター
ディスプレイ電源管理シグナル (DPMS) 61
ディスプレイ・データ・チャネル (DDC) 47
手入れ、コンピューターの 35
デスクトップ管理インターフェース
 参照: DMI
デフォルト設定値、始動シーケンス 68
電気コンセント 18
電気入力仕様 15
電源
 管理 61
 機能 11
 コード 18, 118
 スイッチ 19, 20
 表示ライト 19, 20
電源管理機能
 参照: 省電力機能
電源を切る、本体の 22
動的ホスト構成プロトコル
 参照: DHCP
特権アクセス・パスワード
 参照: 管理者パスワード
ドライブ
 ディスクット 11
 ハード・ディスク 4, 11
 ベイ 8, 11
 問題の解決 96
 CD-ROM 4, 11

〔ナ行〕

内蔵イーサネット
 参照: イーサネット
入出力機能 11
入出力装置構成エラー 78
人間工学に基づいた機能 5
ネットワーク
 更新、POST/BIOS 32
 システム管理機能 32, 64
熱風の排気 18

〔ハ行〕

ハードウェア省電力 61
ハード・ディスク・ドライブ
 アクセス管理 7
 最大 4
 サポート 4, 11
 省電力 62
 タイプ 4
 追加 7
 場所 8
 バック・アップ 38
 表示ライト 19, 20
 参照: ハード・ディスク・ドライブ
媒体アクセス制御アドレス 3, 64
ハイブリッド RPL 32
バス
 ISA 3
 PCI 4
パスワード
 管理者 7, 58
 始動 7, 53
 使用 53
 本体の始動 21, 55
 忘れ 60
パスワード・プロンプト
 自動判別 55
 非表示 (無人) モード 53
 表示 (待機) モード 53

バック・アップ、ハード・ディスク・ドライブの
38
バッテリー
交換 37
障害メッセージ 78
廃棄 37
発熱量 14
パラレル・ポート
使用可能な 11
変更、設定値の 51
モード 4
問題 100
ECP/EPP 4, 51
SPP 4, 51
反射光を減らす 18
反射防止フィルター 18
ピープ音 21, 73
日付、設定 46
ビデオ
参照：グラフィックス
ビデオ・グラフィックス・アレイ (VGA) 48
標準パラレル・ポート 4, 51
表示ライト 19, 20
疲労 17
ファンの問題 98
プラグ・アンド・プレイ 5, 11
フラッシュ、BIOS 33
フラッシュ・メモリー 33
プリンターの問題 101
プロセッサ
参照：マイクロプロセッサ
ベイ、ドライブ 8, 11
ヘルプ 109
ポート 10
ポインティング装置の問題 99

〔マ行〕

マイクロプロセッサ
アップグレード 2
速度 2, 11
標準 2, 11

マウス
自動始動モード 54
使用方法 23
シリアル・ポート 23, 54
清掃 36
パスワード・プロンプト非表示 (無人) モード
54
ポート 23, 54
問題 99
ロック 53
マルチカラー・グラフィックス・アレイ
(MCGA) 49
メッセージ、エラー 72
メモリー
カウント 21
キャッシュ 11
構成エラー 79
サポート 11
システム 2
使用可能な 73
ビデオ 11
標準 2
問題 99
DIMM 11
モデム
シリアル・ポート/モデムの着信 63
モニター
解像度 47
サスペンド・モード 62
省電力 61, 62
スタンバイ・モード 62
設定値 47
調節 18
ちらつき 47
配置 18
非表示 (無人) モード 62
問題の解決 96
リフレッシュ速度 47
DDC 標準 47
モノクローム・グラフィックス・アダプター
(MGA) 49

問題

解決 71

始動 21

問題解決 71, 109

〔ヤ行〕

ユニバーサル・シリアル・バス・ポート 5, 11

〔ラ行〕

ライザー・カード 4, 11

ライト、インディケーター 19, 20

ライトが点灯しない 98

リチウム電池の使用上の注意 78

リフレッシュ速度 47

レーザーの安全性について xii

レベル2 キャッシュ 2

録音、音声の 102

ロックする、キーボードを 54

〔ワ行〕

忘れ、パスワード 60

C

CD、使用方法 30

CD-ROM ドライブ

使用方法 29

タイプ 4

追加 7

CGA (カラー・グラフィックス・アダプター) 49

D

DDC (ディスプレイ・データ・チャネル) 47

DHCP

アクティブにする 66

エラー・メッセージ 107

システム管理機能 3, 11

使用可能または使用不能 65

DHCP (続き)

定義 65

DMI

機能 32

システム管理機能 3, 11

ブラウザー 32

DPMS (ディスプレイ電源管理シグナル) 61

E

ECP/EPP 4

EEPROM 33

EGA (拡張グラフィックス・アダプター) 49

EIDE ハード・ディスク・ドライブ 4

I

ISA

拡張スロット 11

バス 3

L

LAN 状況ランプ 19, 20

L2 キャッシュ 2

M

MAC アドレス 3, 64

MCGA (マルチカラー・グラフィックス・アレイ) 49

MGA (モノクローム・グラフィックス・アダプター) 49

P

PCI

拡張スロット 11

バス 4

POST

エラー・メッセージ 74

更新、ネットワークを介した 3

POST (続き)

始動時 21

説明 73

メッセージ表 77

POST/BIOS 更新

参照：更新、POST/BIOS の更新

Q

QAPLus/PRO 5, 103

R

RPL

エラー・メッセージ 105

機能 32

システム管理機能 3, 11

始動時 21

使用可能または使用不能 65

定義 65

取消し 66

S

SMART ハード・ディスク・ドライブ 4

SPP 4

SVGA (スーパービデオ・グラフィックス・アレイ) 47

T

TSR プログラム 104

V

VGA (ビデオ・グラフィックス・アレイ) 47, 48

W

Wake on LAN

機能 32

システム管理機能 11

Wake on LAN (続き)

自動パワー・オン 63

設定 69

定義 69

数字

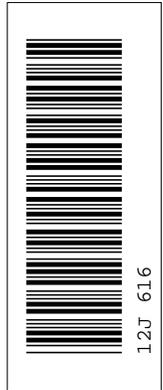
2 次キャッシュ 2

3 ベイ設計、定義 xv

4 ベイ設計、定義 xvi

部品番号: 12J0616

Printed in Japan



日本アイビーエム株式会社

東京都港区六本木 3-2-12 〒106
TEL (03) 3586-1111



SA88-5859-